

平成21年3月12日

1. 出席議員

議長 杉原豊喜  
1番 上田雄一  
3番 山口裕子  
5番 大河内智  
7番 古川盛義  
9番 山口良広  
11番 山崎鉄好  
13番 前田法弘  
15番 石橋敏伸  
17番 小池一哉  
19番 山口昌宏  
21番 吉原武藤  
23番 江原一雄  
27番 高木佐一郎  
29番 黒岩幸生

副議長 牟田勝浩  
2番 浦泰孝  
4番 松尾陽輔  
6番 宮本栄八  
8番 上野淑子  
10番 吉川里巳  
12番 末藤正幸  
14番 小柳義和  
16番 樋渡博徳  
18番 大渡幸雄  
20番 松尾初秋  
22番 平野邦夫  
26番 川原千秋  
28番 富永起雄  
30番 谷口攝久

2. 欠席議員

なし

3. 本会議に出席した事務局職員

事務局 長 末次隆裕  
次 長 黒川和広  
議事係 長 川久保和幸  
議事係 員 森正文

4. 地方自治法第121条により出席した者

市			長	樋	渡	啓	祐
副		市	長	古	賀		滋
副		市	長	大	田	芳	洋
教		育	長	浦	郷		究
総	務	部	長	大	庭	健	三
企	画	部	長	角			眞
営	業	部	長	前	田	敏	美
営	業	部	理	伊	藤	元	康
く	ら	し	部	國	井	雅	裕
こ	ど	も	部	藤	崎	勝	行
ま	ち	づ	く	松	尾		定
山	内	支	所	永	尾	忠	則
北	方	支	所	岩	永		浄
会	計	管	理	森		基	治
教	育	部	長	浦	郷	政	紹
水	道	部	長	宮	下	正	博
市	民	病	院	古	賀	雅	章
総	務	課	長	山	田	義	利
財	政	課	長	久	原	義	博
企	画	課	長	橋	口	正	紀

議 事 日 程 第 5 号

3月12日（木）9時開議

日程第1 市政事務に対する一般質問

平成21年3月武雄市議会定例会一般質問通告書

順番	議 員 名	質 問 要 旨
16	3 山 口 裕 子	1. 障害者福祉について 1) 共生ふれあいセンターについて 2) 就労支援について 2. 庁舎並びに既存施設の活用について 3. 男女共同参画社会づくり推進について
17	25 牟 田 勝 浩	1. 産業について 2. 周辺部活性化について
18	6 宮 本 栄 八	1. 市民病院問題について 2. 武雄市新工業団地について 3. 経済対策・雇用対策について 4. 教育行政について 5. 都市計画・道路行政について 6. 環境問題について 7. 具約の実行について 8. 合併特例債の活用について
19	12 末 藤 正 幸	1. 安全・安心について 1) 消防について 2) 交通指導について 3) 新型インフルエンザ対策 2. 入札について
20	29 黒 岩 幸 生	1. 合併効果について 2. 市民病院問題について

開 議 9 時

○議長（杉原豊喜君）

皆さんおはようございます。前日に引き続き、本日の会議を開きます。

日程第1 一般質問

日程に基づきまして、市政事務に対する一般質問を続けます。

日程から見まして、本日は29番黒岩議員の質問まで終わりたいと思います。

それでは、通告の順序に従いまして、3番山口裕子議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

おはようございます。登壇の許可を得ましたので、ただいまより3番山口裕子の一般質問を始めさせていただきます。

本日は、1番目に障がい者福祉について、2番目、庁舎並びに既存施設の活用について、3番目、男女共同参画社会づくりの推進について、お尋ねいたしたいと思います。

1番目に、障がい者福祉について。

昨年来、我が国の社会情勢は、アメリカのサブプライムローンに端を発した世界的な金融危機のあおりを受け、景気の低迷、メーカーの相次ぐ減産で、各企業の新規採用の取り消し、契約社員の解雇、正社員のリストラなどが起こっております。このことは障がい者の就労にも大きく影響を与えます。ただでさえ障がい者の就労は困難であります。また、新規就労の開拓などについても、各作業所など大変な努力がなされているところでありますが、本当に各作業所も大変厳しい状況に置かれております。また、作業所の内職的な仕事もあおりを受けて、昨年10月ごろから打ち切りになって、工賃も半減しているところでございます。

国は平成18年より、障害者自立支援法の施行により、知的障がい者の地域移行が進められておりますが、地域移行には本当に時間がかかります。佐賀県では平成22年度までに施設入所者の2割を地域移行させる予定で、今後、施設入所者中の軽度の知的障がいのある方は施設を退所しなければならないため、地域に知的障がいのある方々が急増する事態が考えられます。しかし、現状は障がい者が地域で安心して生活できる受け皿は少なく、地域住民の理解も十分でないところであります。

具体的な基盤整備と支援が急がれるわけですが、無理に地域移行を進めれば、犯罪の被害者、加害者になるおそれがあります。安永健太さんの死も、やはりここに理解がなかったために起こった事件ではなかったかなと思います。しかし、武雄市においては、ありがたいことに合併とともに自立支援法による受け皿を山内支所に共生ふれあいセンターとして設置していただいております。ことしの4月で2年になります。就労の場として、相談、支援と交流の場として、これから大変充実した福祉施設となりつつあると思います。まだまだこれからありますが、障がい者の支援にとっては大変ありがたいものであります。ますますこの場所が発展していかなければならないと思っておりますが、この2年に関する市長の思

いというか、見解をお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

共生ふれあいセンターは、議員おっしゃったように、2年間たつわけでありますけれども、もともと3年、もうちょうど3年前になりましたら、市長選に志を立てて出るときに、さまざまなところを回りました。その際に、作業所で働いている皆様方の環境を考えたときに、これは何とかせんといかん、そういったことで、ずうっとそれが心の根のところに残っております。市民の皆さんたちのおかげで市長にさせていただいて、まず最初に、これは社会的に弱い立場の方々を、言い方が悪いかもしれませんが、日の当たるところで笑顔で働いてほしい、そのときに支所の活用を事務方から進言をいただきました。その中で私は、これはもう率直に言って予想以上であります。この共生ふれあいセンターを使っておられる皆さんたちが、もう場所が足りないというところまでなっているということは、これは望外の喜びでありますし、また、私どもといたしましては、行政のできる範囲で、山内支所長もおりますけれども、今一生懸命支援をしております。そういった意味で、共生ふれあいセンターで働かれる方、そして、ここに来られる皆様方が本当にここに根づいてよかったと、山内町が福祉の拠点になってよかったと言っていたように、まだ精いっぱいまた頑張りたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

本当にありがたいことだと思います。なかなか基盤整備が整わない中、自立支援法という制度ばかりが先走って、本当に障がいをお持ちの本人さんはもちろんですが、家族の方、本当それにかかわる民生委員さん方々、本当に不安がたくさんあるところなわけですね。やはり市長がおっしゃるように、率先してこういう場を与えていただけるということは本当にありがたいことだと思います。しかし、なかなか理解という点とか、そういう方に手を差し伸べていただける、それが普通に、自然にそういう社会になっていくことで、ここの支所の中にこういう場があるということが一番よかったんではないかと思います。

一応スタートして、徐々に見直していく、改善していきましょうということでした。あそこも事務的な場所ですので、なかなか作業の場としては使いにくかったりして、いろいろ要望も一応出ておりますので、2つの作業所のほうからは、やはり作業場が本当手狭になったということと、作業形態でないということで、少し改善をしていただきたいなという要望も出ております。

それと、私としても、一番障がい者が最初に戸惑うところは、相談窓口が本当に行きやすいところ、そしてスムーズに、ああ行ってよかったなって、行けるなという形のところが欲しいわけですが、今でも本当ありがたいことですが、やはりそこがオープン施設になっているわけですね。やはり個人の相談ということは、ましてや障がいを持つ方々はなかなか家からも出ることに不安があったり、普通に外に出るといっても困難な中、勇気を出してそこに行くには行けても、あそこの相談がオープン室であれば、とても気になるわけですね。あと、今の現時点では、作業所のほうと、つい立てはありますが、声も筒抜けということと、プライバシーの面も充実していただいて、ぜひとも相談支援センターというところは個室が必要だということを要望されております。受ける側も、あと相談支援の方も、そのようにしていただけたらいいけどというふうに伺っておりますが、その件に関してはいかがでしょうか。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

そのとおりだと思います。相談支援センターの職員の皆さんや相談に来られる方々の話を率直に聞きまして、移転についてぜひやりたいというふうに思っております。なるべく早目のほうがいいと思っております。候補地としては、支所の個室のあるところ、あるいは保健センターがその候補に上げられていますけれども、何よりも私どもが決めるよりは、まず、相談にお越しいただく方、そして、相談をする方々の意見を重ねてきちんと聞いて、いい場所に移していく、来年度の早い段階で移したいと、このように思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

3番山口裕子議員

**○3番（山口裕子君）〔登壇〕**

本当に、支援センターがさらに活用できるものになっていくことを望んでおります。本当に健常であればそういうこと、そんなところでもいかんかねとみたいなことを言われる方もいらっしゃると思いますが、本当に実際、障がい子どもとか、自閉症の子とか、多動の子とかを抱えて、その場へ行くというときにどんなに困難であるかということを知りながら気づいていただきたいなというふうに思います。

あと次の同じ続きになりますが、2番目の就労支援についてお尋ねいたします。

昨日も上田議員のほうで、伊万里図書館の喫茶のことをお話してでしたが、前回、私も述べていたんですが、伊万里市は伊万里養護学校とかの施設があるのも1つと思いますが、とても行政も市民の方も障がい者に対しての理解というか、受け入れというのがスムーズにできているなというのを感じます。就労支援で言わせていただければ、前回も上げましたが、伊万里市の図書館は、掃除は伊万里の里という施設に全部委託されております。本当それが大

きな就労支援となっているわけです。それが一石何鳥もというように、市民の方が一生懸命障がいを持って掃除をしている姿を見るところで、本当にごみを落とす人が少なくなったということの結果も言われます。それと、障がいを持ちながらも働ける場があるということは、本当に本人たちが生きる活力というか、たくさんの方に褒めていただいたりとか、そういう姿を見ていただくことによって、生きる元気が出るという場でもあります。私も前、エポカルとか、そういう掃除、市が支援できるというならば、そういうこともできないかというふうに上げておりましたが、きのうの福祉喫茶あおぞらというの、伊万里市の手をつなぐ育成会という知的障がい者の会の委託によって、そこが経営されています。しかし、内容とすれば、本当に微々たる賃金しか出ておりませんが、やはり親たちのボランティア、それと、子どもたちがそこでウエートレスというか、物を運んだりすることによって、働いているという元気をそこでいただいているわけです。

私も就労支援として以前も言うておりましたが、やはりこのように経済状況厳しいときは、本当どこも大変ですが、弱者に一番しわ寄せが寄らないように、やはり助け合いの心での支援が必要になってくると思います。身近なところを考えれば、山内町の支所の中に2つの作業の施設が入っております。そこも本当、昨年来より工賃が激減して本当大変だと言っておられます。ですから、市としてできることと私も思えば、ほかにいろいろ皆さんも提案があればと思いますが、庁舎の掃除とか、草取りとか、周りの周辺の掃除とかあれば、そういうのも就労支援の1つになるんじゃないかというふうにも思います。やはり庁舎の掃除など、できるものって限りがあるんですが、民間に委託されているお掃除の10%でも、20%でも支援していただけるという形ができないかなというふうにも思いますし、あと企業の方も、きのう、それは小池議員でしたが、バレンタインのチョコの箱包みとか、そういうのとか、本当にお仕事があれば、ぜひとも率先して提供していただきたいなというふうにも思います。今は本当に香典返しの箱に入れたお茶とか、ハンカチとか、そういうのを地道にされていて、もう何百作業しても100円とか、本当そういう世界なんです、やはり仕事をしているという喜びを持つためにも、そういうのが必要になってきますので、そういう支援はいかがかと思いますが、市長の見解をお聞かせください。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

まず、行政、武雄市役所におきましては、これは佐賀新聞等に大きく出ましたけれども、来年度、4月1日から障がい者の方を公務員としてお1人採用するということになります。その上で、行政としてできることはきちんとやっていくということ。

それと、もう1点が、例えば、清掃業務に障がいをお持ちの方というお話がありましたけれども、今現在、清掃会社そのものも障がいをお持ちの方を一定は雇用されているんですね。

ですので、そことの整合性をきちんととらなきゃいけないということにもなります。実際、今市役所も文化会館等も清掃会社の方々がほかとは類を見ないぐらいに頑張ってもらっているんですね。ですので、そういうどういうふうに整合性をとるかというのは非常に悩むところであるんですね。ですので、できることはできると言いますし、できないことはできないと言う、私の性格上申し上げますけれども、ちょっとそこは少し、前、質問いただいて恐縮なんですけれども、もう少し実態の把握に時間を充てていただければと思います。

そして、私どもにできることは、もう1つ、いろんな市からのプレゼントみたいなものがあるんですね。3月の終わりに、例えば、議長と私は友好都市、姉妹都市のセバストポールに参ります。そういったこととか、あるいはいろんなレセプションとかあるときに、今、若楠作業所等の皆さんたちがつくられている見事な、例えば財布であるとか、いろんなクッションであるとか、そういったことを私どもが行政として買い上げて、それをプレゼントとしてお渡ししていくという、これ結構なパイになるんですね。そういったことも、やはりこれはほかとのバランスはありますけれども、障がいをお持ちの方々の所得の維持向上のためにも行政ができることの1つだと思っておりますので、そういったこともきちんとやっぱり考えていく必要があるだろうということで、くらし部を中心にちょっと考えたいというふうに思っております。

#### ○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

#### ○3番（山口裕子君）〔登壇〕

そうですね。作業所でできた商品というか、そういうのも活用していただくということ本当にありがたいことかなというふうに思います。なかなか知らずに、あそこの支所に行って、わあこんなものをつくっておられるんですかとか、行かれた方は感心されて、何かお力になれるボランティアがあったらとか、そういうお声もかけていただけますので、本当にそれはありがたいことだと思います。

それと、やはり整理して、施設とかも受けられる仕事とか受けられない仕事もあるし、やはり障がいによっては、身体障がいの方たちはそういうことはできるんですが、やはりなかなか知的障がい者ということは仕事の幅が狭まるというか、なかなか難しかったりもしますので、本当できることからだと思いますので、そこら辺はよろしく願いいたしたいと思います。

あと本当に自立支援法というのは、施設にとっても大変厳しいものであるとも言われていますが、本当本人たちに言っても、家庭に恵まれている方たちはいいわけですね。両親がいてとか、兄弟も見てもらえてという方たちはいいんですが、やはり工賃というのは多くても、本当に1カ月一生懸命働いても、多い人でも1万円ぐらいにしかならないわけですね。軽度の方が福祉年金をいただけたら月に6万円ちょっとなんですね。その人たちが自立し



て地域でということになれば、うまくいってグループホームというのが利用できたとして、そのグループホームの利用料が今4万円から6万円ぐらいですね、3食そこでいただけて、そこで生活ができてですね。ということは、もうそれを支払ったら生活費はないわけですね。自分の物を買ったりとか、出かけたりとか、そういうお金がないわけですね。だから、就労支援をしないとイケないんですが、なかなか工賃に結びつかないというところです。だから、1カ月作業所とか、いろんなお仕事頑張ってみても、せいぜい月に2,000円とか、3,000円の工賃とかですね。それでも、本人たちは働けるということ、外に出ていけるということで、本当に元気をもたらしているわけです。そういう中、やはり今、自立支援法の見直しが叫ばれているものだと思いますので、御理解のほどよろしくお願いいたします。

それでは、次に行きたいと思います。

2番目に、庁舎並びに既存施設の活用についてお尋ねいたします。

きのうも浦議員からも出ておりましたが、先ほどの相談支援センターの件とかを絡めて、新しく庁舎とか、山内の庁舎周りの社協とか、保健センターの活用をいま一度ここで見直して、活用しやすいものにしていただきたいなと思って質問させていただきます。

まずは山内町の保健センターの活用ですが、やはり今度、山内の老人会からの要望で、老人福祉センターの件が出ておりますが、これも社協の改築が予定されていて、まずはそこだけで狭いということで、保健センターの活用も言われております。あと相談支援センターのそこで働いている方も、できれば保健センターのほうがやりやすいし、利用する方もあそこの方が行きやすいという声も出ております。市長が常々山内町のその周辺を福祉ゾーンとして見るならば、保健センターの活用は、育児サークルもあっておりますので、子育て支援という形でも、その中で十分な活用ができるんじゃないかと思っておりますので、保健センターの活用はいかがなものでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

保健センターの活用は、山口裕子議員と考えを一緒にしています。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

それでは次、それも含めて、それで今回、老人福祉センターということで社協の改築による老人福祉センターというふうに出ております。それでお尋ねしたいと思いますが、昨日も議員から話があっていましたが、13年ぐらいからどこの自治体にでも老人福祉センターというものがあちこち建ち始めたときに、山内町の老人会のほうから、ぜひとも山内にもこういう施設が欲しいということで、本当に10年ほど活発に活動されていたわけなんです、やは

りこういう御時世になりました、合併とともにですね。そして、皆さんがもうそれ以上の厳しい中に、建設予定地だった土地も買っていた、設計もでき上がっていたということは御存じですが、やはりそれ以上のことはもう言われません。しかし、改築であっても、皆さんが本当に望んでいたものに近いものになるように、私たちも努力しなければならないと思っております。その改築が新築とは違いますし、場所も狭くなります。どうしたら一番活用されやすいかということ十分に練っていただきたいんですが、老人会の方々からも言われるのは、やはり次世代育成というこの時代に、本当総合福祉センターが一番望まれたわけです。老人は老人、子どもは子どもとか、そういうふうに分けないで、総合でみんながそこで元気に暮らせるセンターというのがよかったです。そうはいきませんので、総合福祉センターと言って活動していたのに、自分たちだけが老人の場所としていただくのは理解をしていただけるだろうかという心配も持っておられます。それと、こんな厳しい時代に若い者に負担のかかるような施設にならんようにせんといかんという声も上がっております。

あと、もうこれだけ温泉とか、山内にも温泉ができました。一応中にふろの施設を改築ということになっておりますが、そのふろが本当に必要だろうかという声も上がっております。できれば、温泉のクーポン券でもいただいたほうがいいんじゃないかという声も上がっております。

あと、やはり若い次の世代に負担をかけないようにする施設であれば維持費の面も考えられるんですが、老人の方の医療費が軽減になって、介護保険が軽減になるように、元気に過ごせる場としてならば、それは本当に活用できるんじゃないかと思っておりますので、いろんな意見が上がっております。社協の改築が有効になるようお願いしたいんですが、そこら辺で市長の意見をお聞かせください。

#### ○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

我々といたしましては、やはり一番重く受けとめなければいけないのは、一番施設を使われる山内町の老人クラブ連合会、私も何度かお目にかかっておりますけれども、この方々の御意見というのを一番重く承る必要があるだろうというふうに思っております。

その上で、それを支えるのは、山内町民の皆様方であります。そういった意味で、ぜひ山口裕子議員が先ほどおっしゃったような活発な御議論で、ぜひ高齢者の皆様方が使って本当にいいというようなものにしていただくように、意見の集約、統一をちょっとぜひ図っていただきたいというふうに思っております。

我々が一番困るのは、せつかくつくったけど、だれも使われなかったとかというのが一番困りますので、そういった意味で、もう少し時間がありますので、杉原議長や山口裕子議員、浦議員皆さんを初めとして、きのういただいた質問をいただいた浦議員を初めとして、意見

集約について御努力をしていただきたいと、このように思っております。

私どもといたしましては、ちょっと財政上の理由で新たなものをつくるということではできませんけれども、本当に改修してよかったと、そして、先ほど山口裕子議員がおっしゃっていただいたように、保健センターや支所との連動も含めて、これはぜひ考えたいと思っておりますので、格段の御努力をお願いしたいと、このように考えております。

**○議長（杉原豊喜君）**

3番山口裕子議員

**○3番（山口裕子君）〔登壇〕**

やはり私としても、市民病院でもそうありますが、次の世代に負担になるような政策というか、ものとか、そういうのは本当今後は避けなければいけないと、できるだけ負担をないようにと思うわけです。しかし、おふろを備えて、そこで老人の方が元気に交流の場となって、医療費の削減とか、介護保険の削減とか、本当そこが有効活用されるならば、それも負担にならないことだと思うんですね。だから、経費的なことばかりを削減することを気にするのもないかな——ないかなというか、できるだけ削減しないといけないですが、いろいろな考え方があるというところで、そういうことは老人会の方々も大世帯であります、意見が分かれておりますので、そういう統一というか、本当にできてよかったなという老人福祉センターになるように私たちも頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

そこに併設というか、その周りの建設予定地だったところに駐車場整備が始まるわけですね。この駐車場整備できのうも少し出ていましたが、本当にこれはぜひお願いしたいことです。駅前の混雑の解消になるように、その駐車場が活用できるように、私は本当に屋根つきで乗りおりがそこでできるというか、そして、できれば公園ぐらいのものも備えていただきたいなと思います。そのところは全体福祉ゾーンとして、老人の方とか、育児サークルの方とか、高校生、中学生が駅前からおりたり、中学生が登下校になったりとか、本当にその場がそういう場でありますので、ぜひともただっ広い駐車場だけでなく、ただでさえ建築予定地だったところがあくわけですので、ぜひともそこは駅前の混雑を避けるための施設として、あとは憩いができるような施設としてお願いしたいと思っておりますが、そこら辺の市長のお考えをお聞きしたいと思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

ちょうどもう2年ぐらい前でしょうか、三間坂の大渡議員にある集會に連れて行っていただいて、これはもう何とかしてほしいということをお大渡議員も私も受けておりますけれども、いただいた記憶があります。この件につきましては、まず、私が思うのは、利用者の交通安

全の確保がまず第一。そして、次に、やはり殺風景なものじゃいけないということがありますので、先ほど山口裕子議員からありましたような、できればポケットパークというか、公園みたいなものができればいいなと思っておりますけれども、まず、利用者の交通安全の確保をまず第一に考えたい。そして、ぜひこれも御提案をいただければありがたいというふうに思っているんですね。ですので、山内町の皆様方の御意向を踏んで、行政側としては最大限反映できるようにしていきたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

これも十分な検討をして、でき上がることを願っております。

それでは、山内の支所の庁舎のことでお尋ねいたします。

先ほど言いましたように、障がい者福祉のセンターというか、それが入っていて、拡張をお願いしているところでありますが、やはりそこは、もし箱物ができなければ、旧山内町には図書館もなかったし、本当交流の場がなかったということで、そこを活動団体の場にできればということも願っておりました。ぜひとも、内々では開放をされているかもしれませんが、もう本当に2階以上あいております。そして、3階はやっと商工会のほうの活用ができておりますが、議場もあいております。やはりもう市民の方が、市民課とか、総務課とか、そこの受け付けに行って、この部屋があいておりますかという形で利用できる形をとってもらったらいかがかなと思うんですが、議場であれば、市長も本当にいろんなところに投げかけておられますし、いい使い方がないですかというふうに投げかけておりますが、1つ、若者とかよく年ごろになると、バンドを組んだりして、周りに騒音が出てうるさかったりしますので、そういうところの議場の活用ができないかとか、あとは何か詩吟とか、歌とか思い切り歌いたい方とか、そういう方にもう少し開放して、どうぞという形で、整備したりとかなんとかなにはお金かかりますので、今の状態で使えるというならば、どうぞという形で開放したらどうかということと、あと老人会の方たちが何でそういうセンターが欲しいかというのは、老人会の人たちが集うときに、やはり改善センターとかいろんなホールとかを借りようとしたら、いすとか、テーブルを出したり、直したりと、そういうのが本当大変なわけですよね。だから、備わったところで会合ができるということは、それと、1週間前とか、何週間前に予約をとったりしなくて、今あいていますかということで見ると、本当の活用になっていくと思うんですが、ぜひともそういう使い方ですね。減免措置のできる場所は無料でという形、あとは個人的なお謡とか、お花の教室とか、そういう形で使いたいという方は1人100円とか200円、わかりませんが、そういう形で1時間幾らというふうな利用の仕方を打ち出すと、それも収入にもなりますし、いつまでもどうしようかという形ではなくて、それをやられてみたらどうでしょうかということでお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと2つに分けてお答えしたいと思います。

まず、支所の空きスペースについては、今支所の総務課にお申し出いただければ、事前予約なしでも、あいていれば、市民団体の方が会議等に御活用いただけるようになっております。ただ、今のところ、管理の都合上、執務時間内、17時過ぎまででしたかね、でお願いしたいというところであります。

そして、先ほど御提案のありましたバンド、とてもいいと思います。あと私、先週、大正琴の公演会に行きましたけれども、末藤議員もいらっしゃいましたけれども、行きましたけれども、非常にいいんですね。あれ実際どこで練習されているんだろうとと思っていましたので、できれば若い方々だけじゃなくて、大正琴は75歳以上の方も結構いらっしゃいます。そういう意味で議場は——この議場はちょっと違うと思いますけれども、山内の議場、防音設備も多分すぐれていると思いますので、そういう意味で、ちょっと一回使っていただきたい。それで問題が出た場合は、またそこで対応しよう。要するに、これどうかな、だめかなというところではなくて、まず使ってみて、だめだったら、そのときにまた考えるという方向で検討したいというふうに思っております。

ただ、問題は、支所の場合はいろんな文書等があります、そういう意味で、夜間のセキュリティの件については、ちょっとこちらのほうでも検討をいたしますけれども、まず、方向性としては、これをごらんになっておられるバンドの皆さんであるとか、オケの皆さんであるとか、一回ちょっと使っていただければありがたいというふうに思います。その制度設計を開始したいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

そのままにしていることが本当に一番もったいないことで、もう市民の皆さんはこういう状況の中、あれが欲しい、これが欲しいとか言うのを本当控えておられると思うんですね。それで、一番もったいないって、もうあれを有効活用しないといけないということが一番今寄せられている声だと思います。内々では何か貸してあるということですので、これを本当に皆さん、いい使い方があればという形で打ち出されたがいろんな提案があるし、始めてみるのが一番じゃないかと私も思いますので、よろしく願いいたします。

あとそういうことで、山内のことばかりになりましたが、しかし、あるものの活用だし、自分たちの財産ですね。本当に皆さんがもったいない、もったいないと言われております。だから、駐車場も有料で貸したりとか、駐車場も広くなりましたし、今後、駐車場をそこに

つくられる場合も、有料で提案されたりとか、いろんな形で活用をしていただきたいというふうに、投げかけていただきたいというふうに思います。

あと、こんな厳しい中に、ちょっと質問するのはどうかなとも思ったんですが、いつも気になっているところですので、質問させていただきます。

行政視察とかに行きますと、いろいろな問題ありますが、庁舎を訪れたとき、やはりいろいろ行って、自分の我が庁舎に帰ってきたときに、ああ、もう40年以上たつこの庁舎を本当に業務に支障も出てきていないかなという心配も私がありますし、建設課とか、環境課とかもプレハブみたいな形で道挟んでできているし、今回の議会で市長報告あったように、もう行政視察のお客さんが185回の1,673人というふうに報告もありました。何か、ああ、こがんとところで頑張りよらすねっていう——ああ、すみません。いいほうになるかもしれませんが、本当にもう少し職員の方もそうです。物すごく頑張ってくださいしております。何か息苦しくなるようなというか、そういう感じを、すみません、私だけかわかりませんが、でも、締めるところは締めて、節約するところは節約して、投資するところは投資というか、本当この庁舎は考えなければならないんじゃないかというふうに思います。

障がい者の問題も1番目から上げておりますが、もうここは既に3階、4階には行けないところというふうにもなるわけですね。エレベーターがありませんので、幾らお手伝いしますよとか、そう言っても、もうここは障がいを持っている方は行けないところというふうになってしまうんですね。だから、この時代にそういうことを考えてみれば、新市になって3年になりましたが、皆さんはどこかでそういうことを考えがとおりになるんじゃないかなとも思っていますが、本当に大変厳しい中、やはり本庁の新築の計画ですが、市長はどういうお考えがあるかなというふうに思っております。聞きたいところですが、いかがでしょうか。

#### ○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

私もさまざまところで仕事をしてまいりましたけれども、これほどおんぼろなところは私もないんですね。（「おんぼろじゃない、古い」と呼ぶ者あり）古い、古いという、多分言葉は一緒だと思うんですけどね、と思っております。ただ、ちょっと御理解をいただきたいのは、これ庁舎の今建てかえをするときには2つ問題点があります。

1つは、私が着任したときに、もう向こう3年間で財政破綻の危険性、可能性が非常に高いということで、財政危機宣言を出して、今さまざまな行政改革の努力をしている途上にあります。それともう1点が、もし、庁舎の建てかえを私どもが打ち出した場合に、果たして市民の皆さんたちの御支持を得ることができるかどうかということでもあります。あくまでも市民あつての武雄市政でありますので、そういった意味からすると、その御理解を賜れるか

どうかということについては、私自身としては今のところ自信がありません。そういった意味から、やはり今あるものを活用しなきゃいけないということを思っております。

ただ、ちょっと気になるのは、耐震でありますね。そういった意味からすると、もう43年経過するということになる、もうますます耐震の上からすると厳しいと。これは市民の皆様方も多く使われているということでもありますので、その課題と行革の問題と世論の支持をきちんと統一ができるのかということについては、ちょっと今のところまだ難しいのかなというふうに思っておりますので、これは支所の活用も含めて、オール武雄市でちょっと今のところ考える必要があるのではないかというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

本当にだれでもそう思っていることだと思いますが、あるものを有効活用して、節減できるところは節約して、本当にここに投資して十分に活用、その庁舎があることで、またさらなる発展というか、元気になることにつながると思いますので、ちょっと質問させていただいたわけです。行政視察に行って、ああ、ここまで維持費とかかかっているのだとか、もうすごい庁舎もありますので、ああ、我が市はよかったなというふうに胸をなでおろすこともありますので、そこら辺含めてですけど、やはり今の耐震の問題もそうですが、障がいを持った方が行けない庁舎ということは一番問題があるかなというのも含めて質問させていただきました。

次に、3番目に移ります。

男女共同参画社会づくり推進についてですが、これも昨日、上田議員から出ておりました。先月の2月14日に武雄市男女共同参画啓発イベントが、「男女がよきパートナーとして共に生きるために」というテーマで開催されました。本当に毎年啓発活動として行われているんですが、これは旧武雄市のときから開催されていると思います。ことはPTAの研修、それと飛龍窯の件、モーターショーとか、いろんなものが重なっていたと思うんですが、たくさんの方の参加がありまして、例年になく男性の方の参加も多くて、盛大に終わることができたと思います。本当に意識が高まってきたんじゃないかというふうにも思われます。

平成11年6月23日から男女共同参画推進基本法ができ上がり、それにのっとり武雄市も男女共同参画計画が策定されています。それは武雄市男女共同参画推進市民会議と武雄市男女共同参画推進本部会議という形で、市、各担当所管にそれが十分施策、実施がされるような形で今男女共同参画課もあるわけですが、一応人権の尊重と男女共同参画の意識づくり、男女共同参画の社会環境づくり、男女のパートナーシップの輝くまちづくりということで、目標値を掲げて、市長初め努力していただいているところであります。市の審議会、委員会など、女性参画促進を努めて進めていただいで、やはり平成18年は30.2%という形で進んでお

りますが、市長にとって、今の男女共同参画社会づくりの思いというか、考えというか、状況ですか、そういう見解をお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

男女共同参画は2つの側面があると思います。

1つは、最先進国のスウェーデンのように、先ほどおっしゃいました、例えば、審議会ですよね、私は公約で、例えば、審議会の女性の構成比率は40%という目標を立てております。先ほど議員御紹介があったように、今のところ、31%まで来ているので、こういったのは順調に進んでいるということ。だから、数字の問題と、もう1つは意識の問題だというふうに思うんですね。ですので、やはりこれは語弊があるかもしれませんが、地域によってはまだ男尊女卑の部分が結構あるなというところがやっぱりあります。そういった意味からすると、女性が変わることももちろん大事ですけども、それ以上に、男性が変わる必要がある、私も男性ですので、変わる必要があるだろうというふうに思っております。

その意識の改革、改善をどういうふうにするかというのが私にとってもまだ道半ばなんです。ですので、まず大事なものは、とにかく見える形で数を上げていくことです。上げていって、そうすると、必然的に恐らく男性の意識、なканずく女性の意識も変わっていくと思いますので、やはりこれはいろいろ御批判あるかもしれませんが、まず、比率をちょっと上げていくという施策をこれからも打っていきたいというふうに思っております。数が変われば質が変わっていくというのは、私の今の持ち得る見解であります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

男女共同参画といったら、女性だけの問題ではなくて、本当に誤解も多いわけですね。正しい理解をしていただきたいと思って、やはりこういう啓発イベントがあっていると思うんですが、女性が強くなるということではなくて、男女が自立できる社会の確立から始まっているわけですね。このような経済悪化の時代、家族を養う責任を男性に押しつけることだけでなく、多大なプレッシャーを与えて特に男性を追い詰めることになり、働き盛りの40歳から50歳の男性の自殺者がふえているとか、男は泣き言を言ってはいけないとか、男は強くなければいけないという教えられたことが、本当に中学生、高校生で悩む子どもたちも男の子はスクールアドバイザーのところに行けないわけですね。そこに来るのは女の子が多いわけですね。というふうに、何かそういう慣習とか、男は泣き言を言ってはいけない。だから、早く解放をされないわけなんですね。だから、多大なプレッシャーを感じて、こういう形が



社会的に起こっているという、こういうところの啓発というか、そういうことも含まれているわけなんですね。だから、やはり大事な啓発なんですけど、本当に男女共同参画社会づくりというのは、女性のためだけではない、女性のための政策ではないということに気づいていただきたいと思うんです。男女が互いの人権を尊重しつつ、責任を分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮する社会をつくっていかうという形でイベントというか、啓発がなされているわけでありまして。

そこで、一番私が今回、何でここに上げたかというのは、本当にどうしてもお尋ねしなければならないことがありました。それは、今始まっているごみ処理広域基本計画の中で、佐賀県西部広域環境組合議会のメンバーに女性が一人も入っていないということなんです。22人中すべてが男性なんですね。この構成されたのも本当に19年からなんですよね。もう既に男女共同参画、先ほど言いましたように、推進会議とかたくさん用意されていて、担当部所管、部署は実施計画に基づく施設、政策、事業の実施をしなければならないというふうにうたわれているんですが、どこかがこういう意識がなかったために、このようなことになったと思うんです。4市5町で13人の女性議員がいるわけですね。その中に、ふたあけてみれば、すべてが男性だったということです。本当に女性たちも議員として頑張りたいというのは、やはり自分の身近な生活の中の環境、ごみ問題とか、本当にそういう問題を真剣に考えているわけでありまして。だから、男性とか、女性でそれが不得意とか、得意ではなく、基本的に考えて、この構成がどうしてこういう形になったのかということをお尋ねしたいと思うんですけど、市長、いかがでしょうか。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

ちょっと私が答えるのが適当かどうかよくわからないんですけども、基本的に今回の西部広域の議会、私は副管理者として、伊万里市長さんが管理者、私が副管理者として入らせていただいておりますけれども、確かに男性ばかりなんですね。執行部側も男性ばかりなんですね。これどうやって決まったかということ、さっき古賀副市長に確認をしたところ、やはり各構成団体でそういうふうに推挙が上がってきたということでもありますので、結果的に今、山口裕子議員がおっしゃるような形になったということでもあります。ですので、もうそれ以上の答弁はちょっとできかねます。すみません。

**○議長（杉原豊喜君）**

3番山口裕子議員

**○3番（山口裕子君）〔登壇〕**

本当に本年度も男女共同参画社会づくりという形で予算が174万円上がっております。毎年毎年こういう形で男女共同参画、本当にバランスのとれた社会づくりということで意識啓

発、本当に国も挙げてこういうことはいけないという形になっているわけなんです。だから、多分そこを計画なされるところに、そういう意識がない方たちが一つも気づくことなくおろされたということ、1つはですね。それを受ける側も、それでは、市長と議員2人になっているからということだったと思うんですが、よそからどういう人が出るかどうかわからないけど、そういう形でうちは副市長とか、担当の委員長とか、そういう形で出されたと思うんですが、その以前に、この構成メンバーというのをこれだけ男女共同参画というか、バランスのとれた社会というか、そういう意見が、ごみだからじゃなくって、いろんな意見が出るのが本当に審議がなされていくと思うんですね。そこに13人の、4市5町女性議員がいて、だれも一人も入ることができなかったということですね。

それと、それに私たちも後からこういうことを知るわけですから、もっとチェックを先にする方は伊万里の議員さんたちは女性が入るようにというチェックもされて、このような状態が起こったそうなんです。だから、ぜひとも何のための男女共同参画かというのがあって、毎年予算組まれて、こういうことがなされていて、こういう所管でこういうことが起こっているということは本当に納得がいかないというか、どこで私たちはチェックをするんだろうというふうに思います。本当にやっぱり議会のメンバーが全員男性ということで、大変ショックを受けたわけなんです。市各担当所管とか、それがおりてくるところにこういう意識がないと、こういうことが起こっていくんじゃないかというふうに思います。どこに原因があったのかをきちんと精査されて、今後はぜひともこういうことがないように、ありがたいことに、傍聴行かれた方は、武雄市の出ていらっしゃる議員さんたちは武雄からはよく意見をいただいていますよとかおっしゃっています。それで、本当にバランスのとれた政策というか、そういう意見が出るためにも、そういうことの見直し、チェックをしていただきたいと思います。

やはり勘違いした男女共同参画というか、そういうとられ方が私は多いかなというふうに思っておりますので、ぜひともこういうことを御理解して、今後このようなことがないようにチェックができて、行き届くようにしていただきたいと思いますが、もう一度市長の答弁をいただきたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

まず、御理解いただきたいのは、この西部の広域の環境組合議会においては、もともとモザイク、結果としてこういうふうになったということをご理解していただきたいと思うんですね。

今私どもが掲げる、例えば武雄市の男女共同参画課は、例えば審議会のメンバーであるとか、さまざまところに比率がきちんといっているかというのを見ているわけですね。です

ので、ある意味、私がぜひお願いをしたいのは、これ情報の出し方が悪かったのかもしれませんが、議会があるときは議員の選出ですよ、そのときは、ぜひやはり御意見をその時点でおっしゃっていただくとありがたいというふうに思っているんですね。そうすると、その選出に当たっても女性の皆様方の意見もその時点では取り入れやすいというふうにも思っております。

そういった意味で私どもが反省しているのは、西部広域の関係におきましては情報提供の仕方がやっぱりちょっと稚拙だったのかなということは思っておりますので、山口裕子議員の思い、御意見をいただいて、できる範囲でなるべくこういう構成をしなきゃいけないときとかというのは早く情報を出していきたいと、このように思っております。

いずれにいたしましても、もう1つぜひお願いがあるのは、いろんな審議会とか会議の構成メンバー見てみますと、非常に女性の比率の高い会議と低い会議というのが物すごく2つに両極端に分かれるんですね。見てみると、比率の高いところは積極的に女性が出ておられる。比率の低いところはもうお願いされてお願いされて、その比率になっているということでもありますので、ぜひ参加をどんどんしていただくということも求められているんじゃないかなというふうに思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

3番山口裕子議員

**○3番（山口裕子君）〔登壇〕**

本当に市長も後からわかるというか、チェックできないところ、私たちもチェックできないわけなんですね。よくそれを見てみれば、実施計画に当たる担当所管、そのところの意識がもう既にそこにバランスよく入らなければいけない、30%以上になっている、目標値は40%になっているというところはわかっていらっしやったら、こういうことにはならなかったと思います。

皆様も武雄推進プラン2008というふうに、このようにお金もかけて男女共同参画推進を進めておられますので、どうか一人一人が意識改革をして、こういうことがあればチェックできるような形にしていきたいと思えます。

本当にすべての人が平等に参画できて、明るく元気な武雄市であることを願って、私の一般質問を終わらせていただきます。

**○議長（杉原豊喜君）**

以上で3番山口裕子議員の質問を終了させていただきます。

次に、25番牟田議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。25番牟田議員

**○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕**

議長より登壇の許可をいただきました。若木町の牟田でございます。「議長より登壇の許可をいただきました」という言葉を、もうかれこれ60回ほど使わせてもらっています。約60

回この一般質問をさせてもらっているんですけども、この程度の質問しかできませんけれども、考えてみれば、いろんな先輩方のアドバイス、そして、例えば今この議場の中にいらっしゃる現議員のいろんな質問の切り口、やり方、そういうのを大変勉強させていただいております。本当にありがたいことです。そしてまた、初当選からいろんな資料集めや指導をしていただいた議会事務局を初め職員の皆さん方には本当に感謝しております。さらに、この議会にお送りくださった市民の皆さん方に、できるだけ私の質問が物の役に立つように頑張っていきたいと思っております。

うまくいった質問もあるかなと思いますけれども、やっぱりやりしかぶった質問も結構あります。平成に入って、歴代の市長さんに質問させてきていただいております。その中で樋渡市長は、質問のボールをぽんと投げたら、ぱしっと返ってくるわけですね。大変私も質問がやりやすいですし、市民の皆さん方も、テレビ見ている方々もわかりやすい質問になっていると思います。今からする質問が、市民の皆さん、そして、武雄市の身になることを祈りまして質問に入らせていただきます。

今回出している質問は2項目、1項目めは産業について。産業についてはイノシシとか観光、農業、景気についてお伺い、要望を立てていきたいと思っております。2項目めは周辺部対策ですね。これはもう3月の私の議会の恒例行事になっております。必ず周辺部対策を3月議会には入れるということで、この60回の中ずっと入れて3月議会ではさせてもらっております。きのうも1番上田議員の質問の中で、子どものおらんごたあイベントは寂しかと。やっぱり子どものおらんぎ盛り上がらんばいということを言われておりました。確かにそうだと思います。ちょっと調べました。山崎議員の地元の橘町、現在のゼロ歳児の数は16人です。橘町ですね。これは今までで最低の数字です、歴代の中でですね。小柳議員、古川議員の地元の武内町、ゼロ歳児は20名、今現在ですね。山口昌宏さんの地元の東川登町は昨年と同じ12名。石橋議員の地元の西川登町19名です。杉原議長の一——あとちょっと多いんで名前を呼びませんけれども、山内町は70名のゼロ歳児がいらっしゃいます。ただし、これは人口9,510人に対しての70名ですから、比率は0.7%です。占める割合は0.7%です。北方町、これもいっぱいいらっしゃいますんで数だけ言います。59名。8,303名の中の59名ですから、これは0.6%を割っております。朝日町、これも何人かいらっしゃいますね、59名。朝日町はふえているんですね。地元の若木町、松尾議員もいらっしゃいます。13名。だんだん減ってきております。（「武雄町は」と呼ぶ者あり）武雄町を忘れておりました。失礼しました。武雄町は182名です。この10年間で多いんです。ずっとふえております。減っているところをちょっと中心に言おうかなと思って言いませんでしたけれども、武雄町、これは後から言おうかなと思って数字だけは調べていました。武雄町はこの10年の中でもゼロ歳児の数は多いほうです。この辺のところを要望、質問等を行っていききたいと思います。

では、最初の1番目の質問の産業から。これはイノシシが出ていましたね。イノシシは12

月議会でも私は質問しました。12月議会といいましても、1月にしましたけれども。この本会議の質問の中でもイノシシ出ました。浦議員やったですかね、イノシシ加工所。開所式でイノシシ肉をいただきました。感想はエクセレント、英語を使っちゃいましたけれども、本当おいしかったです。小池議員もおっしゃっていました。ヨーグルトとハチみつに漬け込んだイノシシ肉絶品だったと、あの小池議員と言っちゃおかしいですけども、この農業のスペシャリストが、例えばイノシシと一緒に育ってきたような小池議員が、それがおいしいと、初めてこがんおいしかと食べたばいと言われるぐらい、私もおいしかったです。ですから、せっかくですから、イノシシの肉——肉にはいろんな種類があります。牛、おいしいですね。豚もおいしいです。若楠ポークおいしいです。鳥もおいしいです。その中で、今から武雄市はイノシシ肉をPRしていかなきゃいけない。イノシシ肉と牛とか、ほかのお肉、どのような違いがあるのか。まず、その辺のところをPRを兼ねてお伺いしたいと思います。1個目の質問です。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

イノシシ肉の特徴といたしましては、血液さらさら成分のDHA、ドコサヘキサ塩酸、それとEPA、イコサペンタ塩酸、もう二度と言えないような酸が血液さらさら成分を多く含んでいるようです。それぞれお肉は特徴があります。牛肉は牛肉のよさ、鳥は鳥のよさ、ポークはポークのよさがありますので、そういった意味で、私ちょっとお医者さんに聞いてよかったのは、組み合わせると一番いいと、組み合わせる。ですので、そういった意味で、今の武雄が出しているお肉にさらにイノシシが加わることによって、さらに武雄の魅力が増すのではないかというふうに思っております。血液さらさら。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

血液さらさらというのはいいですね。私は血液どろどろみたいです。

これはちょっと余談になりますけれども、不況の中、売れている物。何でか健康に関するやつはよく売れているんですね。例えば、一番わかりやすいのがWi i フィット、Wi i の中で一緒にフィットネスするやつで、あれ爆発的に売れて、今でも物すごく売れているらしいです。健康に関することですから、血液さらさらというのはもちろんそういうPRができると思いますし、このイノシシのやつをずっとやっていくと。他自治体から、この前、新聞に開所式があった、新聞に載りましたね。ほかの自治体から連絡ありました。見に行きたいと。どういうふうなものかと。伊万里市からも連絡がありました。ほかの自治体からもありました。そして、太良町からもあったんですかね。いろいろな自治体から、もちろん市役所

に直接問い合わせもあったかもしれませんが、我々議員のもとにもいっぱい問い合わせがありました。本当は、例えば、この質問の席で、じゃ、こんなに問い合わせが多いんなら広域圏でやったらどうなんだろうかと、いろんな広域圏でやったら、補助金もいっぱい集まるし、その中心を武雄に、武雄が先んじて手を打ったわけだから、やったらどうかという質問を考えていたんですけども、これはちょっと担当にお伺いしたら、無理だと。というのは、イノシシを売って、何分以内に届けてもらわなきゃいけないという、その時間の都合があると。伊万里の山でとれたのをこっちに持ってくると、その間に肉質が落ちてしまうと、そういう問題があるんでちょっと難しいですというふうなことをいただきました。実際、武雄市はそうやって新聞に大きく取り上げられています。

長崎県の江迎町でイノシシを約10年ほど前からそうやって加工して売っているところは、酒屋さんで、私、ずうっと昔からの仲間です。そして、これも10年ほど前に行きました大分県の宇目町ですね、トトロの里とかいろんなことをやっていらっしゃるところなんですけど、そこもイノシシラーメンというやつをもう既に出されていました。各地で、広域圏がだめで、伊万里市さんとか、ほかの鹿島市さんとかなんとか、同じような加工所をつくって販売されたら、やっぱり競争になるわけですね。そういう中で、どういう手を打たなきゃいけないか。これも昨日、繰り返しになりますけれども、浦議員の質問のときに、これだけニュースバリューになって、武雄の名前が売れたと。レモングラスという販売拠点を持っているから、そっちのほうでやりたいというふうなことを言われていましたけれども、1つ、こういうことをやったらどうなんだろうという御提案でお伺いなんですけれども、これも1番議員のきのう質問ですかね、上田議員の質問で、武雄駅というのを物すごくきのう取り上げられましたよね。そこで、はたと考えました。佐賀県で今どういうふうなものを、食がヒットしているんだろうと、全国で見ても。佐賀でいろいろ、有田の、前ここの議場で言いましたけれども、焼カレーという駅弁ですね。駅弁です。武雄にイノシシの駅弁をいち早くつくったらどうなんだろう。これもインターネットで調べたら、全国で今1例だけあります。兵庫県の篠山口駅でやっている。ただ、これは昭和66年からやられているわけですね。唯一のイノシシ弁当らしいです。（発言する者あり）失礼しました。昭和じゃないです。1966年、昭和42年から。それでも唯一だそうです。ただ、九州・山口含むまで、例がないと。そういう中で、今度、10年後、9年後になるかもしれませんが、新幹線が来る。それまでに武雄のイノシシ弁当というやつをいち早く手を挙げたら、今からいろんな開発に着手したら、それはもういい効果を及ぼすんじゃないかと。これやっていないからニュースにもなると思います。そういうふうな、我々子どものころ、鳥栖に行ったら、シューマイというのが頭の中にある、今でもあるんですね。鳥栖はついでに立ち食いそば、うどんも有名だったけど、やっぱり印象に残っているわけです。今、デパ地下、東京によく市長行っていらっしゃると思うんですけども、私もたまに行ったとき、デパ地下で全国の駅弁云々というやつをやっていますよね。

そういう中で、そういう駅弁の開発、イノシシに関した、それにレモングラスとかプラスして、イノシシの駅弁というやつを今から開発したら、10年後の新幹線開通、そして、今現在の武雄としての情報発信としてできると思いますけれども、この辺のところのお考えはいかがでしょうか。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

大賛成です。私が思うのは、イノシシのお肉を、例えば、そばろにするとか、現に京都ではそばろ、イノシシ肉のミートソースを食べたことあるんですね。物すごくおいしいんですね。ですので、弁当ですので、例えば、そばろにするとか、しぐれにするとかというふうにして工夫をすることによって、ぜひイノシシの駅弁を武雄の1つの特産品にしていきたいというふうに思っています。その上で、ぜひこれ新幹線の活用プロジェクトの中でいろんな試食会とか、いろんなことをしていただければありがたいというふうに思っているんですね。みんなでつくる弁当だというふうに思っています。

そして、何も私どもはイノシシだけをしようというふうに思っていないんですね。実はカレーが一番相性がいいのは、若楠ポークであります。ですので、今有田焼カレーをつくっているところと今、おととも会いましたけれども、「一番カレーに合うのは何ですか」と聞いたら、実はポークらしいんですね。ですので、若楠ポークはそのカレーとして有田焼カレーの2匹目のドジョウとして、若楠ポークを活用していくと。世界に誇る佐賀牛、佐賀牛についてはまだいろんな活用があると思いますので、押しなべて3つ並べてしていきたいと、鳥ももちろんありますので、そういった意味で含めてやっていきたいというふうに思っております。

イノシシについては、先ほど申し上げたとおり、駅弁第1号として、九州の第1号として開発をぜひしていきたいというふうに思っております。これうちの担当がちょっとどこかまだわかりませんが、食育課じゃないのかなという気がしますけれども、行政としてもできることはしていきたいというふうに思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

25番牟田議員

**○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕**

これはもう1つは、もうニュース性ですね。やっぱりそういうことをやっていた。有田の焼カレー、確かにおいしいですけども、そういうことでぜひ開発に着手して行って、九州でそういうふうな有名になっていただければ。先ほど言いました、市長もおっしゃいました有田の焼カレー、これはもう有名になりつつあります。そういうのに負けないような形でやっていただきたいと思います。

続きまして、観光のほうに移ります。

さっきのも観光のほうなんですけれども、これまで、今までの質問の中でいろんな話が出てきました。不況の話出てきました。「冬来たりなば春遠からじ」と。やっぱり今冬かもしれませんけれども、春は近いと。実際、もう気候的には春に近寄ってきております。話題の定額給付金も市内にお金が循環するのは大変即効性があることだと思っておりますけれども、景気の刺激になると思います。即効性がある、景気が悪い中、即効性があるから、それも定額給付金という形でされたと思うんですけれども、即効性があるというものの中で、1つちょっとこれは市長にお伺いなんですけど、こういうのはどうかということなんですけれども、4月からE T Cが1,000円になります、E T Cで行くと高速道路が1,000円になります。どこまで乗っても1,000円です。例えば、山口県から武雄に来るのも1,000円、福岡から、土日の観光シーズンのときですけれども、1,000円になります。そういうE T C1,000円時代に、観光の土日ですね、そういう時代のマイカー客の取り込み、これネットでも調べました。私が調べた限りは、このE T C1,000円、マイカー客に対しての、例えば、商業施設ありますよね、1,000円時代にもうかるにはどうしようという、商業施設はいろいろ考えられるところありますけれども、自治体としてE T C1,000円に対しての事業を取り組んでいるところはまだありません。例えば、E T Cを利用して来た客が、例えば、そのE T Cカードで来たという証明をすれば、何らかのいろんな事業とか、イベントじゃないですけども、そういうことができるかと。自治体としてE T C1,000円時代。これはさっき言ったように、即効性があるわけですね。4月からもう来ていますし、ゴールデンウィークも目の前に迫っています。そういう中で、このE T C1,000円時代の行政としての、観光客は巻き込んでもらっても構いませんけれども、全国でまだどこもやっていない、そういうふうな事業をするということは、市長はどのようにお考えになられるでしょうか。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

ちょっと今承ったばかりですので、今思うのは、ぜひこれ商工会議所と観光協会と私ども行政で1回ちょっと話をしたいというふうに思っています。そして、これはという案があったら、これはぜひ教えていただきたいと思うんですね。今、私が御質問を聞きながら思ったのは、先ほど山口裕子議員からあったように、障がいをお持ちの方々がつくっておられる物を私どもが例えば買い上げて、そこに例えば、レモングラスなりのポプリを入れて、それをドライブ、レモングラスって結構眠気覚ましにもなるんですよ。ですので、それをお渡しをするであるとか、いろんなことが多分考えられると思うんですよ、いろんな政策とミックスさせて。ですので、ぜひ非常にいい案だと思いますので、私は取り組むということであれば、日本で最初に取り組むことがニュースバリューが出ると思いますので、なるべく早く



検討に着手をして、できればゴールデンウイークに間に合うように打ち出していきたいというふうに思っております。

いずれにしても、一回ちょっと観光協会、そして商工会議所と話し合う場をつくりたいと、このように思っております。貴重な提言をありがとうございます。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

いい案が出てくると思います。私も考えましたけれども、なかなかいい案が出ないで、これはもう市長に直接お伺いしようと思って。そういうふうに即効性ですね、景気がこうやって落ち込んでいるので即効性。旅館、観光、いろんなところから出てくると、そういう即効性がある、そして、ニュースバリューがあるということで実現していただきたいと思います。

続きまして観光のほうなんですけれども、そういうふうな財源はどうするのか。そういうふうなイベントを行った財源、今言いましたイノシシの弁当の開発とかE T Cのイベント、そして、今度2月14日ありましたバレンタイン企画ですね、素晴らしいイベントがたくさんあると思います。そういう中に財源はどうするのか。やっぱり考えなくてはならないと思います。武雄市には今、観光振興基金というのがあります。観光振興基金、これは給湯会計の積み立ての2分の1をずっとやっていくということで、観光ということを目的とした基金であります。この観光基金2,200万円、こういうときこそそれを、こういう時代だから、こういう大変なときだからこそ、財政出動しなきゃいけないんじゃないかと思います。積み立てていくだけではない、やっぱり我々も質問するからには財政も考えなきゃいけないんですけれども、こういう時代、国もやっています、アメリカもオバマさん、すごいやつをやっています。武雄も積み立てがせつかく2,200万円あるから、いろんなイベント。もう本当にこれは市長も壇上で今度言われましたように、飛龍窯の灯ろう、素晴らしい企画だと思います。そういう中、もうこういう時代だからこそ財政出動をしていただいて、その観光基金2,200万円出動していただいて、よりよい観光資源にしていきたいと思いますが、その点に関してはいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この基金の2,200万円を有効に活用して、先ほど出ましたE T C 1,000円時代、1,000円使われた方で、これぜひ武雄に泊まっていただく方ですよね、を中心にして何らかのプレミアムのプレゼントをする事業をしたいというふうに思っております。この方向で観光協会と商工会議所と調整をいたします。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

今、市長がそうやっていろんなイベント、企画をやっていくと。市長はこの3年間で、がばいばあちゃん、いろんなことで、レモングラスで武雄の名前を発信されました。実際、観光大賞ですかね、いただいたということを新聞でも見ましたし、この議会で小池議員もおっしゃってありました。そういう中、せっかく武雄が注目されている。「じゃらん」というリクルートの雑誌があります。旅行雑誌です。その中で九州・山口人気観光地ランキングというのがもうずうっと発表されていて、第10回というのが一番新しいんですか、発表されています。そういう中で、満足度が高い観光地ランキング、これは行ったことがある人のことですね。行って、泊まって、帰った人たちのアンケートをもとにしたランキングです。通常ならば、今まではずっと王様がいました。黒川温泉、湯布院、これはずっと1位でした。1位、2位を分け合っています。今回、10回から、この黒川、湯布院の王国が陥落しまして、1位は別のところになりました。1位はわいた温泉、これあんまり言いたくないんですよ、はげの湯です。（発言する者あり）わいた温泉が、行ったことがあるところで満足度が、黒川、湯布院を抑えて1位だそうです。これは例えば、第1回はどの辺にいたかという、まだまだ下のほうだったんですね。ずっと上がってきて1位になりました。やっぱりこういうのを見ると、何でかとネットで調べたら、やっぱり来た人へのおもてなし。武雄はじゃ何位かと、載っていなかったです。せっかく観光大賞もらって、観光、注目されている。でも、来た人の満足度がやっぱり低い。やっぱり、おもてなし。市長は常々おもてなしという言葉が使われています。せっかく観光大賞もらって、客もふえて、いろんなことで注目されている中、ちなみに呼子が16位に入っていますね。そういう中で、現在、職員が派遣されて一緒にやっている観光協会ですね、そういうところと一体となって対策をしなければいけないと思います。せっかく来ていただいて、ランキングに入っていない。言葉は悪いですけど、呼子に抜かれている。例えば、旅館組合、保養村さん、一体となった、武雄はよかったと言われるような形で取り組まなきゃいけないと思いますけれども、大坪会長が旅館組合さんで協議会をつくって一つで何とか頑張っていらっしゃいますけれども、そういうふうな一体感を持って、この観光の満足度を上げていかなきゃいけないと思いますけれども、これについてはいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今、議会の皆さんたち、そして職員の皆さんたちの努力のおかげで、もう数多くの行政視察、議会視察に全国から今お見えになっていただいています。そのほとんどを私、今対応しておりますけれども、武雄で一番感心したことは何かと聞くと、大体口をそろえて、これは

教育委員会のおかげですけれども、小学生のあいさつのすごいですねと。私どもは小学生が観光客、視察客のおもてなしをしているという意味で言うと、これはあいさつ、元気がいいらしいんですね。ですので、これはある意味じゃ、これ言い方語弊があるかもしれませんが、財産だと思うんですね。私たちはこの小学生のあいさつとかおもてなしの気持ちを見習わなければいけない、大人は。そういうふうに思っております。

そういう意味で、私も小さかときから、あいさつだけはするようにというのは学校の先生とか親からもそれだけを言われたんですね。ですので、あいさつだけで変わっていく。私が以前、小国に行ったとき、わいた温泉ですよ、感心したのは、もちろん観光に携わる方々もそうだったんですけど、地域住民の皆さんたちから物すごくやっぱりあいさつされるんですね。きょう、うちに泊まっていかなねとか、そこまで、半分冗談だったと思うんですけど、言われると、やっぱり悪い気はしないですよ。それが物すごく印象に残っていることもあります。したがって、私たちがしなきゃいけないのは、そういうあいさつ。あいさつだけで変わっていくということはぜひ取り入れなきゃいけない。

それと、私はこれはまだ行ったことありませんけれども、それを実践して24年間日本でナンバーワンの旅館があります。おもてなしのランキングで1番。これはどこかというと、北陸の加賀屋の、私はテレビのドキュメンタリー、本を読んだことありますけれども、とにかくやっぱり従業員の皆様方のあいさつですよ。それと、おじぎの姿勢まで。すべてそういうふうなそこから始まるということがありますので、あそこ1室、高いところになると、もう10万円、20万円でも、もう半年間とか1年先、もう予約がとれない。それくらいはやっている。ですので、そういう意味からして、私どもができる、しなければいけないことは、まず、あいさつ、それが第1番だというふうに思っております。

#### ○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

#### ○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

あいさつ大切ですね、やっぱり。一番最初に会ったときの気持ちの入り方から変わってくると思います。

観光について、いろいろ言いましたけれども、これから観光については、その大賞ももらって、これから伸びていかなきゃいけない分野だと思います。新幹線が来るのを見ながらですね。ぜひ頑張ってくださいと思います。

続いて農業なんですけれども、これはもう先日お伺いした部分の続きなんですけれども、もうすぐ雨期に入ります。6月から田植えが始まり、もちろんもう準備に入っていますけれども、川の井堰、市内には55カ所の井堰があると。その井堰、やっぱり農業には水が絶対必要です。おてんとうさまも必要です。そして、人間の手も必要。その中で、やっぱり水騒動という言葉があるぐらい水はとても重要なものです。この井堰の、前回も質問しましたけれ

ども、改修がそろそろ近づいてきている。例えば、若木町、井堰が何カ所かありますけれども、1つのところの修理ですよ、修理だけで1,500万円ぐらいかかると。これを数十戸の農家で負担というのはやっぱり厳しい。だから何とか、市も厳しい、だから国、県、せっかく財政出動されている時期ですから、国、県にお願いできないものだろうかということをお伺いしましたけれども、その後どうなったかということをお伺いしたいと思います。これは本当に水騒動という言葉があるぐらい水は本当に大切なものです。とても農業をされる方に関しては、本当に関心が高い部分ですので、どういうふうな経過になっているのか、途中経過でよろしいのでお伺いしたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

前田営業部長

**○前田営業部長〔登壇〕**

この土地改良事業の維持管理につきましては、昨日も答弁しましたが、非常に今どこもかしこも老朽化が目立っておりまして、要望が多うございます。そういう中で若木町の川古川の水系には7カ所の堰がございまして、これについて昭和58年から平成元年当時につくられたということで、もう20年以上経過しているということで要望があっております。そういうことで、現地を一応調査しておりまして、まず、油圧系の支障によりまして倒れやすくなっているということ、それから、もう1点は、洪水時に転倒がして、制御に支障があるということで倒れにくいとか、そういう問題点ございまして、今専門家にその調査をお願いしております。

そういうことで、この事業については事業費がかなりかかるということで、きのう言いましたように、国が30%、県が30%、残りを市と地元が20%ずつ負担をするという国の制度でございますので、若木町につきましては21年度に申請をする予定で今計画をしております。

以上でございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

25番牟田議員

**○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕**

ぜひお願いしたいと思います。

産業のところの最後の質問になりますけれども、景気が厳しいというのはさっき言いました。そういう中で2点ほどお伺いしたいと思うんですけれども、2点というのは本当はちょっと定額給付金のことなんですけれども、今度は定額給付金は聞くまいかなと思っていたんですけど、一般質問を見た人がちょっと勘違いされている方が多いんですね。私にちょっと2本ほど電話あって、メールでも1本来たんですけれども、武雄市は商品券で配るとやて勘違いされている方がいらっしゃるんですね。いろんなちょっと聞き漏らして、部分しか見ていなくて。武雄市は商品券でやるのかというふうに勘違いされている方がいらっしゃいます。

ぜひそのところを違うんだよというのを簡単に言っていただきたいのが1点というのと、もう1点は、これはもう前から言っています。これは市長にお伺いしたいんですけども、これから新幹線の工事、例えば国道498号線の工事、いろんな大きな工事が始まります。そういう中で、もちろん武雄市の中のいろんな事業もそうなんですけれども、大きいところにとって、例えば、下請の業者が佐世保から来ている、よそから来ているというのは、やっぱり多く目につくわけですね。これも繰り返しますが、前から言っていた、下請承認届というのを必ず市に出さなきゃいけないんです。これは業者の方からよく聞くと、我々が外に行くときには、物すごい厳しいと。でも、武雄は何でこうどんどんそういうのをぽんぽん承認するんだと。これはもう仕方がないことなんですけれども、やっぱりそういう指導をしていただきたいという声があります。実際、業者さんの声で聞くと、我々がよそに行くときは本当に厳しい、その自治体は地元の業者をできるだけ使うようにということでは言っているけどということでは言われますけれども、これから大きな事業が来る中で、ぜひ地元業者、この厳しい中、地元業者を育成するためにできるだけ指導をしていただきたいということなんですけれども、この2点を産業の部分の最後にお伺いしたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

角企画部長

**○角企画部長〔登壇〕**

定額給付金につきましては、1人当たり1万2,000円、それから18歳以下65歳以上は8,000円のプラスということで2万円になりますが、これは現金、いわゆるお金を支給することによってございますが、その方法は口座振り込みでございます。口座でお金を振り込むと。商品券をお渡しすることじゃございません。そういうことで、4月24日には口座にお金が入るようにいたしたいというふうに思っておりますので、よろしく誤解のないようお願いいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

松尾まちづくり部長

**○松尾まちづくり部長〔登壇〕**

下請承認のことで御答弁いたします。

今、私が担当しているのは土木工事ですけど、土木工事の場合は市外者の下請承認が出たというときは、極力、元請、親会社の業者に地元の業者をどがんかできんとかと。要するに下請をする場合、極力地元業者を使ってくださいということを指導しております。そしてもう1つは、下請承認の願いには金額も出てくるわけですが、その金額についても、発注単価、市が発注している設計単価、これと余りにも差がある場合は下請承認を認めないというふうにしております。

**○議長（杉原豊喜君）**

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ぜひよろしくお願いしたいと思います。

では、産業を終わりにして、続きまして、周辺部対策についてお伺いしたいと思います。

先ほど壇上で言いました各町でも大分減っている。これは4番議員もこの壇上で言われましたけれども、私の地元若木町でも人口はもう、ついこの間まで2,200人を切るばいと、2,000人を切るばいと言って、とんとんと切って、今度はもう1,900人を切るばいと、そういうふうな状況になった。本当に心配になってきます。やっぱり周辺部というのは、例えば、介護比率多いですね。各町、例えば、調べさせていただきましたが、例えば、若木町、地元で言いますと、要支援、要介護の認定を受けている介護者の数だけですけれども、百数十名。これは人口の1割——1割まではいきませんが、それに近づいている。お隣の、例えば、武内町さんはもう200人に迫る勢いで、やっぱり人口の1割に近づいている、要介護、要支援がですね。山内町とか600人に近づいている。そういう状況で、周辺部、子どもが少なく、そういうふうな要支援、要介護の方がますますふえていらっしゃる。何とか町を元気にしたいという気持ちは町民、そしてし、行政側にもあられると思います。

そういう中で、今回の質問は簡単と言えば簡単なんですけれども、我々各地元においても、行政ばかり頼ってもいけない、自分たちも頑張らなきゃいけない。市長がよく産官学とかこう言われますけど、地元も、行政、地元、そして地元組織でも頑張らなきゃいけないというふうに思っております。

そういう中で、いろんな地域を元気にできる、そんな補助事業がいっぱいあるんですね。この前、総務課の課長に出していただきました。いろんな事業があります。ざっと見ただけでも、こういうふうにいっぱいいただきました。もう1つは、例えば、これは自民党の分なんですけれども、地域再生ガイドマップ、これも各種補助金なんかいっぱい載っています。でも、これなかなかわかりにくいですね。この前、総務課に出していただいた、そういう支援事業というのは物すごくわかりやすい。そういう中で、各地元も頑張ろうというふうに各町思っているんで、そういう中でいろんな中核組織、区長会もいらっしゃる、そういう協議会もある。そういう中で、こういう事業がありますよと、補助事業がありますよという情報提供を常にしていっていただきたいと思います。

わからないんですね、どういう補助事業があるというのが。ネット検索します。まちづくり、補助事業、佐賀県と。20万件ぐらい出てくわけですね。もう調べられないんですよ。やっぱり一番のニュースは行政が持っていると思いますんで、ぜひ各町そういうふうないろんな団体があると思いますけれども、情報を定期的に流していただきたいというお願いが1点。今まで余り聞いたことないです。そういうふうな情報が、例えば、公民館に来るとか、その協議会に来るといのは聞いたことがないです。よくあるのが、公民館ば

つくりたか、何か補助事業のなかかいねって。こういうのと言って初めてこういうのがありますよと聞くのはよく聞きます。でも、そういうふうないろんな補助事業、本当に使わないともったいないというふうな補助事業があると思いますので、ぜひそういうふうな情報提供を定期的にやっていただけないものかというお願いが1点と、もう1つは、市役所の窓口です。市役所のその窓口。総務課なのか、企画課なのか、男女共同参画課なのか、よくわからないときがあります。あるときは男女共同参画課が見えられます。あるときは企画課が見えられます。あるときは総務課が見えられる。ですから、そういうふうなまちおこしの部分を総括する窓口を一本きちっとつくっていただいて、例えば、そういう補助事業を出すとか、いろんな相談に乗っていただけるとか、そういう窓口を一本化していただきたい。この2点をお願いしたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

### ○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

### ○樋渡市長〔登壇〕

まず、1点目の情報提供については、実は例えば、トヨタ記念財団であるとか麒麟財団というのは、結構すごくわかりやすいパンフレットがやっぱりあるんですね。私もこれ県に行っていただいてわかったことでもあるので、これちょっとコピーになるかもしれませんがけれども、できるだけ多くの概要、これパンフレットが一番いいと思いますけれども、これは各公民館にぜひ備えつけておきたいというふうに思っています。

それで、ぜひお願いがあるのは、実はそういうパンフレットというのはすぐ時代おくれになっちゃうんですね。長くても、例えば、半年とか、1年というのでまた切りかわっていきますので、先ほど牟田議員がいみじくもおっしゃったように、やっぱりインターネットで調べると非常に早いですね。だから、そういった意味で、ちょっと御高齢者の方々は厳しいのかもしれませんがけれども、そういう意味でこういうのがあるよということについては、行政も頑張りますけれども、ぜひ地域の皆様方でインターネットに非常に近い方々がそういうふうに情報を集めるというのも1つ、これはぜひ行政だけじゃちょっと力不足ですので、この場をかりてお願いをしたいということとはございます。

それと、窓口の件なんですけれども、これもなかなかやっぱりちょっと、率直に言って、難しいなと思っているのは、やはりこういうことをしたいと思っている方々というのは市役所レベルぐらいで言うと、例えば、これは男女共同参画ねとか、あるいはまちづくりということで、結構多くの方々はもう迷わず行けるんですね。これが県とか国になると、なかなか難しいというのはあると思うんですけれども、1つちょっと考えたいのは、県庁で補助金の集約、各財団からの補助金の集約をしている係があるんですね、県庁に。私も行ったことがありますけれども、そういった係、補助金を相談する係というのは1つつくる必要はあるのかなというのは前から思っておりました。ですので、相談窓口じゃなくて、こういう補助金

がありますよという情報を集約する係ですよ。そこでどういう補助がありますかという係は、これはつくっていききたいというふうに思います。

それともう1つ、ぜひお願いがあるのは、そこに集中すると、また業務がかなり非効率になりますので、先ほど申し上げたように、目的がはっきりしているときは、ぜひその担当課に御相談をいただければありがたいと思います。そういった意味での幅広い選択肢を我々としては提供していこうというふうに思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

25番牟田議員

**○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕**

そういった幅広い窓口やっていたいただければ幸いです。我々住民側からも手を挙げてともに頑張っていくようなところが多分いっぱいあると思いますので、ぜひそういうふうな設置をお願いしたいと思います。

続きまして、2点目なんですけれども、先日20番議員が言われました消防の件ですね。消防、本当に今やめるときも次を探さないとやめられないというのが物すごくあると思います。実際、お父さんがやめて子どもが入るとか、そういうふうな状況に陥っています。なかなか難しい。ちょっとこれはお伺いなんですけれども、消防の定数ですね。消防の定数なんですけれども、人口は、例えば、我々若木町でいうと、人口は武雄町の何分の1、朝日町の何分の1なんですけれども、消防の定数は多いわけですね。そういうふうな消防の定数とかの見直し等はどうなっているのか、これをお伺いしたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

大庭総務部長

**○大庭総務部長〔登壇〕**

現在の消防団の定数につきましては、合併前の定数で武雄市が820人、山内町は300人、北方町は350人、これをそのまま踏襲いたしまして現在1,470人というような定数にしております。

この定数の出し方でございますけれども、ポンプ車4台に対して20人とか、小型動力ポンプに対してどれぐらいとか、可住地面積に対してどれぐらいというふうなことではじき出しまして、ほぼその指針に沿った数になっています。ただ、この前の20番議員にもお答えいたしましたけれども、非常に現在そういう団員確保に苦慮をされているというのはもう我々も十分承知いたしております。ただ、この消防団の確保というのは、まさに市民の安全・安心と密接な関係がございます。そういったこともあわせて、今後、地域防災力の低下を防ぐということを前提に、支援団員の拡充とか部の統廃合、これらを含めて定数をどうするのかということ、これについてはもう消防団と十分協議をする必要があると思いますので、消防団と十分協議をしながら検討を進めさせていただきたいというふうに思います。



○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

周辺部対策とか、るる、もう本当先ほど何回も質問したというのも言ってきましたけれども、さっき壇上で武雄町は忘れてるよということを言われましたけれども、武雄町はやっぱりふえているんですね、武雄町。そういう中で、例えば、数年前、どういうことがあったかと言うと、10年ほど前ですかね、御船が丘小学校の増築ですよ。ふえ過ぎて、御船が丘に子どもが多くなって、そこで1億8,000万円ぐらいでしたっけ、何億円かかかりました。そういうことを考えると、武雄に集中するというのはいいことか、悪いことかわかりませんが、集中し過ぎると、そういうふうな学校のとて追加をしなきゃいけないと。例えば、周辺部対策でそういうふうにお金をかけていけば、ひょっとすると地域の小学校とか中学校、教室余っていますので、あいていますので、そういうふうにして散らすことができる事業ができたかもしれない。そういう中で、ぜひ周辺部対策もこれから知恵を絞ってやっていていただきたいと思います。

いろいろお願いしましたけれども、我々議員の一般質問によって市民の生活の向上につながれば幸いです。以上で私の質問を終わります。どうもありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で25番牟田議員の質問を終了させていただきます。

ここで議事の都合上、11時まで休憩をいたします。

休	憩	10時49分
再	開	11時

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、6番宮本議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

これより6番宮本栄八の一般質問をさせていただきます。

前回は市民病院一本の質問でしたけれども、今回はまたもとの状態というんですか、いつものスタイルというんですか、多くの質問を出しております。第1番目、市民病院問題について、2、武雄市新工業団地について、3、経済対策・雇用対策について、4、教育行政について、5、都市計画・道路行政について、6、環境問題について、7、具約の実行について、8、合併特例債の活用についてであります。多いのですが、ベルが鳴る前に終了したいと思いますので、早速質問に入りたいと思います。

市民病院問題についてです。

市民病院問題については、選挙が行われ、一定の結論が出たということになっております。もう来年の1月末までが市民病院ということで、実際どうなっていくものなのかなというふうになるわけですが、この間の病院改革が病院問題になったのは、やっぱり説明不足だったということでありまして、それは市長も認めているところであると思います。そこで、前回、市民説明会を1回開催してほしいということをずっと言いました。そしたら、話がずっと途中から説明をしなくてはいけないということは認められたんですけども、次、市民説明会をしてもらいたいと言ったら、いや、各種団体でもう何回もやっているの、わかっておられるというふうな答えだったと思うわけなんですよね。しかし、各種団体の方はわかっておられるけれども、ごく一般の方はまだよくわかっておられないということで、そういう市民説明会を1回取りまとめてしてほしいということを言いました。そしたら、ずっと話が変わって行って、今度、医師会、池友会、市、三者会議をします。それが専門委員会にかわるものだ。そこにプラス市民ということで、そこで聞けるんじゃないだろうかというふうな整理になったと思います。しかし、今回の議会の三者会議というか四者会議の開催日程をほかの議員がお尋ねのところ、その三者会議の下に担当者会議ですかね、そういうもう1つ、2つあって、どう内容が違うのかわかりませんが、2つ会議があって、そこで整理されたら、その三者会議というのですか、四者会議が行われるということですので、下の整理がつかないとずっと先延ばしになっていくんじゃないかなというふうにちょっと今度感じたわけなんです。これが月に1回、何月何日何曜日と決めていけば、それまでに下部組織の会議を早く済ませて、そこで持っていくということになるんでしょうけれども、今の話を聞いていますと、下部会議で決着したら本会議というんですか、そういうのがあるということだから、ひよっとすれば1カ月に1回と言いながらも、そこがまとまらんと、2カ月、3カ月先になることもあり得るんじゃないかなというふうに感じるわけなんです。そういうふうになると、またそれとは別に、やっぱり市民説明会みたいなやつを1回したほうがいいんじゃないんだろうかと。しないと、結局市民が最後まで余りよくわからなかったなということになってしまうんじゃないかなというふうに思いますけれども、その辺の市民説明についてですね。それと、その三者会議がもうちょっと具体的にどういうふうな、パネルディスカッションみたいにしてされるのか、その辺についてもお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

大田副市長

○大田副市長〔登壇〕

何度か御答弁申し上げましたけれども、現在協議会の立ち上げに向けて、医師会の代表の方と話し合いを継続中であります。本体の協議会が立ち上がるように今後とも努力していきたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

角企画部長

○角企画部長〔登壇〕

市民への説明については、前の議会でも御説明いたしたとおりでございますが、希望があれば、ぜひ言っていただければ、説明会には出席して、るるお話をしているというところがございます。議員言われるように、市民説明会の開催ということで大々的にやってくれという話でございますが、これにつきましては、三者協議の中で話題に上げたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

またこの話で30分も費やすといけないんですけれども、三者会議がすぐ開かれるんですかね。まだ下話がずっとできないと三者会議ができないような説明のような感じがしたんですけれども、近々に行われるんですかね。そして、そこの中で説明会の話が近々にできそうなんでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

大田副市長

○大田副市長〔登壇〕

先ほど申しましたように、協議会の立ち上げに向けて、今担当者レベルで代表者を出していただいて、話し合いを継続しているところでございます。その立ち上げに向けて、相手の理解が得られるように今後とも努力をしていくつもりでございます。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

ちょっとこれもまた長くなるとあれですけども、三者プラスワンというので会議を開かれると先ほども質問を言いましたけれども、その会議というのはどういう形式になるんですかね。市民代表が1人入った3プラスワンになるんですかね。

○議長（杉原豊喜君）

大田副市長

○大田副市長〔登壇〕

何遍も申し上げますように、どういう形で立ち上げるのか、今医師会の代表者の方と話し合いをしているところでございます。市からの代表、それから医師会さんからの代表、それから池友会さんからの代表、それから市民病院職員で構成する協議会を立ち上げたいと考えております。

市民代表については、協議会が立ち上がった後どうするのか、市民代表を入れるのか、またはどういう方たちにどういう方法で入っていただくのか、協議会の場で話し合ったらどうかということを担当者の会議の場で話し合ったことはございます。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

はい、わかりました。そしたら、まだ、もう下話ができないと全体像もわからないということですね。だから、そっちにまず期待するのはちょっと置いておいて、もし知りたければ市のほうに、例えば団体というか、こういう会をしますから来てくださいというふうなことで知るのが一番早いという整理でいいでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

大田副市長

○大田副市長〔登壇〕

説明会の話は、先ほど企画部長が答弁したとおりで理解していただければと思います。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

はい、わかりました。そしたら、できないことをいろいろ言ってもだめですからね、現実可能なことはそういう方法であるということを知っていただいて、聞きたい方はそういうふうにして、市の方を招集して聞くというふうなことで整理したいと思います。

次、ちょっとわからないところというですかね、私は、前も言いましたように、説明を十分ににして、市長はファンタジーと言いましたけれども、もうちょっと企業債を減らした時点で、資産売却と同額くらいのところで民営化にするなり、独法にするなり、そこで決めたほうがいいんじゃないんだろうかと、持ち出しがなくていいんじゃないんだろうかということをおっしゃっていました。ちょっとそれをファンタジーと言われたもので、私はそういうふうにやったがよかったのじゃないかなと思っています。

そして、もう1点は、医療内容がよくわからんということですね。私とすれば、どっちみち民営化するならば、結局差額ベッドがなくて、個室で高齢者対応という敬愛会、そちらのほうは私は断然よかったと思っておりますし、前に言いましたように、医師の確保だって、結局今度2人ふえて10人ということなんですよね。もともとやめる前は12人いたわけなんですよ。それが13人にふえるかもしれないということだったから、そうむちゃくちゃ人的パワーというのですか、そういう部分はなかったんじゃないかなというふうに思っております。

そこで、そのプロポーザルで私が敬愛会がいいなと思ったのは、実際、今の市民病院の入

院患者の構造がどうしてもやっぱり高齢者中心になっていますし、国保の加入者が多いということであって、中心は急性期ではないんじゃないかなと。その分が確保できるのかなという心配がありました。

そこで、プロポーザルのときには、池友会の方は、自分たちの得意分野は救急だから救急を主に広域的にやって、安定したらその地域の病院のほうに戻ってもらうというふうなことを言われておりました。ただ、残念ながら、武雄市民病院があつて、その池友会の病院があれば、武雄市民病院のほうに戻ってもらうということが本当一番いいんでしょうけれども、そっちがなくなるから嬉野にとか、多久にとか、そういうふうに、白石にというふうになるんじゃないかなと私はちょっと考えたわけなんです。しかし、選挙前ぐらいには、蒲池統括監が1次から3次までありますと。1次から3次からすべてやるということは、病院内で急性期をしてもあと長期的な、長期的というよりは出たり入ったりの入院もその同じ病院でできるのかなというふうに思うわけなんですけれども。ただ、そういうことで、1次から3次までできる病院というのが、実際、今の市民病院だって高齢者がいる程度、7割方ですかね、おられると思うんですけれども、そしたら、急性期を3割でやれば問題ないと思うんですけれども、そういう急性期を3割ぐらいでやれるものなのかなと。だから、統括監の言われるような病院が135床で、できるのかなというのが私がちょっと確信が持てないんですけれども、その辺についてどうお考えでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

大田副市長

○大田副市長〔登壇〕

プレゼンテーションでは1次から3次までと言われたようなんですけれども、私どもが池友会のほうから聞いておりますのは、1次医療については、地域医療機関と連携してやっていきたいと、基本的に2次医療領域以上も取り組んでいきたいというふうに聞いております。移譲後も135床ですので、135床のベッドの範囲内でこの医療方針に沿ってやっていただけるものと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

私もそういう、1次が全然ないとは思いませんけれども、2次、3次救急というのが実際できるのかなというのをちょっと自分でも調べたりしたんですよ。そしたら、3次をしている近隣の病院というのをインターネットとかで調べますと、近くでは、佐賀県でいえば県立好生館が541床、佐大附属が604床。福岡県のほうで言えば、福岡大学附属が915床、久留米大学附属が1,186床。こっちは長崎のほうで言えば、長崎医療センターって大村ですけども610床、長崎大学附属856床ということである程度、嬉野でも400床はあるわけなんです。

ね。だから、そのくらいないと、3次医療機関としての役目が果たせないんじゃないかなと思うわけなんですよね。だから、そういうふうな130——行橋でも200くらいあるんですかね、135床でそういう1次から3次までやられている、参考になる病院があるのかどうかをお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

角企画部長

○角企画部長〔登壇〕

よく質問の趣旨がのみ込めなくて申しわけございませんが、私どもの情報収集力不足といえますか、そういうことで、そういうものがあるとはまだ私どもは把握しておりませんが、1つの例として、移譲先の医療法人が運営する病院、新行橋病院、これは240床でございますが、同じような、議員言われるようなことをやっているというふうな話は伺っております。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

新行橋病院って。だから、前回も言いましたよね。新行橋病院のパンフレットにどう書いてあるかということ、重傷者に対応すべくしていると。そして、あとは地域連携しているということを書いてあるわけだから、ここが言われるような1次も2次も3次もという病院の事例にはならないんじゃないかなというふうに思っています。だから、その辺についても、どんな1次、2次、3次を小っちゃく、部門に限って、脳なら脳だけに限って3次をされるのかなという思いもしますし、その辺も市民にわかるように、135床で1次も2次も3次もして、8階建てでヘリポートつきで24時間365日診ますという、その辺の具体的な計画というのはいつ表明できるんですかね。

○議長（杉原豊喜君）

大田副市長

○大田副市長〔登壇〕

質問をお聞きしている中で、誤解があるように感じてしょうがないんですけども、私どもが池友会と話している範囲内では、池友会の医療方針としては、1次から3次までも対応できますけれども、2次医療を中心にやっていきたいというふうに伺っております。したがって、1次医療については、開業医の皆さんと連携を図りながらやっていきたいということでございます。それから、3次医療につきましても、できるだけ対応するけれども、近辺の3次医療機関と連携を図りながら対応していきたいと。結果といたしまして、2次医療が中心となりますけれども、1次、3次についても、できるだけ対応していきたいという方針だと私どもは理解しております。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

その辺がちょっとよく全体像としてわからないんですよ。そしたら、2次を中心だったら、ヘリコプターまで要るのかなと。だから、その辺の整理というんですか、やっぱり3次を中心にして、頻繁に来るからこそヘリコプターが要るんじゃないかなと思うわけなんですよ。だから、その辺がよくわからないんですよ。だから、もっと具体的に、池友会のプロポーザルの内容とその高齢者対応というのも、そのときは、プロポーザルのときには、高齢者のほうはそうでもないような発言をされているんですよ。だから、もうどっちでもいいから、はっきりどうなんだという実態を早く市民に示していただきたいなというふうに思っています。

ずっと食いついていくと長くなりますので、違うほうに移っていきたいと思います。

次、市長が選挙前に、春から常勤15人体制をします。そして、そのうち、内科医を2名入れるということでありましたので、15人でどこがどう変わって、その内科医2名は呼吸器科なのか何なのか、その辺についてお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀市民病院事務長

○古賀市民病院事務長〔登壇〕

医師の数につきましてはですが、この前の選挙のときに市長が、春にはということで公約として掲げていたということでございます。私も今、内科医を含めて、医師の確保につきましては努力をいたしているわけでございます。

現時点でまず申し上げますと、常勤医師が10名ということで、宮本議員おっしゃられたとおりでありますけれども、今後、内科医を含めて鋭意努力をいたしております。早い段階で13名体制まで持っていきたいというふうに考えているところであります。

具体的な科目等々につきましては、先生が確定をした段階で調整をさせていただくということで今努力をしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

確保しているというか、結局池友会が100人ぐらいの余裕が、お医者さんがあるということの説明だったわけですよ。だから、確保じゃなくて、要請をすればいいだけですよ、こちらが呼吸器なら呼吸器と何科と何科を派遣してくださいと。そういうふうな形じゃないんですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっとおっしゃっている意味が、すみません、よくわかりません。要請も確保も結果的にそれは一緒だというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

そしたら、要請をされているということですね。それにまだちょっと向こうが追いつかんということですかね。わかりました。そしたら、できるだけ内科医も希望を言って確保していただいたらというふうに思います。

そして、次4番目、指導料についてです。

今武雄市は池友会と、一言で言えば指導料と皆さん言うておりますけれども、運営指導委託料、これが去年8月からだったですか、今度の3月31日まで月額500万円ということで池友会さんのほうに指導料を払っております。また、新年度もこの500万円を池友会さんに指導料を払っていくということであって、20年度、この委託料の500万円内には一部人件費みたいなことも入っているということでありまして、その部分はこのお金から出すのか、人件費と別に立てるのか、これから出してもいいと思うんですけれども、この指導内容、7項目ありますけれども、病院改革とか医師募集の指導とか、そういう委託範囲というのをもう必要はないんじゃないかなと。だから、その部分が500万円のうちの幾らになっていたかわかりませんが、その部分はもう削減して契約すべきではないかなというふうに思いますけれども、この辺についてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀市民病院事務長

○古賀市民病院事務長〔登壇〕

御指摘のとおり、昨年8月からいろんな面で指導を受けているということでもあります。具体的にはICU室を設置したり、回復期のリハビリの病棟をつくったり、こういった——それから、救急外来につきましても指導等を受けているところでもあります。こういったものにつきましても、新年度におきましても、継続して指導を受けて21年度の病院経営がうまくいくようにということで考えておりますので、さらには看護師等の確保につきましても指導を受けているという状況でありますので、引き続きお願いをしたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕



だから、必要な部分は必要でしょうと。範囲が病院改革とか医師募集とかについては、委託の範囲を――清掃委託を頼むときも、委託範囲を縮めないで削減とか値引きはしてもらえないですね。だから、委託範囲を縮めて削減の交渉をしたらどうでしょうかと。ほかの業者にも、委託料の削減は今までもずっといろんな交渉をしてやっているんですね。だから、これもそういうふうにして、委託料の削減交渉をするべきではないかと。ほかの委託についてもそういうふうに行っているんだから、これについてもやるべきではないでしょうかということをおっしゃるけれども。

○議長（杉原豊喜君）

古賀市民病院事務長

○古賀市民病院事務長〔登壇〕

20年度の委託料につきましては、8月から月額500万円を上限に委託契約をしているところであります。20年につきましても、3月になってまいりましたので、精算の時期が近づいてまいりました。したがって、上限額をすべて支払うということではなくて、概算払いによって支払い、精算で幾らかが戻ってくるというような形になろうかと思っております。

それから、21年度ですけれども、現在の実績等々を見てみますと、若干の減額ができるような状況になっております。お手元にあるかと思っておりますけれども、21年度の予算案では、月額400万円ということで、10カ月分4,000万円の予算をお願いしているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

事務長の答弁に補足をいたします。

私は、委託料を含めて基本的にこの手のものは費用対効果だと思うんですね。この400万円、500万円というのは高い、あるいは安い、いろいろあると思います。その上で、今まで、これはプライバシーにかかわる話ですので、つまびらかには申し上げませんが、助からない命がもう幾つもやっぱり助かっているということについて、私は非常に感謝をしております。あるいは、一般的にこれは治らないであろうと言われたものがきちんと治っていく、そういったことを考えると、私はある意味、これは指導いただく投資として、これは十分に機能を果たしているというふうに認識をしております。これを可決していただいた議会の皆様方に非常に感謝をしております。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

結論的には400万円に減るということですので、ある意味よかったかなというふうには思

っておりますけれども、大体、でも私から言わせれば、市民病院の指導を受けるとかなんとか、そういうのはもともと考えていなかったわけなんですよね。だから、医者不足で赤字に陥っているから、医者を出してもらえば、そこで黒字になれば問題なかったんじゃないかなというふうに私は思っています。

あとは、市民病院が移転した後の川良の現市民病院ですけれども、今回の議会の話では、新型インフルエンザのための何か施設みたいな病院みたいなことを言われていたんですけれども、病院にできればベッド数がとれるのかなと。だから、そこは病院なのか病院でないのかその辺について、その施設というのはどういうものか、もうちょっとお聞かせ願いたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

私は一言も新型インフルエンザの施設にするとといったことを言った記憶がないんですよね。だから、もし言われるのであれば、これは非常に重要な問題ですので、正確に引用をすべきだと思っております。そういった意味で、私は保健所等の指導があつて、新型インフルエンザを収容せしめるところについては、我々要請をされております。そういった意味で、これは医師会とも協議をしながら、あるいはこれ市民病院もそうなんですけれども、協議をしながら考えていく必要があるだろうと。その上で、これは川良の皆さんともよく相談をしなければいけないことでありますけれども、新型インフルエンザの収容の候補の一つとして、今の川良の病院が考えられるのではないかとということを申し上げ、さらに、これは議会の答弁で申し上げましたけれども、中長期的には、これは保健所等の指導、厚生労働省の指導がありますので、新たな病院が受け皿の一つなるのではないかなというふうに思っております。

余り決めつけでそういうことをおっしゃるべきではないと思いますし、今、これも議会の答弁でお答えいたしましたけれども、新行橋病院が新型インフルエンザの受け入れ態勢をしているということで、これはテレビでも放映をされ、そして、これが国、県から非常に高い評価をいただいているということもあわせて申し述べたいというふうに思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

6番宮本議員

**○6番（宮本栄八君）〔登壇〕**

いや、何かそういう話が出ておったから、そういう内容を聞きたいなと思って聞いただけでありまして、そこを新型インフルエンザ対応にしてくれとかなんとかそういうことではありません。だから、そのインフォメーションを知りたかっただけです。

そして、川良の方が判断するというのも、ちょっと川良も重い荷物を背負わされるんじゃないかなと。また川良が二分して、賛成、反対分かれてなるんじゃないかなというふうなこ

とも心配するんですけれども、その辺の地元要望というのは、区長さんを通じての要望みたいな格好になるんですかね。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

なぜそういう御指摘になるのかというのは、私は皆目やっぱり理解ができません。私が申し上げているのは、これ再三申し上げておりますけれども、やはり今の武雄市民病院というのは、川良の皆さんたちを中心にしてかわいがっていただいたという歴史があります。そういった意味で、最も密接不可分にかわいがって、そしてお世話になった川良区民の皆様方の意見、要望をまず聞きたいとそういう、ちょっと言葉は妥当かわかりませんが、協議会をつくりたいというふうに申し上げた次第であります。これをもって二分をすると何かまとまらないとかという、これは見解の相違になりますけれども、私はそのことについては全く理解ができないところでありまして、むしろ、あれを廃墟にしないと、廃墟にさせないということで、私は川良の住民の皆様方、そしてひいては武雄市民の皆様方に喜んでいただくような施設づくりをしなきゃいけない。そのためには、地元の皆さんたちの要望を真摯に承る必要があるというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

そうですね、半分になるかどうかは私の思いというんですかね。だから、それは私の意見として言っただけで、実際なるかどうかはわかりませんが。

ただ、川良の跡地については、もともとプロポーザルのときには、何かあれじゃなかったんですかね、寮とか福祉関係というんですかね、高齢者の施設になるような話ではなかったんですかね。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは議会答弁がどういう意味があるかということだと思っております。私どもは、質問に対しては真摯に答えていることでありまして、基本的に私どもが申し上げたいのは、プロポーザルのときに、確かに寮であるとか、老人の皆様方の福祉施設があるというプロポーザルがありました。これに付随して、最も重い意思決定の場というのは、私は議会だというふうに認識をしております。そういった意味で、川良の皆様方の意見を聞きながら、そして池友会が方針も、これすり合わせる必要があると思っておりますので、その場で決めていこうという話をさせていただいております。そういった意味で、私はさきの選挙のときにもこれは決し

て、あれは何かもう廃墟にするかということと言われていましたので、いや廃墟にはしませんと。何らかの形で喜んでいただくような施設については、川良の住民の皆さんたちをまず第一に聞きながらしていきたいと重ねて申し上げている次第であります。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

いや、何かその跡をそういうふうにするというのを、私が勝手につくったわけじゃなくて、そういうふうなことも聞いたから、そういうふうになるんじゃないかなと私自身も思っていたし、市民の方も多くそう思っていたんじゃないのかなというふうに思っています。だから、そこについては、私が勝手につくって言っているわけでもないですし、そういう話を一つ一つ私は聞きながら、ああ、そうなのかな、そうなのかなと思ってしているだけの話であります。

そしたら、一応病院問題は——ああ、そうですね、病院の単価の話なんですよ。3次救急になれば、5万円程度は通常だというふうなことも言われていますし、この辺の2次医療の各病院施設を見ると3万円程度なんですよ。だから、前回もちょっと言いましたけども、8階建てでヘリコプターつきだったら、1日の入院平均単価は5万円程度必要ではないかなと。そういうふうになれば、ちょっと高齢者対応の施設の135床ではペイしないんじゃないかなというふうに思いますけれども、その辺についてももし御示唆があればお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀市民病院事務長

○古賀市民病院事務長〔登壇〕

診療報酬についての御質問ですけれども、ビルの高さでありますとか、ヘリポートがあるとかないとか、そういうことで診療報酬が決まるわけではないと。（笑い声）

〔6番「いや、決まらん——ペイできる、ペイできないか」〕

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○古賀市民病院事務長（続）

どういう医療を施したのか、それによっては診療報酬の基準がございますので、それによって病院は収入を得るということになります。（「そうだ」「よし」と呼ぶ者あり）

〔6番「ペイできないんじゃないだろうかって言いよっと」〕

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御心配なきように申し上げますと、これ病院は単独で医院のように経営するわけではありません。あくまでも池友会のグループの一つとしてなるわけでありますので、そういった意味からすると、武雄市の財政規模よりも大きい予算規模が池友会にあります。その中でのワン・オブ・ゼムとしての経営になりますので、議員の心配はもうここまでにしていただきたいと、このように思っております。（笑い声）

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

いや、そがん言えば、公立病院でも国が持っているから、国全部の財産からすれば何も大したことはないわけであって、それを財務整理するからこういうふうになっているわけの話でありますので、ちょっとそういう、これ以上聞いても答えは出ないと思いますので、自分自身まだ計算というんですかね、自分なりの計算をしてみたいと思います。

一応、病院問題はこれで終わります。

次に、第2番目、武雄新工業団地についてです。

これについては、これまで旧武雄市の時代からと思いますけれども、新たな工業団地ということで、適地調査とかをしました。適地調査をして、その結果を教えてくれとって、もうそのときは営業部はあったんですかね、何回も聞きに行ったら、ちょっと土地高騰を呼ぶかもしれんから適地については発表はできんということで、ああ、そうですかというふうなことを言っておりました。最終段階ぐらいになったら公表するからというようなことも言っておられました。それをしている間に、今度新産業だったんですかね、広域で取り組めば国が補助するとかそういうことで、伊万里市さんと一緒に山内とか若木とか、そちらの方面に工業団地をするというような話もありました。だから、そっちでいくのかなと。しかし、ちょっと私は、前の県の工業団地、若木の工業団地が1個売れないということで、私が議員になってからずっと売れていないもので、完売できていないもので、ずっと自分なりに研究をしていたわけですね。そしたら、全国工業団地とかインターネットで引けば、やはりインターからすぐそばにあるとか、価格が3万円ぐらいとか、売れるところは大体そういうふうな条件になっているかなということで、若木の第2工業団地は、ここで言ったらいかんですけども、私が調べる中では余りよくないんじゃないかなということは営業部長にずっと言っておりました。

それで、今回北方のほうで、インターにも近いということで、私の第1の問題からすればクリアしているかなというふうに思っています。しかし、私が考えておったのは、もっと平坦地というんですか、今佐賀のクレオパークですか、それも平坦地だし、鹿島のほうの大村方ですか、あそこも平坦地にあるんですね。だから、もう今から山手のほうじゃなくて、平坦地のほうが売れやすいんじゃないかなと私は思っておったわけなんですよ。し

かし、諸事情でそこになったというふうに思いますけれども、その辺の、まだこれはひょっとして売れない場合、そのときつくった当時の議員とか執行部がどこまでどう考えたのかというのは問われるところもあって、私たちが工業用水が使われないのも、その当時使えないんじゃないかなという方も自民党の方にもおられたということで、やっぱり1回点検をしておく必要があるんじゃないかなというふうに思います。

そこで、今度の場所選定の過程と理由についてお教え願いたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

伊藤営業部理事

**○伊藤営業部理事〔登壇〕**

過去の経過については、先ほど宮本議員のほうからるるかいつまんで説明されましたので、現在の新産業集積エリアについての場所選定の経過について少し御説明を申し上げます。

19年9月の県議会におきましての県知事発言で、市町との共同開発による工業団地の制度の導入についてあったわけでございます。その議会終了後の10月に県の企業立地課による自治体説明会が開催をされ、この段階において選定条件が示されました。この選定条件につきましては、県内の地域バランス、それと場所につきましては立地条件、これはもう全体で20ヘクタール以上の用地ほか交通アクセスなど、それと迅速な開発の可能性ということで示されたわけでございます。この段階におきまして、市としましては、先ほど宮本議員御質問のところの説明されましたように、伊万里市との協議を行いまして、市境での造成というのについて県に合い議をしたわけでございますけれども、立地条件の関係で、どうしてもそう不適当だろうということになりまして、その後、3地区について案を出して、県と協議をしてみたわけでございます。翌月の11月に、この3地区を市内において県と合同で話し合った結果、先ほど議員申されましたように、当北方町の朝日町境の宮裾地区が一番インターアクセス等についてもよい場所でありまして、また企業のほうが求めている場所でもあるということで、ここに決定をして申請をし、現在に至っているところでございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

6番宮本議員

**○6番（宮本栄八君）〔登壇〕**

あと残りの2地区は、ちょっと具体的に場所は言わなくてもいいと思うんですけれども、そこも次とかそういうのはあるのかなというふうに思いますけれども、もし教えられればその地区と、先ほど言いました平たん地のほうが、今山手よりも平たん地が売れると思うんですけれども、平たん地にその北方方面で確保すること——北方方面じゃなくて橘でもいいんですけれども、朝日でもいいんですけれども、確保する場所はなかったんでしょうか。

**○議長（杉原豊喜君）**

伊藤営業部理事

○伊藤営業部理事〔登壇〕

地区選定については、国道498号沿いということで選定をして協議をしたわけでございます。

それとあわせてですけれども、議員先ほどおっしゃいますとおり、交通の利便性とかいう問題で平たん地をおっしゃいますけれども、平たん地になればほとんどが農地であります。今回の集積エリアの一番のポイントというのは、迅速な開発区の可能性ということでありまして、なるだけ開発条件の許可条件が少ないところの選定ということでありまして、例えば、農地でありますと4ヘクタール以上になれば、国、農林水産省に協議をし、当然この許可が出るまでは最低1年ぐらいはかかるというふうなスピードの面で劣るということもあって、大体今回の3地区についても山林主体の地域を選定したということでございます。（380ページで訂正）

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

時間的な問題ということですね。そういうふうになれば、我々がもうちょっと早くから選定というんですか、我々自身の準備が不足していたのかなというふうにも思います。

そこで、私自身も含めて、もっといろんなところを考えてやはりしておかんやったのがいかんやったかなと、自分自身の反省も含めて考えております。

それで、次は価格ですけれども、30億円程度かかると思うんですけれども、単純計算して割っていいのかどうなのかわかりませんが、前のインターネットで3万円程度ぐらいでないと売れないんじゃないかなと思いますけれども、今大体ざっと計算して、完成の坪価格はどの程度になれるでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤営業部理事

○伊藤営業部理事〔登壇〕

分譲単価の決定につきましては、造成費用などの諸費用、並びに議員おっしゃるとおり他地区とのバランスというものを勘案して決定をするわけでございますけれども、現在議案を上程しています平成21年度での予算案に示していますとおり、今後実施設計等で費用を算定します。議員おっしゃるとおり、概算の概算というのはそれぐらいかなというふうに思っていますけれども、最終段階においてどれくらいの費用がかかるかというのを決定した上で、価格については決定をしたいということで考えておるところです。

〔29番「議長、議事進行について」〕

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）

前から言うように、なるだけ人の発言中は話したくという気でおるのは事実ですよ。しかし、今みたいな言い方で、今田んぼをとれないのは、時間的だけじゃないんですね。インター近くで探して、適地がない、30町ほどはない。ないですよ。しかし、田んぼをすれば、時間かかると今部長おっしゃったんですね。そしたら、時間がないからあそこに決めただねと決めつけなんですよ。それにちゃんと執行部は答弁しなければ、あそこは時間的に長くかけても一番いい場所だったですね、インターから一番近いし。なぜかといいますと、私地元で一番知っていますけれども、いいですか、今九州のへそは鳥栖だというんでしょう。鳥栖から20分の距離、探してみても、鳥栖はインターおりて20分の距離ないんですよ。だから、20分来れば北方インターまで来ますよと、だからインター近く、この時間差は物すごく気にするわけですね。先ほど執行部も、宮本議員も私初めて一致しましたけれども、若木は遠過ぎるねとおっしゃったんですね。そのとおりなんですよ。だから、一番いいところの一番いい場所で、時間かけても私はあそこが一番いいと思うんですよ。それは、さも田んぼが時間がかかるからしなかったように言われたのに対して、執行部はちゃんと答えてくださいよ。議事進行で。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

ただいまの議事進行につきまして、執行部から再度答弁をさせます。樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私から訂正をいたします。

私もこの選定については関与をしております。基本的に、先ほどあった時間の問題、そして用地確保の問題、これは価格もそうであります。それと、何よりも場所が近いということであります。そういった意味から、与えられる選択肢の中で、今回の宮裾の工業団地はベストだというふうに思っておりますので、自信を持って造成に当たってまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

私はちょっと聞いたのを言っただけですね。（「違う」と呼ぶ者あり）いや、時間としか言われんやっと思ったと思うんですけども。

わかりました。そして、その3万円かどうかはちょっと計算してみないとわからないけれども、まあ大体その範囲におさまりそうだなというふうに言われた意味なのか、言われない意味なのか、もっとはっきり聞いておかないといろいろなりますので、もう一度お聞きします。

○議長（杉原豊喜君）



伊藤営業部理事

再答弁せんでいいように答弁をお願いします。

○伊藤営業部理事〔登壇〕

議員おっしゃるとおり、3万円でおさまるとかおさまらないとかいう価格の答弁をしたつもりはございません。価格を決定するに当たっては、造成費用並びに他地区との、要は価格のバランス、この2つの要素を持って決定をしたいわけでございますけれども、まずもってその造成費用の確定ができていない段階ですので、現段階では考えていないということで答弁したつもりでございます。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

そうですね、それもしてみらんとわからんということになるんですかね。

そしたら、あとこういう不況ですので、売れ残ったときのことについてもちょっと質問をよく受けますので、売れ残ったときの対応というですかね、それも知った上でやらなくてはいけないと思いますので、その辺についてはどうお考えかお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

景気には波があります。今は底値かもしれませんので、この回復に合わせて今からいろんなことをやって、まず売れる努力をしたいと思いますので、宮本議員を初め議会の皆様方の格段の御協力をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

売れる努力はもう当然しなくてはいけないですけれども、一応事を始めるに当たっては、やっぱりリスクの説明もするべきではないかなと、今の世の中そういうふうになっているんじゃないかなというふうには思っています。

○議長（杉原豊喜君）

ここで議事の都合上、1時20分まで休憩をいたします。

休	憩	11時58分
再	開	13時20分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

午前中に引き続き質問を続けていきます。

次は、経済、雇用対策です。今回の不況というですかね、その対策として、一応総合窓口を営業部に設けるということで、具体的な金額的なことは今までなかったんですけども、今回、国からの交付金とかそういうのが来るようになって、財政的にも支援をするという形になったと思います。そこで、4番の松尾議員の質問の中にもありましたけれども、国のほうから3億3,000万円、補正の部分に来ましたと。補正前には204億円だったんですけども、3億円来たんですけども、結局トータルは204億円ということで8,000万円の差しかなかったと。だから、本来言えば、補正前が204億円であれば、それに3億円を足された分で、総額が大きくなって経済波及効果があるんじゃないだろうかと。私もそういうふうに思っておりました。

一応、結局、交付金が3億円来た分が、市債——市の借金とか繰入金を減らしたということで、市の財政としては助かった格好になっているんですけども、今は市の財政を助けるよりも仕事をふやすということですかね、そっちのほうに行ったがよかったかなと思います。ただ、もうここになってから、これをどうのこうの動かせというのは、ちょっと難しいと思いますので、21年の当初予算というですかね、そちらのほうでかさ上げをしていただいたらいいんじゃないかなというふうにも思っておりました。しかし、21年を見れば、昨年度は当初予算は195億円だったんですけども、それも今回の当初予算では185億円ということで10億円減っておりますので、ちょっと20年度補正でもかさ上げできていないし、21年度のほうの新年度予算でもかさ上げができていないと。当然、この後、国から来る分はかさ上げになるとは思いますけれども、その辺でもともと国から来る以外の部分で前年並みというですかね、結局20年度が190億円だから、その辺で上積みができなかったもんかについてお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

今回の国の経済対策に対応した予算編成と当初予算の件でございますけれども、これは4番議員にお答えしたとおりで、先ほど議員おっしゃったとおりでございます。特に21年度も国の経済対策に対応した予算も増額という形で当初予算に組み込ませていただいております。今後、さらに国の経済対策の対応を含めて本市の実情に即した効果的な独自事業の実施も視野に入れながら、今後とも対応していきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

そういうことで、本市の事情を勘案しながらふやしていくということでよろしくお願ひし

ます。

次に、雇用対策、あとどういふのがあつのかなど。予算総額をふやすという方法と、あと具体的にどういふのがあつのかなどというふうにあつたところ、市の職員さんは結構残業が多いというふうなこともお聞きしておりますので、その辺の人的な臨時職員なり、パートになるのかわかりませんが、その辺の市の職員さんの残業を減らしての仕事をつくるということではできないかについてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

多分、市役所型ワークシェアリングというような視点での御質問かと思つてはいますが、市の業務につきましては通常の時間外勤務に係る業務内容につきましては、特に専門性とか連続性があるものがほとんどでございますので、他社への仕事の配分としては難しいというふうにあつております。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

そこを何とか、例えば観光関係といへば作業とかなんとかもあると思つてはいますので、その辺についてはもうちょっと研究をしていただきたいと思つてはいます。すべてができないものばかりじゃないのではないかというふうにあつてはいます。

そして、もう1つ、ちょっと私が提案というですか、3つ目は、新聞によりますと、小城市のほうでは市が100人の雇用をつくり出す予定ということで書いてありまして、武雄市のほうはどういふふうになつておりますかというのをあつねしましたところ、一応50名ですと。その50名はどういふふうにして50名になつたんですかというのをあつねしますと、何かそういう雇用創出の仕事はないかというのを各課にあつねして、そこからあつてきたものの集計が50人程度だというふうなことを報告を受けました。

以前、不況対策のときに一番人気があつたのは、小学校のパソコン——コンピューターの補助要員というですかね、まあ竹切りもあつたんですけれども、結構それが評判がよかつたというですかね、役立ったというようなことをあつねしたんですけれども、そういう部分は今回出てきているのか、ちょっとわからないんですけれども。

それで、思つたのは、各課に何かありませんかじゃなくて、企画のほうでこういうのをしたらどうか、こういうのをしたらどうか、こういうのをしたらどうかというのをあらかたあつて、計画的につくるというですかね、そういうことができないかということで、下からあつてくるじゃなくて、企画のほうで計画的にこういうのをしたらどうかと、市民の要望を聞いたら、こういうのがあつますよと、そういうような格好にできないかについてお聞きし

ます。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

今回、国の制度によります緊急雇用の創出事業でございますけれども、そのうちに一応52名を今考えております。それで、2月ぐらいに、ある新聞のほうに、小城市のほうが118名ですか、その時点ではまだ県のヒアリングの前で、まだ予定の段階で載せております。最終的に52人になったということで、日数については、3カ月もあれば6カ月もあって、1年もあってということで、事業費については大体県平均にいつております。そういうことで、この事業の取り方でございますが、これについて昨年12月24日に関係者の会議をした折に、こういう制度ができるということで各課のほうで調整をしてもらって、それを一度、農林商工のほうでまとめて県のほうに提出して、結果的に52人になったということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

角企画部長

○角企画部長〔登壇〕

日々の業務につきましては、担当課が一番熟知いたしております。そういうことから、企画のほうでも、こういう事業はないかという示唆は与えますが、一番熟知している各課から上がってくるのが一番ボトムアップとしていいんじゃないかというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

熟知してあると思いますけれども、やっぱり雇用創出だから、単に今ある仕事の整理じゃないので、そこは雇用創出という観点で企画的にやっていただけたらなというふうに思います。

そしたら、ちなみに、以前の不況のときに人気のあったパソコン補助というですかね、そういうのは今回出してありますかね。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

今回の対象の事業につきましてはですが、パソコン関係については、今回はございません。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

今後、もし——多分評判がよかったと思うんですね。町でもパソコンを教えに行ったと

か、教えた人もそういうふうに言っていたんですけども、教えられた方も何かよかったということですので、もう一回その辺を教育委員会で、もしよかったら——パソコンも今自由に使えるように新しく入れかえてあるわけだからですね。それを有効活用して、ここを契機に使えるようになるようにしていただければと思います。

次に、教育行政についてです。

これは学校改築の件です。前回の一般質問では数人の方が小学校の耐震関係で改築計画を示してほしいということをおっしゃったと思います。そのときには、市長の指示というですかね、認可を受けて一斉に改築計画を出すから、今は待ってくれということでありました。そこで、そういうことかなというふうに思っていたんですけども、今回補正の件でそういうふうに通るよりも、補正のほうで経済対策をしたほうが良いと、一歩でも早く設計に入ったほうが良いということでおっしゃったと思いますけれども、そこで武雄小学校とか武雄中学校の調査費ですかね、設計費が出ていたと思うわけですね。武雄小学校、武雄中学校の改築はわかるんですけども、前回のお話ではあらかじめ取りまとめて出すということだから、耐震的にどこが悪いじゃなくて、ここ数年間の計画が提示できれば提示していただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

平成21年度当初予算と20年度の3月の今度の補正で、21年度の基本設計、実施設計を計上させていただいています。その実施設計に基づいた工事を22年度、23年度行いまして、その後については、まだ今の段階でちょっと事業計画というものについてはつくり得ていないというのが正直なところであります。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

とりあえず22年、23年度を計画しているということですね。22年度、23年度というのは、武雄小学校の校舎と武雄中学校の校舎なんですかね。ほかにもあるんですかね。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

武雄小学校におきましては管理棟部門、武雄中学校につきましては校舎ということで今準備をさせていただいています。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

そしたら、まだ体育館等は計画の中に入っていないということですね。はい、わかりました。

そういうことですがけれども、できるだけ計画は早く出してほしいなということを考えています。それは何でかという、先ほどの予算総額にかかわってくるのかなと思うわけなんですよね。結局、20年度は19億5,000万円、21年度が18億5,000万円となっているところの主な原因というですかね、その中の原因の大きなところに学校改築が西川登小学校だけになっているということも聞きますので、学校改築計画が予算総額に影響してくるというですかね、そういうようなところもあるんじゃないかなと。そういうことになれば、結局、予算総額をふやせふやせと言ったって、つくるものが計画的にならないとつukれないわけですから、何年か先が出ていれば、とりあえずいいと思いますけれども、できるだけその隙間がないようにしていただきたいと思います。

次は、教育問題の2番目です。

これはタウンミーティングの開催です。以前より中高一貫絡みの、上田議員のところにもありましたけれども、中高一貫が1校しかない。中高一貫を普通校と考えるか、普通校でないと考えるかということもあると思いますけれども、その辺で私はそう思っているけど、皆さんどう思っているのかなというのがあって、以前からタウンミーティングというのをしてもらいたいということを述べておりました。結局、私も子供の側から教育を考える会の方が言われるように、学校を2つに分けて、普通校と中高一貫と2校あると。2校あれば、4クラス、4クラスになる可能性もあるというふうに思っておりました。そこで教育長は上田議員への答えの中で、西部学区の高校のバランスが悪いというふうに言われましたけれども、どういうふうにバランスが悪いか、ちょっと聞きたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

バランスが悪いというとならえ方はちょっと誤解を与えやすいかと思います。西部学区が3地区に分かれて考えてあると。その生徒数をもとに高校を検討、計画してあるというのを、その際に、その3地区に分かれているけれども、武雄、杵島地区は実際に生徒の動きはそうじゃなくて、嬉野地区、鹿島地区に行っている生徒のほうが多かったですと、そういう意味でのバランスでありまして、高校を計画するときそういう方向での計画が望ましいのではないかという意味でございます。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

ちょっと私もその辺の理解が、はっきりわからないんですけれども、とりあえず武雄市に

高校が2つあるということについては賛成ということで間違いないですね。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

就任時点で既にこの中高一貫校の設置が決まって進んでいたわけでありまして、この段階で武雄に2校あった方がいいかという判断は、ちょっと私自身できかねるかと思います。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

その時点で……。今の時点は違うという意味なんですかね。

何せ、ほかの伊万里とか牛津ですかね、結局トップというか、町全体が意見を合わせて申し入れているというのがやっぱりパワーになったと思うわけなんですよ。そういうことで、そのために、ある程度皆さんで話し合いをせんといかんと思うんですよ。そういうことで、それも含めて、前も前向きに検討するということがあったんですけれども、ちょっと以前から言っている教育タウンミーティングを開催してもらえないかについてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

確認させていただいてお話ししたいと思いますが、既に先ほどの、今の時点で2校どうかという判断は意味がないのではないかという意味です。

それから、全市的な意見をというところで、きのう上田議員の質問のときにお答えしたんですけれども、県の準備室と話しますときにも、新聞の報道では、地元の熱意によって云々という書き方をされていると、武雄市は熱意がないように見えるじゃないかということですが、そうじゃないんだということは伝えてきております。

それから、今の最後の御質問ですけれども、まず教育委員会が見えないんじゃないかと。何をやっているのか見えないんじゃないかということで、今年度は2月16日よりホームページを開きまして御存じかと思います。あるいは評価等につきましても御提示できるように進めているというところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

ホームページを立ち上げて情報を発信しているということですね。

私が言う県が行っていたタウンミーティング的なものはできないかについてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

検討中というのが本音でございます。まず、公民館等を含めまして、教育委員会の仕事を御理解いただくと。そして、極力現場に出向いて、担当者なり会場なり、いろんな方の御意見、お考え等は聞いているわけでありまして、今の段階では具体的にはその計画はしておりません。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

できれば意見を交換して、そうばかりではない意見もあるかもしれないと思うんですね。いや、私が考える中高一貫を二手に分けて普通校に分ける必要はないんじゃないかなと言う人もおるんじゃないかなと、そういうことも言われたりもするもので、まずは話し合いとか、そういうのをですね。それだけじゃないと思うんですけどね、武雄小学校と御船が丘小学校の校区の見直しとか、いろいろ課題はあると思うとですね。今、スポーツをするにしても親が送り迎えをせんとところはスポーツをしにくいとか、いろいろ課題があるから、そういうのをみんな寄って話し合ったらいいんじゃないかなというふうにも思っています。前向きに検討してください。よろしくお願いします。

次に、5番目の都市計画道路行政についてです。

これも以前に申しておりましたが、武雄小学校が今度改築になるんですけれども、その導入路についてです。それで、私は前面のほうは厳しいから、後ろから入られるような確保はできないだろうかというふうに言っておりました。そのとき、部長の説明では前面の道路は県道だからというふうなことを言われましたけれども、今度市道に編入するということですので、市道になればやられるのか、その辺についてお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

議員おっしゃるとおり、確かに県道武雄伊万里線につきましては、4月から市道という形になります。ただ、これが市道になったからといって、あそこは確かに都市計画道路の計画はありますけど、今現在、整備計画としては持っていません。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

では、ちょっと前面の道路改良は無理と。そしたら、私が言っている後ろの部分の部分改良についてはどうですかね。



○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

小学校の東側の道路、これは円応寺線、あと裏側のほうが六ノ角五ノ角線ということで2本道路が走っているわけですが、ここについても今現在、整備計画としてはございません。ただ、用地確保等で地元協力が得られれば、離合場所の設置等での局部改良というのは考えられるというところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

できることをして、局部改良でもして、結局工事車両が入ってくると——どちらから入ってくるのかよくわかりませんが、昼、作業をすれば、出るときは一方通行で出ていくわけだから、その辺もうまくいくように考えていただきたいと思います。

もう1点は、そういうふうには道路ができないところもあれば、今度は北方中央線のように、道路ができていのに周りが開発できないという問題があります。そこで、せっかくいい道路ができておりますので、早く宅地化なりをしたほうがいいと思います。それも以前から言っておりますけれども、都市計画区域の網をかぶせて農地転用を図るということですので、それもちよっと早くしてもらわないと困るなど。それをするとされている途中で、まだ県の準都市計画区域を先に設定するとか、まだもう1段、段がふえたような格好になっておりますので、そこは同時にしたり、何か早くする方法がないかについてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

北方中央線、あの一帯は今現在、準都市計画区域の指定の準備をしているというところなんです。指定は県のほうで7月を予定されております。市としましても、あの一帯は確かに北方町が以前からまちづくりの大きな方針として開発を計画されておった地区ですから、市としましても、準都市計画区域の指定後、今、都市計画の見直しをしておりますので、その見直し後、区域の設定、あるいは用途地域の設定、こういうところを検討して、将来的には開発できるような地区にしたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

そしたら、どちらにしろ、速やかにしてもらわないと、きれいなうちに建った方が土地を買ったり売ったりする人もいいんじゃないかなというふうに思いますので、早期の都市計画

区域の設定をお願いしたいと思います。

続いて環境問題についてです。

環境問題については、ちょっと市民の方からごみ袋広告のことについて電話がありまして、そのごみ袋広告に市の指定業者というのですかね、結局、ごみとか資源を頼んでいる業者に広告をさせるぐらいならば、委託料を減らしてもらえと。そして、その広告に違う人を載せたほうがいいんじゃないだろうかというようなことを言われましたもので、ちょっとそれはそれで努力してもらわないといけないんですけども、ごみ袋の費用を広告で減らしているというならば、ごみ袋自体は幾らで買っているのかということも言われましたもので、ちょっと今度調べましたところ、同一規模の伊万里市さんの袋というのは——武雄市も高くはないんですよ。武雄市も普通ぐらいなんですけれども、武雄市の場合は20リットル5円36銭ですけれども、伊万里市は2円90銭。そして、35リットル8円95銭。伊万里市には35リットルはありませんけれども、40リットルで6円92銭ということで袋代が安くなっておりますので、広告もですけれども、広告をとろうとしているまず袋代の節減について努力してもらいたいと思いますけれども、その辺どうでしょうか。

それとついでに、もう時間もありませんので、あとプラスチック容器包装が今、大分定着してきているかなというふうに思っています。それで、以前から言っておりますけれども、プラスチック容器包装を集めれば、結局手出しのほうが多くなると。だから、資源循環のためには必要というならば、その分をまた経費節減をするために、紙製容器包装も同時に力を入れて収集してはどうかと言いましたけれども、そのごみ袋作製費と紙製容器包装の回収についてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

ごみ袋の広告の件ですけど、この広告につきましては募集要領を決めて、公募という形、ネットオークションで参加をしてもらったと。その中で、今議員、特定の業者と言われるようですけど、その業者が一番高い値段で落札されたということでございます。

それと紙袋のリサイクルの件ですけど、これにつきましては、今、市報等でPRを努めておりますので、おいおい紙リサイクルは普及していくものというふうに考えております。

〔6番「袋の作製費」〕

袋につきましては、確かに伊万里市さんと比べたらうちのほうが少し高いですけど、これは伊万里市さんのほうは厚みが0.03で、うちの場合は破れにくいようにということで0.04という厚さの違いもございまして、一概にうちが高いという形じゃないと思います。ただ、よその地区、近隣の地区と比べましたけど、うちよりも安いのが伊万里市さんだけで、あとはうちよりも全部高いという状況でございまして。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

広告をとるぐらいだったら、一番高くはなくても、袋は薄いほうが環境負荷は少ないんですよ。スーパーの袋だってミクロンを下げていますよね。だから、伊万里市さんが破れているかどうかを確認して、破れていなかったら、そりゃ、ミクロンを下げて金額を下げるようにしないと、本末転倒のような感じも思いますので、そこも研究をしていただきたいと思っています。

以上で質問を終わります。どうも。

○議長（杉原豊喜君）

以上で6 番宮本議員の質問を終了させていただきます。

次に、12番末藤議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。12番末藤議員

○12番（末藤正幸君）〔登壇〕

議長の御登壇の許可をいただきましたから、12番末藤の一般質問をさせていただきます。

私は、今回2 項目、安全・安心について、入札についてを上げておりますので、どうか最後まで御協力よろしく願いいたします。

安全・安心について質問させていただきます。

市民病院が一時中断をしていた救急診療は、昨年8 月から樋渡市長のお働きと市民病院の職員さんの頑張り、そして池友会の協力により、24時間365日受け入れ拒否をしない救急診療の再開をしていただきましたことは、一市民として大変喜んでいただいております。

先日の資料を見ましても、ことしの1 月の救急車受け入れは、昨年の同時期からすると、2.2倍になったというふうなデータも拝見させていただきました。まさに救急医療がいかに大事かという結果だと思えます。これからも市民病院のスタッフの方には大変と思いますが、市民の安全・安心のため頑張ってくださいとお願いするところでございます。

さらなる市民生活の安全確保のために、災害に強い、安心して生活できるまちづくりを目指していかなくてはなりません。生命、身体、財産をいかに災害から守るかということにあります。当市では、9 月、市の総合防災訓練を実施していただいております。地震や大雨による自然災害に対応した災害本部の設置や連絡網のあり方、避難誘導訓練、備蓄食糧の運搬や提供などなど、一般市民、行政、消防団が参加する防災訓練と位置づけ、実施をされており、昨年9 月で2 回目の実施をされました。この総合防災訓練の成果や効果は検証されたのか、まずお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

市の総合防災訓練につきましては、平成19年から行っております。昨年も9月の第1日曜日に行いましたけれども、その検証でございますけれども、参加者が495名ということでやっております。

内容につきましては、地域によっては災害想定、風水害、土砂災害、震災、火災等と異なりますけれども、災害対策本部設置訓練を行うこととあわせまして、住民の方が参加した情報伝達訓練、避難誘導訓練、災害時要援護者の避難支援訓練等を実施しております。また、この参加者を対象にした応急手当指導とか、初期消火訓練、防災講話、備蓄食糧の試食などを行ってきておまして、防災意識の向上につながっているものというふうに思います。また、そのときには参加者からアンケートをとりまして、その分析等も行ってきたところでございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

12番末藤議員

**○12番（末藤正幸君）〔登壇〕**

どうもありがとうございます。実施をされ、495名の参加だったということでございます。地域からのアンケートもとっておられるということでございますが、私も2回参加をいたしまして、地域の方をずっと訓練のときに見せて回っておりますけれども、何か訓練に対して地域の方の意識が、若干温度差があるのではないかなということも気づいております。それはなぜかなということ考えていたわけでございますけれども、やはり開催時期が、その時期が妥当かということで、検討されているわけでございますけれども、やはり9月というのが農繁期の前でもあります。前と申しますか、もう早いところは農繁期にかかっている。また、そのときは非常に体育祭とか敬老会、こういう行事もいっぱい地域ではあるわけでございます。そういうことから、若干その辺の温度差もあるのかなというふうなことを考えていたわけでございます。その辺、また、地域の方のそういう防災に対する意識づけ、こういうこともやはり地域で何か会合があるときにでも、執行部から出向いていただいて、そういう説明をしていただければなど、講話なんかでもしていただければなどというふうに思うわけでございます。

そういうことで、アンケートもとってあるということでございますが、そういう開催の日等の変更等も考慮されて、今後そういう検証されたことを参考にして取り組み等に、もう少しその辺をアンケートの結果等を考慮された計画を今後されていくのか。もうこのままで行くよというのか、その辺のお尋ねをいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

まず、アンケートの結果、私も拝見いたしましたけれども、参加してよかったという方々

が全体の8割であります。その中で、確かにおっしゃるように、ちょっと開催日が農繁期に当たるといふこと等は聞いております。昨年はベースになる訓練日を設定して、あと西川登等だったと思いますけど、ちょっと時期がずれていたりしていますので、先ほど議員の御指摘のとおり、やっぱり地域あってこそその防災ですので、その辺の日程のことについては、地域の意見、消防団の意見を聞きながら、柔軟に考えていく必要があるというふうに思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

12番末藤議員

**○12番（末藤正幸君）〔登壇〕**

検討をよろしく願いいたします。

昨日も浦議員のほうから説明があつておりましたが、3月29日に開催される山内町大野地区の大型施設の訓練は本当にすばらしい計画だといふふうに私も期待をしております。本当に火災を含めた災害時には、地域の住民の方の協力や地元企業の消防団との連携が大変重要になってくるわけでございます。本当に今からは、そういうことで自主防災組織との連携を図っていかなくてはなりません。

そこで、地域防災組織の立ち上げということが問題になってくるわけでございますが、ここに佐賀県いっばいの地域の防災組織の——ちょっと資料はわかりませんが、すみません。佐賀県じゃない武雄市ですね、まだまだ武雄市が12%ぐらいの組織率でございまして、伊万里市、それから鳥栖市が100%だったと思います。ほか80%台、90%台がありまして、嬉野市はまだ0%というようなことで、10市でも下から2番目というような組織率になっているわけでございます。やはり自主防災組織が中心になって、今言う防災訓練等を盛り上げていっていただき、消防団、または行政、消防署、警察、そういうところとの連携をしていくべきものと思うわけでございます。そういうようなことで、この防災組織の立ち上げ、まだ今言う12%でございまして、ここに武雄市の総合計画にもそういう自主防災組織の取り組みというようなことで目標年度も決めて掲げてあります。

そういうようなことでございまして、自主防災組織の立ち上げについて、今どういう進捗状況か、お尋ねをいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

大庭総務部長

**○大庭総務部長〔登壇〕**

自主防災組織につきましては、やはり住民の皆さんに防災意識を持っていただくということと、自助、共助という立場でも非常に有意義な組織だといふふうに認識をしております。そういう中で、武雄市では旧町で現在約22組織が立ち上がっております。率にしまして15.42%ということ、現時点ではまだまだでございますけれども、議員おっしゃいますよ

うに、目標年度を23年度ということで、23年度には100%を目指したいというふうに考えているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

12番末藤議員

○12番（末藤正幸君）〔登壇〕

自分たちの町は自分たちで守ろうという共助という重要なことでございます。自主防災組織の組織率アップにぜひ努めていただきたいというふうに思います。

次に、地元企業の連携という観点から消防団協力事業所表示制度についてお尋ねをいたします。

これは、ここに総務省消防庁から出ているパンフレットでございます。「私たちも応援します。地域を守る信頼の企業、事業所の皆様へ」と書いて、「消防団の活動に御理解と御協力をお願いいたします」というようなパンフレットでございます。中身を見てみますと、「御存じですか、消防団協力事業所表示制度。消防団協力事業所表示制度とは、事業所の消防団活動への協力が社会貢献として広く認められると同時に、事業所の協力を通じて、消防防災体制が一層充実されることを目的とした制度でございます。消防団協力事業所として認められた事業所は、取得した表示証を社屋に掲示でき、表示証のマークを自社ホームページなどで広く公表することができます。事業所の社会貢献が広く認められ、信頼性向上、イメージアップとともに、地域防災体制の一層の充実が図られます。ぜひ多くの事業者の皆様の参加をお待ちしています。まずは市町村、または消防本部等にお問い合わせください。」というふうに書いてあるわけでございます。実際、取り組んでおられるところの市のホームページからダウンロードした資料がございます。ちょっと読んでみますと、これは長野県、約5万3,000人ぐらいの市でございます。「岡谷市消防団協力事業所表示制度」の御案内 近年の社会情勢に伴い、就業構造等が大きく変化し、約8割が被雇用者（サラリーマン等）で、団員確保が難しい状況にあります。このため、事業所の消防団活動への一層の理解と協力を得て、被雇用者が消防団に入団しやすく、かつ、活動しやすい環境の整備をすることにより消防団員を確保し、また、事業所と消防団の連携、協力体制を一層強化し、将来にわたる消防力の増強を目的に、この制度を創設しました。」というふうになっております。

これは基準がございまして、消防法令違反がないこと、従業員が消防団員として2名以上入団していること——入団した消防団員が2名以上事業所にいること。従業員の消防団活動について積極的に配慮している事業所と就業時間中の消防団活動への参加を認め、給与等のカットをしないなど、そして災害時には事業所の資機材を消防団に提供するなど協力をしている事業所、消防団活動に協力し、地域の消防団体制の充実強化に寄与している事業所というようなことでなっているわけでございます。そして、申請方法等書いてありまして、今先ほど申したとおり、事業所のイメージアップにつながる云々というようなことで書いてある

わけでございます。

こういふことで、やはり初日ですか、松尾議員の質問の中で、本当に消防団員が今やめるにやめられないというようなことでございます。本市の消防団員も約82%がサラリーマン団員でございます。そういうような状況でございます、やはりこういうことも取り組んでいただかにゃいかんというふうなことで、それじゃ、全国でどこがどういふふうに取り組んでいるかというようなことで、ここにデータをいただきました。長野県が73市町——これはほとんどだと思ひます。そして、143社の企業が表示の登録を受けているということでございます。それから、北海道が36市町で164の企業が登録をされている。東京都は2市町でございますけれども、280社がそれに登録をされているということでございます、長野県がなぜこういふふうが多いのかなというふうなことで、ちょっと調べてみましたところ、長野県は県がそういう事業税を免除しているというようなことでございます。

ちょっとこの長野県のホームページから見ました。「消防団活動事業所の優遇措置について。消防団員の減少や、いわゆるサラリーマン団員の増加に伴い、地域における消防力の低下が危惧されています。そこで、消防団が活動しやすい環境整備を促進するため、県では、消防団活動に協力している事業所等を事業税減免などにより支援をしている。消防団活動協力事業所応援減税、対象、中小法人——1,000万円以下の法人の法人税、それから青色申告をしている事業主の個人事業税、これの税額の2分の1を免除する」と。最高限度額は10万円になっているということでございます。そういうことで、これの認定を受けた場合、こういうことで税が免除されるというシステムをつくっておられます。

本当に今申したとおり、当市ではサラリーマン団員も82%というふうが多いわけでございます。団員の方が活動しやすい、また入団しやすい対策を打って出にゃいけないというふうに思ふわけでございます。その1つの手段として、こういう制度をぜひ取り込んでいただきたいということでございます。また、そういう減税措置も県に要望されたい。これは武雄市だけではできない。やはり県全体の市町が一緒になって要望すべきだと考えるわけでございます。執行部のお考えをお示してください。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

ちょうど去年の秋ごろ、末藤議員からこの制度を聞いて、こういう制度もあるんだなということで、我々も勉強を進めた結果、先ほど末藤議員から報告のあったとおりであります。これは基本的に県の優遇措置で長野県が進んでいるというのは御説明のとおりでありますので、まず石丸県議会議長様、稲富県会議員さん、そして、これは武雄市だけでどういふ話じゃありませんので、ぜひ佐賀県市長会の議題に私から上げたいというふうな思っております。そこで、市長会の中で合意がとれれば、知事に対して要望をするというプロセスを踏ん

でいきたいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

12番末藤議員

○12番（末藤正幸君）〔登壇〕

ありがとうございます。本当にぜひお願いしたいと思います。

それでは、次に移りたいと思います。

昨年、消防本部、武雄消防署、武雄消防団共催により、女性消防団員を対象とした応急手当普及員講習を実施していただきました。市内の8名の女性消防団員の方が1カ月半、24時間にも及ぶ講習を受講され、全員の方が応急手当、普及員の資格を取得されました。

今後、消防団活動の1つの方向性に向けた戦力になるものと期待をしているわけでございます。

行政として、この応急手当普及員の活躍の場と申しますか、どのようなところで活用をされる計画なのか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

この応急手当普及員でございますけれども、これは普通救命講習の内容を指導できる資格を持つ者ということでございますので、議員おっしゃいますように、今回8名の方が受講されて認定を受けられております。

この方々の活躍の場でございますけれども、市の総合防災訓練とか、地域での防災訓練、また集会等での場で救命法とか応急手当の指導や普及に取り組んでいただくように考えておりますので、そういったところでぜひ活躍をしていただければというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

12番末藤議員

○12番（末藤正幸君）〔登壇〕

よろしく申し上げます。何と申しましょうか、宝の持ち腐れにならないようお願いしておきます。

それと、この前、市報で入団の申し込み等の宣伝もやっておられましたが、そういうところでも、女性消防団のそういうふうな資格も取っておられることも明記をして、入団の宣伝、PRにも使っていただければというふうに思うところでございます。

それと、これは提案でございますけれども、先ほど申しました火災を含め災害時には、地域の住民の方や地元企業の連携が本当に必要なわけでございます。昨年、消防団だけで取り組んだわけでございますが、市の防災訓練と並行して、行政、消防署、それから警察、消防団、病院やそういうふうな大きな介護施設、そして区長さんたちに参加していただき、地域



や企業施設との連携をした机上での訓練——きのうの浦議員の質問の中でもあっておりましたとおり、机上での訓練も非常に重要でございます。1つの訓練の計画でそれができると、約70%の訓練ができたと言われるぐらいに重要なものがございます。そういうことで、これは余り経費もかかりませんので、ぜひ行政、そして地区がそういう一体になった訓練を取り組んでいただきたいと、ここでお願いしておきます。

次に、交通安全指導員についてお伺いをいたします。

市の交通安全活動の推進を図り、市民の交通安全を確保するため、交通安全の施策の中心として活躍していただいているのが、交通安全指導員さんでございます。

ある交通安全指導員さんの話を聞く機会がありましたが、その方が言っておられたことは、私たちはある意味、ボランティアでございます。ボランティア精神がないと務まりませんよというような力強いお言葉を聞いたわけでございますが、昨日、21番議員からも質問がございましたが、今条例定数90人以内の定めのうち73名の方が交通安全指導員として委嘱をされているという答弁がございました。この73名の方の町別の人員をお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

73名の内訳でございます。武雄町が12名、朝日町8名、橘町4名、若木町4名、武内町4名、東川登町5名、西川登町3名、山内町20名、北方町13名、計73名でございます。

○議長（杉原豊喜君）

12番末藤議員

○12番（末藤正幸君）〔登壇〕

ありがとうございます。ここに武雄市交通安全指導員設置条例という条例がありますが、任務、第5条「指導員は、次に掲げる事項について、交通安全の推進に当たるものとする。」「(1)交通安全思想の普及徹底及び安全指導に関する事項」「(2)児童、生徒の安全指導に関する事項」「(3)道路その他の交通環境の整理に関する事項」「(4)前3号に掲げるもののほか、交通安全の保持に関し必要な事項」というふうに条例で任務が制定されておるわけでございます。今の交通安全指導員さんの方の実際の活動内容をお示してください。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

交通指導員さんの主な活動内容ということでございますけれども、まず交通安全県民運動、これは年4回ございますけれども、その期間中における立哨指導、それから市内の行事、イベント等における観客等の安全確保、それと交通教室等における交通安全の指導というようなことを主に活動として行っていただいております。

○議長（杉原豊喜君）

12番末藤議員

○12番（末藤正幸君）〔登壇〕

はい、わかりました。大体今申されたとおり、立哨指導等に当たっていただいているようでございます。

あと、イベントのときの交通指導といいますか、交通整理のような出動といいますか、そういうこともやっておられるようでございますけれども、そういう出動を依頼する行事等は今どのような行事に出動していただいているのか、お示しをいただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

現在、出動をお願いしているイベント等でございますけれども、まず沿道の観客の安全を確保するというような視点から、大きなものとしたしましては九州一周駅伝大会とか、県内一周駅伝大会における立哨、それから町の行事等におきまして交通安全の確保が必要と認められるマラソン大会とか、催事等に立哨をお願いしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

12番末藤議員

○12番（末藤正幸君）〔登壇〕

今、駅伝大会、そういう公的な行事、あと、こちらにちょっと資料をいただいたものに、武雄町でやっておられる春まつり、また北方町で開催されている四季の丘フェスタ、これも当然公的な機関でやっていただいております。また、各町での体育大会、それから秋祭り、去年の暮れに山内町で開催されました産業まつり等も出動をしていただいております。

そういうところで、設置条例の中の第5条に書いている指導的な立場と交通整理の立場、この辺がごっちゃになっているのではないかなというふうなことも考えるわけでございます。そういうようなことで、今後、その辺を実際整理していただいて、きちんと出動を要請するものは要請する。そうでないものはそうでないもので、ガードマンさんに頼むとか、いろんな方法もあるかと思えます。

それと、今、各町ごとに人員を報告していただきましたけれども、やはり人員も若干少ない部分もあるのかなというところもございます。そういうようなことで、そういうことを整理することによって、各町ごとに平均した人口に網羅した配置ができるのではないかなというふうに思うわけでございます。そして、行事等もやはり多いところでは多い、少ないところは少ないというふうに地域的に分かれると思うんですよ。そういうことで、これをある程度均一化していただきたいというような話を聞くこともありました。そういうようなことで、

この辺の考えをどう考えておられるのか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、交通安全指導員の皆様方は、雨の日も風の日も本当に大変だというふうに思っております。そういった意味で、この場をかりてお礼を申し上げたいと、このように思っております。

その中で、先ほど末藤議員の御質問を承りながら思ったのは、やはり何というんですかね、行わなきゃいけないということと、実際の要請というのはかなりずれがあるなということを感じましたので、あくまでも警備や駐車場整理の要素の強いものは、これは主催者の基本的な責任でありますので、そういったことも含めて整理を——本来これは出動をお断りしている部分がありますけれども、それもまだちょっと今までの慣例とかで断り切れなかったりとかいろいろあると思うんですよね。ですので、これは改善する必要があるだろうというふうに思っております。

いずれにいたしましても、ちょっと主催者が町だったりする場合がありますので、市としてどこまでできるかはこれから調整をいたしますけれども、一たんちょっと整理をする必要があるというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

12番末藤議員

○12番（末藤正幸君）〔登壇〕

よろしく願いいたします。

次に、この安全指導員さんの制服のことについてお尋ねをいたします。

ちょっとこれも話を聞いたわけでございますけれども、ここに交通安全指導員の設置条例施行規則というのがございまして、この中の（制服等の着用）第3条「指導員は、任務遂行中原則として、貸与された制服等を着用しなければならない。」、2. 「指導員は、制服等を私用に着用し、又は他人に貸与してはならない。」。（貸与）第4条「市長は、指導員に対し別表に定める制服等を貸与する。」。あと5条等ずっとありますけれども、これ貸与品を見てみますと、冬服の上下、夏服の上下、盛夏の半袖、防寒着、かっぱ、ヘルメット、制服、ネクタイ、ベルト、笛、それから腕章、手袋、短靴、指導用の旗、こういうふうに貸与品書いてあるわけでございます。しかし、合併をいたしまして、3年がたったわけでございますが、この制服の統一がまだなされていないと。今まで旧市町で使っていた制服をそのまま着用なんだというように聞いております。確かに経費はかかることでございますので、消防団は本当に一気にぱっとかえていただきましたけれども、指導員の方はまだ旧の制服のまままだということで聞いておるわけでございます。やはり同じ指導員でございますので、統一

の制服を着たいというふうに願望を持っておられます。

そういうことで費用的には大変と思いますが、その辺の考え方として行政はどういうふう  
に考えておられるのか、お尋ねをいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

大庭総務部長

**○大庭総務部長〔登壇〕**

交通指導員さんの制服につきましては、今、末藤議員おっしゃいましたように、合併前それぞれ違った制服でございました。合併協議会の中で、合併しても旧来の制服を使用させていただくというようなことでまず調整をされたようでございます。ただ、合併後、新たに委嘱を受けられた方につきましては、新市の条例で旧武雄市の貸与規定を採用しておりますので、その規定で現在は制服を貸与しております。ただ、引き続いていらっしゃる方は、それぞれの1市2町での制服を着用されているようでございます。

ただ、確かに議員おっしゃいますように、長い経歴のある方もいらっしゃいます。30年以上の人が1名、20年以上の方が5名、10年以上が16名と、こういった方々につきましては、その制服の状況等を確認させていただきながら、予算の範囲内で新調させていただくような方向で進めていきたいというふうに思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

12番末藤議員

**○12番（末藤正幸君）〔登壇〕**

ぜひお願いしておきます。今後とも市民の安全・安心を確保するために、交通安全指導員の方の確保と、先ほど申しました献身的な活動に対しましての配慮をお願いしたいと、ここでお願い申し上げます。

次に移りたいと思います。

次に、新型インフルエンザ対策についてお尋ねをいたします。

このことにつきましては、テレビ、新聞、チラシ、またはパンフレット等で皆さん、新型インフルエンザの脅威は御存じと思いますが、いつ発生してもおかしくない状況だと言われております。当市は温泉のまち、観光のまち、お客様が訪れていただくことが産業につながるわけでございます。つまり、交流人口がふえることが産業発展のバロメーターになるわけでございます。このたび、観光大賞も受賞されました。また、4カ国語で説明されている観光パンフレットもでき上がったというふうな報道もされております。これからはますます観光客がふえてこられるものと考えられるわけでございます。

このインフルエンザは人が集まることによって被害とまいましようか、流行が広がると言われております。当市は人が集まってくる観光のまちでございます。新型インフルエンザも観光産業の整備の1つではないかなというふうに思うわけでございます。

まず、お尋ねでございますが、パンデミックと申しますか、大流行の状態になると、武雄市内で感染者や死亡者は何名と推計されているのか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

○國井くらし部長〔登壇〕

今推定される場所では、最低で5人、多くて230人から250人の死亡者が出るんじゃないかということで推計されております。（「患者数」と呼ぶ者あり）

感染者数ですけれども、医療機関を受診する患者数ということで、5,200人から約1万人ということでございます。

それから、死亡者数につきましては、中程度で65人と、重度で254人というような推計が出ております。

○議長（杉原豊喜君）

12番末藤議員

○12番（末藤正幸君）〔登壇〕

はい、わかりました。本当に一人の死亡者も出さないというのが基本でございますので、もし流行があったときには十分な対策が必要かと思っております。

ここに、今度、佐賀県の行動計画第3版が発表されております。いっぱいあるわけでございますけれども、ここに第3章 市町村の役割というところだけをコピーしてまいりましたけれども、これでもこれだけ厚みがありますけれども、この中にいろいろ書いてありますが、項目の例として、危機管理体制に住民への情報提供、それから相談体制の確保、ワクチン接種体制の確保、ライフライン（上下水道、し尿処理、ごみ処理等）の維持、食糧等流通の確保、集落施設等の運営の自粛、治安等の維持、火葬機能の確保、社会福祉施設の運営、在宅要援護者への支援、学校等の臨時休業、医療提供体制への協力。こういうことを網羅して、自分のまち、要するに武雄市の行動計画を策定しなさいというようなことが来ていると思っておりますが、当市の行動計画の策定はどのようになっているのか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

○國井くらし部長〔登壇〕

議員が先ほど申されましたように、国のほうも、初期の封じ込め作戦から、はやるだろうということを想定して、今度、第3版の計画が見直されております。それを受けまして、県のほうも、医療対応型から社会対応型を含めた総合的な対策と、それから初期発生の封じ込め中心の対策から感染拡大を想定した拡大抑制のための対策へということで、今度、第3版の計画が見直されております。それを受けまして、武雄市のほうでも杵藤保健福祉事務所と近隣市町村との連携を図りながら、21年3月末をめどに行動計画の策定を進めているところ

でございます。その内容につきましては、基本方針の策定、危機管理組織の整備、事業継続計画の策定ということになっております。

また、市民への情報提供ということでございますけれども、これにつきましては武雄市のホームページで去年の11月、それから市報掲載が12月、それから有線テレビによる市役所だよりでの情報提供がことしの1月から2月に行っております。また、この情報の提供につきましては、随時行いたいと思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

12番末藤議員

○12番（末藤正幸君）〔登壇〕

3月末ででき上がると、今年度ででき上がるということでございます。当然、医師会やライフラインにかかわる専門業者との連携、または学校、保育園の対応、行政との連絡協議会などの開催や訓練が必要と考えられますが、この辺の訓練や協議会の開催、こういうところは来年度といいましようか、21年に計画を上げられているのか、まだまだそこまでは至っておらんよというのか、説明をいただきたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

○國井くらし部長〔登壇〕

ただいまのところ、庁舎内での新型インフルエンザ危機管理対策庁内会議ということをご各関係14課で行っておりますので、まだ詳細につきましては課内の意見等を調整しながら行っていくようになっていくと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

12番末藤議員

○12番（末藤正幸君）〔登壇〕

庁舎内ではやっている。一般の方、そういう専門業者、医師会さんとか、そういうところではまだやっていない。来年度でもまだわからないということですね。その辺も計画をされていかなければならないことだろうと思えます。

次に、今申しました中で、学校のインフルエンザによる臨時休校中の学習についてはどうなのかというようなことでございますけれども、大体一遍発生すると、約8週間ぐらいは臨時休校しなきゃいけないだろうというふうになっておるわけでございます。

あるホームページをちょっと探しておりましたら、唐津市の校長先生のほうから出ておりました計画があります。そういうことでいろいろ書いてありますけれども、当市ではその辺の学校休校中のそういう教育について、計画をどのようにされているのかお尋ねをいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

浦郷教育長

**○浦郷教育長〔登壇〕**

お話にありましたように、臨時休校が想定されるわけでありまして、その際のあり方、生活の仕方ということの計画が必要になってくるわけであります。

いずれにしましても、学校、それから公民館等を含めます社会教育施設、P T A等々、情報を密に共有して、適切に、しかも迅速に対応できる体制をつくっておかないといけないだろうということを感じております。

今、話にありましたように、健康課で作成中の行動計画、そして体育保健課等からも指導が来ているわけでありますが、学校、養護教諭、校長を初めとした研修も片方では並行してあっております。現段階でそこまで具体的にこうなさいという計画は出せる状況にありませんけれども、備えをするということで検討していきたいと考えております。

**○議長（杉原豊喜君）**

12番末藤議員

**○12番（末藤正幸君）〔登壇〕**

ありがとうございます。すぐにはその辺もできないわけでございますので、やはり計画を立て、1つずつ準備をしていただければというふうに思うわけでございます。

次に、20年度の補正で取り組んであります700万円ですね。これは防護服や消毒薬の購入の予算だというふうに聞いておるわけでございますが、700万円はかなりの大金でございます。この使途といいますか、何をかう云々というようなことで計画をされておりますが、これは3月までにできる行動計画に沿ったものかどうか、お尋ねをいたします。そして大体何を購入するのか、ちょっと詳しく説明をください。

**○議長（杉原豊喜君）**

國井くらし部長

**○國井くらし部長〔登壇〕**

12月議会の上野議員の質問におきまして当初予算でお願いしたいということで答弁しておりましたけれども、地域活性化生活対策臨時交付金というのが利用できるということで、早目に用意しようということで、補正予算で上げておるわけでございます。これにつきましては、今議員がおっしゃいましたように、防護服が約690万円程度、これは1日50着として約2カ月の行動期間ということで、初回の分を約690万円。あとは消毒の医薬品等を買うようにしております。また、今後も行動計画に沿ったところの情報等の収集に努めまして、防護服とか備品等については精査していかなければならないと思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

12番末藤議員

**○12番（末藤正幸君）〔登壇〕**

新型インフルエンザは本当にまだ未知の世界でございます。しかし、必ず発生すると言われております。できる限りの知恵を絞っていただき、計画を立てて、発生時には人がどう行動するかが基本だろうと思います。常に具体的な情報発信をお願いしたいと思います。

次に、もう1つ、最後になりますが、安全・安心で、国道35号線のS字カーブの改良について、ちょっとお尋ねをしたいと思います。

このS字カーブの改良については、旧山内町からずっと先輩議員、また今おられる議長を初め、保守系議員等が一生懸命取り組んで、自民党の国会議員の先生等に本当に要望をいたしまして、やっと事業化が見えてきたわけでございます。このたび、地権者の方の理解と協力をいただいて、やっと測量の運びになったと聞いておるわけでございますが、このS字カーブのことについて、今後のスケジュールをお尋ねしたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

松尾まちづくり部長

**○松尾まちづくり部長〔登壇〕**

この35号、踊瀬地区のS字カーブ改良工事ですね。これは議員おっしゃるとおり、平成15年からの事業でございます。途中一時休止という時間もありましたが、やっと地権者の同意が得られまして、同意書を佐賀国道工事事務所のほうに提出したところでございます。これを受けまして、平成21年度、新年度は詳細測量、あるいは詳細設計のほうに入っていくということが予定されています。それで、これは事業期間としても、事業に入ってから大体6年から7年程度で完了したいという計画になっているところでございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

私からは、まず地権者の皆さん方にこの場をかりて、やっぱり御礼をしたいと思うんですね。やはりこの事業の推進に当たっては地権者の並々なぬ理解、そして御協力がないと一歩も進まないということですので、ここに及んで、本当に大きく前進するという意味で感謝を申し上げたいと思います。

先般、国土交通省に出張に行ったときに、市長、武雄市の国道でどこが一番ボトルネックになるんだという御指摘を何人かの課長さんから受けました。そのときに、私が申し上げたのは、国道34号線のバイパスの部分。それと、この西谷峠の部分、そしてその他、ちょっと幾つか申し上げましたけれども、これは市民の皆さんたち、県民の皆さんたちの安心・安全のために、ぜひ国土交通省におかれても事業の加速をお願いしますということを申し上げた次第であります。

いずれにいたしましても、私どもといたしましては一日も早い完成を目指して頑張っ



いりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

12番末藤議員

○12番（末藤正幸君）〔登壇〕

ありがとうございます。そういうことで、やっと現場での測量というのが始まってきたようでございます。

ちょっと中身で1つお尋ねしたいんですが、今度のS字カーブの改良で工事範囲が大体わかれば教えてください。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

今の計画区間としましては、上西山から山内の踊瀬バス停、あそこの鳥海川ですね。あそここのところまで約1キロを計画されております。

○議長（杉原豊喜君）

12番末藤議員

○12番（末藤正幸君）〔登壇〕

上西山からS字カーブ通って、踊瀬バス停の川のところまでということで今説明受けましたけれども、あそこの川のところからもう少し先に酒屋さんがございますが、約200メートルぐらい先ですかね。そこは前は町道でしたけれども、今は市道踊瀬線でございます。これは県道嬉野山内線までつながっている道路でございますけれども、そこから子どもたちが市道を通って国道に出て、そして、今言う川の横の停留所まで20名ほどの子どもたちが歩いてきて、そこからバスに乗って東小学校まで通っている状況でございます。非常にそこが今言いましたけれども、歩道がなく、本当に危険な状態でございます、いつも今言う安全指導員さんに立っていただいて、朝の交通指導をやっていただいているところでございます。そういうことで、踊瀬バス停のところにとまりますと、あとちょっとのところでは歩道ができないわけですね。だから、あと200メートルもないと思います。これは地権者の方の協力を得にやいけないと思いますけれども、その部分まで、市道の取り付けのところまで延長をお願いしたいわけでございますが、お考えをお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

議員おっしゃるとおり、踊瀬線まで95メートルあります。この区間が確かに計画に入っておりませんので、市としましても、今、国道とここの踊瀬線まであと約100メートルですね、あと100メートルどうしても延ばしてもらいたいというところで、今協議をしている

ところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

12番末藤議員

○12番（末藤正幸君）〔登壇〕

お願いいたします。ぜひ、そこまで延長した工事がなされますように、節にお願いをしておきます。

公共事業は今市長もおっしゃったとおり、地権者の方の理解と協力が不可欠なわけでございます。地権者の方の対応は、本当に失礼なきよう慎重に行っていただきたいと、ここで申し添えておきたいと思っております。

それでは、最後の質問になりますが、入札についてと項目を上げておりますが、随意契約について、ちょっとお尋ねをしたいと思っております。

まず、競争見積もりをなされているわけでございます。この競争見積もりをとるのは、大体1物件何社とられているのかお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

競争見積もり、いわゆる随契のための見積もりでございますけれども、2社以上の業者からとっております。

○議長（杉原豊喜君）

12番末藤議員

○12番（末藤正幸君）〔登壇〕

2社以上ということですが、大体平均何社ぐらいですか。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

大体平均3社とっているかと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

12番末藤議員

○12番（末藤正幸君）〔登壇〕

3社ということでございます。これから1社選定されるわけでございます。

業者決定のことについてお尋ねをいたします。

契約相手に決定した、当然最低価格の業者だろうと思っておりますが、契約をなされるわけでございますので、連絡がいくと思っております。しかし、一生懸命頑張って経費を省いて、見積りを提出しましても、2番札、3番札になってしまっていて契約できなかった業者に対しまして、業

者決定後の契約できない旨の連絡、これはなされているのか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

現在のところ、行っていないようでございます。

○議長（杉原豊喜君）

12番末藤議員

○12番（末藤正幸君）〔登壇〕

その契約できない旨の連絡はやっていないということでございます。本当に業者の方は大変厳しい時期でございます。仕事が少ないわけございまして、仕事を受注したい業者はたくさんおられます。そして、一生懸命自分の営業を本当に削って削って、かなり厳しい単価を入れておられるというのが今現状だと思います。やはり、そういう業者に対しましては、そういうふうな旨の連絡はやっていただくべきではないかなと思うわけでございます。そしてまた、単価の公表ですか、最低契約者が幾らの金額で契約したんだということも公表していただきたいわけでございます。その公表もされているわけですかね、されていないわけですかね、ちょっとお尋ねを……（発言する者あり）されていない。そういう契約した金額も公表されていないということでございます。これはやはり公表して、じゃあ、今度はあの単価でうちも頑張ってみようとか、こうなると思うわけでございます。そういうことで、その辺の改正といいますか、あり方について今後のことについてお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

質問を聞きながら深く反省をしております。最低価格の公表、そして入札に至らなかった方にはその結果をきちんと報告するということが行政の責任だと思いますので、今後そのようにさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

12番末藤議員

○12番（末藤正幸君）〔登壇〕

ありがとうございます。ぜひお願いします。本当に今、不況のどん底でございます。業者の方も本当に必死でございます。そういうことで、地元業者の育成ということで、ぜひお願いしたいと思います。

それと、これは最後になりますが、入札制度でちょっとお願いでございますけれども、今、市の入札では最低制限価格を取り入れて入札をやっておられると思います。この最低制限価格が業者の経営を圧迫したり、雇用の妨げになっているというようなことで、佐賀県、それ

から佐賀市もそうでございますけれども、5%ほど最低制限価格を今度アップされたという報道もあっております。そういうことで、こういう本当に不景気な時代でございます。雇用対策という観点からも、今後、当市でも最低制限価格のアップ、そういうようなことも考えていただきたいと。雇用対策につながるものでございます。ぜひ取り入れていただきたいというふうをお願いをいたしまして、私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございます。

〔22番「議事進行について」〕

○議長（杉原豊喜君）

終わられましたら、席に着かれてからお願いします。

以上で12番末藤議員の質問を終了させていただきます。

22番平野議員

○22番（平野邦夫君）

先ほど末藤議員の35号線S字カーブの進捗状況の質問の中で、保守系議員の頑張りでという発言がありましたね。これは事実誤認ではないかと。これは平成14年に期成会が山内町と武雄市と結成されて、そして平成15年だったと思います。その当時の建設省、くらしを守る共同行動佐賀県実行委員会で35号線S字カーブの改善について申し入れてきたんですよ。その当時の建設省の報告では1日の通行量2万台、そしてずっと最高6人の死亡者が出ています、ということなどの資料も示しながらね。そして、予算がついたのが調査費として16年の15億円。これは旧武雄市の議事録を調べてもらえばわかりますので、そこら辺の議事録を末藤議員に精査してもらって、旧武雄市以外で取り上げてきたと。そして、ちゃんと建設省の交渉の結果も報告すると。同じことを江原議員も旧山内町で取り上げておられるんですよ。そういう事実をきちんと認識した上で、保守系議員の頑張りの量においては、そりゃ、数でまさっているかわかりませんよ。中身においてはまた違うかもしれませんからね。そこら辺はぜひ事実をきちんと精査した上で、一般質問というのは市民の皆さんたちに流れるわけですからね。

そういった意味では、保守系議員と言われましたので、それはそうじゃないよというふうを考えておりますので、ぜひ議事録を精査した上で訂正してもらえれば訂正していただきたいということを議長にも申し入れをしておきます。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

私が答弁しなくていいですか。

〔22番「まだ議事録を精査してもらわにゃいかん」〕

今、末藤議員が保守系議員と申されました。保守系議員の中で、私たちは極端に言って自民党議員さんですよ、自民党の議員が国会議員の先生たちにいろいろお願いしたと。それは

国会議員の先生方を山内町に呼んで、来られてお願いをしたと、私はそういう意味で言われたなど。後ほど議事録を精査させていただきます。

ここで3時15分まで休憩をいたします。

休	憩	14時59分
再	開	15時14分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、29番黒岩議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

皆さんこんにちは。一般質問も4日目の5番目ということで大変お疲れと思いますけれども、しばらくの間、御清聴くださいますよう、よろしく願いいたします。新政和クラブの3番目の——3人しかいませんけど、3人目の黒岩幸生でございます。出身地は北方でございます。どうかよろしく願いいたします。

月日のたつのは本当に早いものだなと最近感じておるところでございます。ことしの元旦は、すばらしい雪化粧の中に始まったわけでございますけれども、もう既に3月と、水ぬるむ季節、桜の季節も目の前であるわけであります。1市2町で合併してから3年の月日が流れたところでございます。3年の月日が流れたといいましても、そのうちの約半分、一年半は文字どおり市民病院問題に翻弄されていたと言っても決して過言でないような気がいたしているところでございます。そこで、今回は合併後の諸問題を検証しながら一般質問を行っていきたいと思います。どうかよろしく願いいたします。

ここで振り返ってみますと、実質的に国や県の主導で始まりました平成の大合併によりまして、政府の思惑どおり、もくろみどおりと言ったが正確かもしれませんけれども、市町村の数は3,232から1,773と、まさに半減したところであります。合併時に国や県はスケールメリットを生かすことで、サービスは高いほうに、負担は低いほうに合わせることができる、市民生活はよくなると言われていたわけでございます。スケールメリット、つまり1市2町で合併しますと、2人の町長が要らなくなる。助役、収入役、教育長も3分の1で済むようになる。何より大きいのは、議員定数を大幅に減らすことができる。その分、余った余剰財源を市民生活に回すことができる。だから、市民生活はよくなるんだ、サービスは高いほうに、負担は低いほうにということでございます。

実際、数えてみますと、北方、大町、江北、ここは山べた3町といいまして、炭鉱町で栄えたところでございます。これが切磋琢磨しながらも、大体何かといたら合わせてきたわけでございますけれども、議員数を数えてみますと、実質、北方が4人、大町が10人、そして江北が10人と、大町、江北の半分以下という状況になっているわけであります。佐賀県全

体で見えますと、県内の市町村議員の数は、今回の大合併の前には747人いたのに、合併後は423人となり、実に44%の削減率になったのであります。しかし、問題なのは、国会議員や県議会議員は今度の合併で1人も減っていないのであります。杵島郡を見ますと、北方と山内が武雄に合併したわけでございますし、県議会議員の定数は1人減りました。しかし、武雄に北方、山内が入りましたけれども、人口はふえましたけれども、県議会議員の数はふえていないのであります。全く関係ないところで1人ふえていると、こういう珍現象が起きているところでございます。

それでは、人員を削減することで市民生活は本当によくなったのでしょうか。市民の皆様本当に還元されたのでしょうか。自治体が大きくなったことで、市民の声が届きにくくなった、こんなはずではなかったのが周辺部——午前中、牟田議員が武雄市の中で周辺部と言われましたので、へき地になるかもわかりませんが、周辺部、つまり北方、山内から大変多くの声が聞こえております。なぜでしょうか。また、当初の話、合併前の話とは逆に、サービスは低いほうに、負担は高いほうに合わせているのではないかと、スケールメリットは何も生かされていないのではないかと、市民が犠牲になっただけではないかとの多くの声も聞こえてまいります。

さらに合併後の検証を進めてまいりますと、合併前は北方、山内には、当然でございますけれども、町長以下四役、そして職員も山内が93名、北方は87名おられ、町民に対してきめ細かな対応がなされてきました。しかし、先日、北方町や山内町の支所を訪ねてみますと、合併後の今日では、支所長以下ともに25名の職員しかなくて、本当に寂しい限りであったのであります。これからさらに支所の職員も削減されようとしています。これでは北方町や山内町は取り残され、周辺部となり、地域間格差が助長されていると住民の方が思われるのは至極当然のことだと思えて仕方ないのであります。

さらに問題なのは、北方町や山内町の支所長の権限、つまり裁量権や許認可権がどこまで認められているのか。何かあれば本庁に聞かなければわからないとする市政には、住民感情としては納得できないものがあると思います。そのことに多くの人が不満を持っております。これでは北方町や山内町の今までの特徴は生かされていくのか、甚だ疑問であります。合併のときの約束は、1市2町の均衡ある発展であります。1市2町が均衡ある発展をするためには、また、北方町や山内町の住民の方々に疲弊感を持たせないようにするためには、画一的な統一でなく、もっともっと財政的にも支所に柔軟性を持たせ、支所の特徴を生かせるように予算と権限を与え、支所機能を強化すべきだと思います。

合併前の合併協議会の中では、総合支所方式、つまり本庁をつくれれば、どうしてもそこだけが大きくなる。そういうことから、本庁をつくらずに、すべてが支所になる総合支所方式、あるいはまた分庁方式、例えば、北方町が事業部を持ったり、あるいはまた山内町が教育や福祉を持ったりなどなど検討したわけでございますけれども、その理由は、長年親しんでき

た北方町や山内町の役場が地域の核としての役割、心のよりどころとしての役割を1市2町がある程度融和するまで、当分の間、残しておくためだったはずと思います。

午前中に山口裕子議員から事業部の部屋の話があり、感銘深く聞いておりましたけれども、残念ながら私とは結論が違ったようでございますけれども、私は合併協議会の中で、先ほど言いましたように、総合支所方式、分庁方式を真剣に議論してきた者として、本庁が手狭なら金を使って建てかえる、そういう話よりも、職員が少しは不便になるかもしれないけれども、例えば、先ほど申し上げましたように、北方支所に事業部、山内支所に福祉、教育を置くなどの考え方もすべきだと思います。

そこで、市長にお伺いいたしますけれども、1市2町の均衡ある発展とは、機械的に単純に平準化せず、1市2町のそれぞれの特徴を生かしながら自然と融和していくものだと思いますが、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

合併の話については、やっぱり市民の心の問題だというふうに思っております。そういう意味では、黒岩議員がお示ししたその合併の方向と基本的には同じであります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

懐かしい方もいらっしゃるかもしれませんが、「さが進化論」ですね。（資料を示す）市長、見られたかわかりませんが、これは佐賀県の総務部の市町村課から出てくるものです。これはコピーです。本物はカラーです。それで、これが私たちの合併協議会の指針になっていたんですね、市長。それで、将来の悩みということで、いろいろ心配を書いてあるんですね。市町村合併の不安はということに対して、Q&Aで載っておりますけれども、「市町村や町役場が遠くなって今までより不便になりはしませんか」、ブーですね。

「本庁と支所とをオンライン化したりすることでサービスは今までと変わりません」。「中心部だけよくなって、周辺部は取り残されたりしないですか」、これもブーですね。「合併前のそれぞれの市町村が持っている歴史や文化、産業などの特徴を生かしながら、すべての地域が機能を分担し合って、新しい枠組みの中で新しい発想に立って、特色あるまちづくり、周辺部も配慮したまちづくりができる」、こうなっているんですね。そしてまた、ほかにもありますけれども、合併して大きな市になると、住民の意見が反映されにくくなるのではないかと。あるいはまた、合併前の各地域の個性や特徴が失われていくのではないかと。税や公共施設の使用料などは市町村間で違うが、負担はふえるのではないかなどなどの不安が出されて

おりますけど、これに対して、意見が反映されにくくなったり、各地域の個性や特徴が失われていくことはありません。また、一般的には事務処理の効率化によって、サービスは高い水準を保ちながら住民負担は増加しない、こういう指針を受けて、ずっと合併協議会で協議をしてきたんですね。

これは懐かしいと思いますけど、合併協議会の協議会日よりです。（資料を示す）ずっと出しておられますね。ここは武雄の競輪場ですね。飛龍窯、そして黒髪の浪漫まつり、これは山内ですね。これは山内耶馬溪という夫婦岩ですね。これが大聖寺の火渡りですね。それで、これを私は一番ずっと好きやったのは、いつも一緒のことを書いてあったのは、ここなんです。私がずっと心の支えだったのは、「地域を超えたつながりあるまちづくりをめざして」、これが非常に好きだったですね。そういうことで協議をしてまいって、その特徴あるのを生かしていくということだとずっと思っていたんですね。例えば、武雄、これは観光、文化、教育、芸術産業の非常にすぐれたところだと思います。山内は美しい自然を生かして、そして、もちろん自然を汚さないために農業集落排水事業、その事業が完了しているんですね。そして、環境を守ると。北方町は御承知のとおり、わかるように、道路網の交差点に当たるんですね。多久へ通ずる道でしょう。そして伊万里、佐世保、それから長崎、鹿島ですか、そして北に佐賀ですね。ちょうどここに当たるんです。そういうことから、北方町は道路網を生かしたまちづくりをずっとやってきたんです。

昭和49年に松本町長さんが誕生してから、松本町政でまた一緒にやってきたんですけれども、それまでは、先ほど言いましたように、北方は炭鉱町なんですね。炭鉱町でずっと人口が減ってきて、当初、一番多いときは2万8,000人いたんですね。ずっと下がってきて8,000人切ったんですよ、昭和49年はですね。それで、松本町長さんはそれではいかんということで、ベッドタウン構想、とにかく若者を集めようということで、今ずっとありますけれども、西杵団地、昭和50年からずっと建てられましたけど、非常に応募がよかったですね。5階建てでエレベーターもないですけれども、子どもさんを持つ若い夫婦連れを初め、いっぱい来られたですね。そのころは、いつ北方は入居選考委員会をするんですかということを武雄からも問い合わせが来よったです。大町からも来た。なぜか。北方にみんな来て、抽せんにごぼれた人たちが第2として行くという状態で、非常に好評だった。もう1つは、市長、ぜひこれを覚えてほしいのは、そのとき松本町長がしたのは昭和49年ですよ。3歳未満児医療費の無料化ですね、それをそのとき打ち出したんです。新しい近代的な住宅と、そしてそれを打ち出した。それがバックになって非常に住宅政策も進み、民間宅建業者もいろいろ入ってきたですね。そして、北方町の浮揚をしていったんです、住宅政策。だから、北方町は生活道路路面、生活関連施設、団地内舗装整備、これはよそと違って一生懸命力を入れてきたところなんですね。部長、まだまだ継続事業があるんですね。これに力を入れてきたところなんです。だから、そういう特徴があるのに、北方はと平準化されれば、やっぱり特徴が死んでいくん



ですね。

そういうことですので、市長にお伺いですが、1市2町が融和していくためには、もっと北方町、山内町の特徴を生かすために支所に重点を置いて、つまり支所に裁量権をもっともって持たせてやって、予算面も柔軟にしてやって、そして生活者重視の政策が必要だと。ちょうど昭和50年ごろを思い出しましたが、つまり心を優先した融合策、先ほど市長おっしゃられましたね。そういう政策を進めていくべきだと思いますけれども、答弁を求めます。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

地方分権というのは、究極、行き着く先は、やっぱり個人主権だと思うんですね。国の権限なり命令系統がどんどん行って、最終的に行き着くとは個人であるといったときに、ある意味、市町村合併は地方分権と反することなんです、ベクトルがこっちに戻っていくという意味では。あるいは道州制もしかり。したがって、その観点からいうと、私は基本的に極端な地方分権論者ではありませんけれども、やはり個人の住んでいるお心、お気持ちを考えた場合には、黒岩議員が先ほど御指摘のあったように、支所に権限を柔軟に与えていく方向で私もかじを切っていきたいと、このように思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

29番黒岩議員

**○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕**

特徴を生かすというのは、なかなか難しいと思うんですね。これは部長に聞いたがわかりませんが——市長がよかですね。市長が今、市長ですけども、市長にならずに総務省に定年まで勤めたとして、そして、子どもさんが3人いる。北方、山内、武雄ですね。先ほど言いましたように、北方は非常に往來の激しいところに子どもさんが家を建てられた。どういう建て方をするかといいますと、まず木戸道を立派につくりますね。やっぱり花壇ということに目が行くでしょう。山内に家を建てられた方は、やっぱり美しい自然を生かそうとするんですね。だから、環境面に非常に力を入れた。農業集落排水事業を入れて、また家庭菜園もきれいにつくられたということですね。武雄は、先ほども言いましたように、文化、芸術、観光のまち。それに合わせた家づくりをされていた。まして武雄は武雄市民病院という主治医を持っていたんでしょう。それぞれ特徴があって生きてきたと思います。市長が定年になって帰ってきて、ぱっと見て、武雄は木戸道も舗装ばしきっておらん。家庭菜園は名ばかりで、草ぼうぼう生えておる。こう見たら、つい武雄に力を入れるようになると思います。そうじゃなくて、北方はそういうことをしていたら、ああ、それならここら辺をもう少し助けてやろうか、山内は環境面、そこら辺を助けてやろうか、武雄を助けてやろうかということにしなければ、単に平準化すれば、ここは後で論議していきますけれども、

サービスは低いほうに合わせていくようになるんですね。ちょっと勘違いしそうですが、サービスがどうしても低くなっていくんですよ、平準化すれば。そう思いますけど、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は余り観念論が得意じゃありませんので、私はもともと実務者上がりですので、一つ一つの項目について、それが高いか低いかという議論だと思っていけるんですけども、先ほど議員が大所高所からおっしゃっていただいた、サービスは低く下がるほうになるというのは、もう少し御説明を賜ればありがたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

そのことを先に答えれば、例えば、北方は先ほど言いました住宅政策は非常にしておるですね。もっとうこういうことをしようと思っておるときに、していないところがあったら、これはとまりますね。3年なら3年とまるんですよ。そしたら、ここは進まんですよ。特徴が失われていく。北方には文化会館も何もないんですからね。いろいろ違いがありますからということになりますけれども、例えば、道路予算です。（パネルを示す）これは資料をやっておると思えますけど、いいでしょうか。これが山内、北方、武雄の道路維持管理費の推移です。1番目の資料です。山内は青で書いております。それには色ついていないと思えますけど、旧山内町と書いてありますけれども、16年度が1,117万円、17年度が4,545万円、18年度、合併した年が1,614万円、そして19年度が1,755万円です。北方町はといいますと、16年度が4,249万円、17年度が5,177万円、そして18年度、合併した年ですけども、この年が3,567万円、そして19年度が1,875万円と、こういう状態が出ているんですね。恐らくこれは先ほど言いますように、部長にお伺いしますけれども——市長が査定しませんよね、最後はしますけれども。見た目、いろんなところで舗装は舗装と単一的に比べますね。北方は道路がすごかった、山内は環境がすごかった、こういう中で、低いところに合わせれば片一方は進歩はとまるんですね。実際、道路予算は、道路維持管理費は落ちているんですね。このことについて、どのように思われるか、部長、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

道路維持費につきましては、合併を機にある程度見直しをしまして、おおむね統一性を持たせた維持管理に努めているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

だから、統一したと言われたらしょんないですけども、例えば、先ほどから何遍でも言いますように、維持管理が要らなかったら道路改良費に回すとか、道路予算は道路予算として、北方町は今までしてきたぐらい大体あるですね。山内町がしてきたともあるんです。武雄市は武雄市でほかのとをしょったからですね。そういう流れはある程度きながら、そして北方は北方、山内は山内で心を丸めながら自然と心を武雄市に持っていくと。だから、一遍に事業をぼんと冷たくいけば、今までよかったところが悪くなっていくというんですね、しませんから。

そういうことなんですけれども、道路改良費に回すとか、だんだんいきますけど、そういうことが要る。危険箇所の改良とか、やっぱり予算額をある程度一緒ぐらいしてやるべきだと思いうんですね。そういう言い方なんですよ。例えば、北方町——山内町も一緒と思いますけれども、農免道路の草刈りなんかもしょったんですね。もちろん幹線道路の草刈りしてました、道路維持管理に力を入れてきましたからね。しかし、北方からお願いと言うぎいかんばってん、本庁に伺ったところが、そのくらいのところならどこでんあると断られた。だから、合併してから、恐らく山内も一緒と思っておるけど、切っていないですね。そういう状態が今起こっているんですよね。それくらいというぐらいなら、それくらいのところをしてくれんですか。市長、これは削減のし過ぎと私は思うんですよ。だから、何遍でん言いますけど、整備より平均がいいととめておけば、そこの特徴が失われていくんだという論法ですけれども、まだまだ市長はぴんとかん、何かずれているようでございますけど、私は観念論者みたいに言われますけど、私も本当は唯物論者ですよ。だから、特徴を生かすためにも、道路予算全体は今までどおり確保してやるべきだと思いますけれども、それは順番が変わるだけなんですよね。北方がよくなったり、山内がよくなったりですね。と思いますけれども、わからないならわからないでいいですよ。私はそう思いますので、答弁を求めておきます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

だんだんわかってまいりました。私、先ほど黒岩議員がお示しいただいた1のパネルでございまして、これだけ差がついているというのはちょっと思いもしませんでしたので、私どもとすれば、必要などころに必要な予算というふうに思っておったんですけども、予想以上にこれだけ差がついているということは、これはちょっとやっぱり是正をする必要があるだろうというふうに認識をしました。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

余り理解が早いので、説明しなくていいかもわかりませんが、この次をめぐってください。これは道路改良費の推移なんです。道路予算の一つですね。青が山内で、これ単位は万円ですから、1億3,767万円、17年度が1億7,363万円、18年度が1億8,420万円、18年度が合併の年ですね。そして、ぼっと落ちまして平成19年度が6,997万円、平成20年度が1億2,000万円、平成21年度が1億2,200万円なんですね。北方はといいますと、16年度が1億2,850万円、平成17年が1億5,190万円、18年度、これは合併した年なんですよ、2億5,031万円、立派にしてもらったから喜んだですね。調べてみました。そしたら、34号線にリムスがあるですね。あれから100メートルほど東に行ったところから医王寺のほうに道路があるですね。六角川を渡っているんです。その六角川に亀裂が生じたんですよ。だから、急遽予算が要って、それを修繕してもらったのが2億5,031万円ですよ。19年度はふえています。19年度も1億5,600万円、そして20年度が1億3,800万円、さらに21年度は7,800万円。結局は維持管理費も改良費も減っているんですね。それだけ一生懸命北方は力を入れてつくっておったからですね。しかし、まだまだ継続事業はあるんですよ。武雄はといいますと、やっぱり大体平均来ております。16年度が1億4,106万円、17年度が1億5,190万円、18年度が1億2,938万円、そして19年度が1億2,502万円、20年度がちょっと落ちまして9,650万円、そして21年度は上がりまして1億5,600万円と。大体これがさっきと比べて一緒ぐらいの道路予算でいけないかというのが、その均一化の話なんですね。

だから、総合予算が必要だと言いましたけれども、私がおった北方町は20部落あるんですよ。そこに毎年50万円、一般土木ということでしてきたんですね。これは戸数が大きいところも小さいところも一緒の50万円なんですよ。今、1市2町の話していますがね、一緒の50万円をやって、そしたら、例えば小さい部落で金が要るときには、毎年50万円ですから——大体50万円ですよ。100万円使えば、その次しないですよということで長年やってきたけど、それぞれ自分のまちをつくっていく。その点、頑張ってきて、あるところは飛び抜けてよくなったというのはないんですよ。私が50年になったときやから、もう三十何年もずっと一般土木をしてきたですね。むしろ、まちよりも周辺部、怒られますけどね、周りのほうが余計金の要るんですよ。北方町はそういう状態だったですね。そういうのをやってきましたから、1市2町で合併しても、最初見たときに、ああ、北方は舗装のよかねと思って、回り回って一緒なんですよということですね。だから、予算が多いからといって削れば、後で逆に大変なことになっていくという話ですけども、山内も一緒みたいな状況があるんですよ、道路予算も。環境面は力を入れていましたからね。だから、何遍でも繰り返しますけれども、合理的に考えれば、市長が言うように、悪いとをぱっぱっぱと直してい

くが本当かもしれません。合理的に考えれば、悪いところを直していけばいいんですけれども、そうばかりとは限らんというのがですね、何というですかね、機械的にするじゃなくて——機械的じゃないと思いますよ。温かいぬくもりもある考え方で支所を今までしてきたことをある程度一致させて、そこに心を合わせていくと。そして、心をまとめるということですね。市長、合併で一番大事なことは、私は均一なものよりも心をですね、市長はやっぱり人の心をつかむことだと思いますね。

だから、どういうことが起こっているかといいますと、例えば、北方町は特別養護老人ホームの杏花苑というのがあるんですね。御存じですね。あそこは全部舗装が済んでいるんですよ。あそこは民間業者さんがつくった団地なんですね。だから、見てわからんけど、どういう状態かといいますと、断面を書きますと、民間業者さんで道を腹いっぱい取る人はおらんですね。やっぱりぎりぎり取るんですよ。建築基準に合うようにぎりぎりなんですよ。だから、どういう状態かということを断面で書きますと、道路があるですね。その横はU字溝があるんですよ。これはふたがないんですよ。そして、その横が宅地なんです。だから、この宅地に家が建って塀を立てば、バスが通ったとき、よけられんとですよ。そういうことで、平成17年から入り口側からずっとふたつきになってきたんですよ。今、ふたつきをやっております。しかし、18年からとまったままなんですね。あるいはまた、みどり台というところがありますけれども、団地です。これも個人の人がつくったところですね。だから、そこはこの前、新聞配りに行って、こんな大きな穴に生コンで打ってあるんですね。ここは市道じゃないんですね。こういうことを書いてあるんですね。この係は部長のところですよ。わからんですか。「お近くの市道にへこみや穴があいているなど異常箇所があれば御一報ください」ということですね。今、みどり台というのは、ほかのところも一緒ですけども、幹線は町道——今、市道ですね。町道のほうが言いやすいから、町道なんですね。支線は私道があるんですね。しかし、共同物ですよ。なぜか。すみません、町道と言いますが、町道でしてしまえば不特定多数が通られるし、先を乱開発するおそれがあるんですよ。そういう北方町の特徴で、そこら辺、非常に気を使いながら、真っすぐ町がとらずに、わざわざ個人——個人じゃないですけど、不特定多数ですけど、共同ですけど、そういうところ、それを今まで北方町はやってきたんですよ。そういうことはしてもらえない、そういう現象が出ているんですよ。

そして、浦議員もきのうおっしゃったのが、山内の話ですね。山内の宮野も予定していたけど、できないということで、お願いしますと言われたですね。私もほかのところですけど、考えていたんですね。それは山内町の黒髪に私の友達がいますので、黒髪の主要幹線、あるいは農道、この改良は今してもらっているんですね。山内の今山にも友達がいますからですね。そこも市道早稲田宮ノ前線ですか、名前は。そこの改良予定だったんですね。これは山内町の総合計画、5カ年計画、平成17年度から21年度までです。この計画に平成20年度、90

メートル、幅5メートル、そして平成21年度、80メートルの幅5メートルする予定だったんでしょう。それがいろいろなことで、ほかにするところのあるということで、武雄市一円を見てされたかわかりませんが、今言いましたみどり台の人、それから杏花苑の道路、なおかつ早稲田宮ノ前線ですね。宮野を言いさったですね。ほかにもあると思うんですよ。そうすれば、せっかく武雄市に合併してきて、期待しておった、できんごとになった。じゃ、今までの予算はどこに行ったんですか。当然できる場所なんですよ。

部長、一言聞きますけれども、山内町、今言うたことができない理由は何ですか、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

道路維持費の予算につきましては、毎年、大体1億円の予算配分をもらっています。その予算の範囲内で優先順位をつけて、今、整備を行っているというところでございます。それで、今議員がおっしゃった地区が計画どおりできていないといえますのも、その予算の範囲内からどうしても漏れてしまったというところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

私、一番最初、部長に言ったですね。機械的平準化すれば、そういうとが出てきますよと。これでは私だったら怒りますよね、その近くおってですね。日本語で言うぎ、何や、合併したぎ悪うなったたいえとしかならないんですよ。だから、今までしてきた考え、いろんなことは、支所機能を生かして、そこに聞きながら、それは1億円の予算があれば枠が決まっている。しかし、今まで北方も山内もやってくる予定でしたからね。何も絵そらごと書いたわけやないですから、できにゃいかん。それができていない。そうなるんですよ、市長ね。それが最初言った機械的平準化しようと思えば思うほど、いいところがはがれて、こういう現象が起こるんです。だから、今までと急変する。一生懸命だと思えるんですよ。しかし、急変したら地方のほうに疲弊感になるし、真ん中だけよくなっていくという現象なんですよ。どう思われますか、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

そのとおりだなと思いました。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

**○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕**

だから、ずっと検証しますけれども、市長、検証してやっぱり助けるところは、あと1年ありますから、考え方を変えていく必要がある。私が一番言っているのは、一生懸命合わせよう合わせようとするほど、いいところは削られていくということなんですね。だから、ぜひともその心を持っていただきたいと思います。

これはきのうも出ておりましたけど、498号線の18年度の提案事項ですね。（パネルを示す）19年度も一緒でした。21年度は今度、市長からつくってもろうて中が変わりました。あえて前のことを言いますけれども、18年度を見てみますと、498号線ですよ。伊万里から鹿島まででしょう。伊万里、伊万里、武雄、武雄、武雄、塩田、塩田、鹿島ですね。武雄、これは国道34号線から松浦バイパスまでの整備促進が10キロですね。もう1つ、武雄は、武雄市若木町本部地区の歩道新設ですね。さらには武雄市朝日町川上地区歩道整備ですね。これはもちろん498号線ですので、いいかもわかりませんが、このとき北方も合併しているんですね。武雄市なんですよ。

次、お願いしますね。（パネルを示す）図面ですね、そのとき添付された図面なんですよ。19年に私は指摘しました。これが498号線なんですよ。この丸のところは川上ですね。ここは赤をつけましたけど、皆さんとはついておらんと思います。地図のほうですよ。これが北方朝日線なんですよ。これは北方を通っていくんですよ。これは先ほど富永議員と雑談しておりましたら、498号線はこっちゃん来ておろうもんと言いました。まさにその話は数年前やったんですよ。北方はそれに向かってずっと一生懸命してきた。しかし、後で言いますが、ドライブインふちがみのところでなかなか行かないという問題、いろいろ問題を抱えています。しかし、せめて図面に、今、買収されている、今、問題を抱えております34号線バイパスですね。市長、武雄から来たバイパスが買収してあるのは載っていないですね、今、市長に一生懸命してもらっているところですよ。せめて地図には、提案で498号線のあれであっても、武雄市の問題だということで、部長、なぜ載せることができなかったのか。やっぱり道路問題で、先ほど言われました35号線のS字カーブですか、あれだけみんな真剣になってやって、みんなのものとなっているんですよ。ぜひこれも北方じゃなくて、18年度からもう武雄市ですから。やっぱり疲弊感を感じずに、ああ、北方のことをしてくいよんさるたいというぐらいはすべきだったと思いますけれども、答弁を求めます。

**○議長（杉原豊喜君）**

松尾まちづくり部長

**○松尾まちづくり部長〔登壇〕**

議員御指摘のとおりでございます。18年度、確かに大崎交差点のところの買収済みのバイパスまでの区間ですね、図面に載っておりませんでした。ただ、34号期成会、これのほうには載っておったわけです。ちょうどここだけ載せるのを落としておりました。申しわけござ

いません。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

では、34号線の期成会だったら、武雄バイパスからつないだ地図はありますね。あったら持ってきてください。——地図があったら、それをコピーするときは逆でも写るんですよ、私が言っているのは。持ってこなくていいですよ。写るんですよ、これをつくるとき。もしこれをあなたたちがつくれば関係ない道も写るでしょう。だから、これに載せておったのが一緒の地図であれば、ここら辺まで写りますよね、34号線の延長が。だから、34号線期成会と結ぶところは一緒ですから。部長、武雄バイパスと北方のバイパスと接点は一緒なんですよ。だから、34号線のほうで結んであったら、こっちで結んでいなければいけない。それは探してきてもないと思います。いいです、時間の無駄です。だから、今、北方で一番問題になっているところを、つまり私は何遍でも言うように、市長も言うように、先ほど答弁で——だれかの答弁やったかね、言ってもらったですね。34号線の延長と、35号線のS字を最重要課題として武雄市で持っていくと。欲しかったのはそれなんですよ。

次の質問に入りますけれども、次は図面ですけれども、北方朝日線のパネルですね。（パネルを示す）ここは写っていませんけど、これだけ武雄は白ですね、今。写っていません。ここは川上なんですよ。この北方朝日線の問題線というのは、市長は今、一生懸命陳情に行っていておられますので、おわかりですけれども、私の目標は武雄みんなの問題にしたいということなんですよ。だから、ここに498号線が入っているんですよ。見えないですけどね。部長、地図を見てんですか、これは白ですね。18年度、19年度はこういう状態だったんですよ。だから、そうじゃなくて一緒の問題にしましょうと今から言いますけれども、これを川上から来て、ここが杉岳、あるいは松尾建設、変則4差路なんですよ。ここも山をとる計画だったんですよ。だから、そこにおられますヤマケンさん、事務所を建てようにも建てられんとですよ、買収区域ですから。移転もされない。ちょうど松尾建設さんの入り口のところです。これがまだ問題が残っております。

それで、こう来て、ここら辺ずっと、はっきり言いまして、前の県会議員の藤瀬県議が大分力を入れてもろうて大きくなってきたんです。この問題は、このドライブイン、後で言いますが、こここのところの問題ですね。ここに上に丸書いてあるとがわかるですか。これが宮本議員がおっしゃっている工業団地の予定地なんですよ。ここがインター。ここはうちん家ばってんね。わずか5分ぐらい行くところ、ここだけしかない。20町も30町も田んぼなんて埋められるわけがない。できませんよ。山もいろんな地権者もあるし、谷もあるし、川もあるし、これははっきり言って、うちの区長、後川区長は一押しですよ、ここしかない。家はここですからね、すぐ近くですからね。それはほとんどうちの地区だから、地権者の話



もできる、スピード感もある、文化財もない。大体知っておるですよ。だから、提案者の一人なんですね。それを、あえてきょう言いますけれども、ここを松本町長が買い占めたという話ですね。転売するために持ってきたと。市長の選挙のとき、ばらまかれたですね。

〔市長「ばらまかれた」〕

4回、今まで橋下昭二という名で、北方町、橋下昭二で、北方はおらんです、そがんとは。前田さんという話があるばってん、違うですよ。違うですね。そしたら、違うそうですので、テレビを通して言いますけれども、議員の大半がもっている橋下昭二さん、ぜひ何かあったら私のところに直接言ってください。武雄をもめさせることはやめてください。

すみません、ちょっと横道にそれましたけど、そういうことはありません。松本町長の土地は1坪もありません。そして、私が聞いて、次の日、ここに持ってきたんですから、そのスピードで幾ら松本さんが早かっても買収し切らん。1坪もありません。これは皆さんに言うておきますね。だから、そういうことがあったので、宮本議員、さっきはすみませんでした。そういう気持ちがあったから。

本題に戻ります。今、武雄市北方で一番問題になっているのが、ドライブインふちがみのところなんですよ。これがカーブがきついということで、ここまで買収してきたんですね。しかし、その先が買収できないということで、先ほど言いました工業団地の話が来たとき、とてもじゃないけど、ここに大型車を通せば大変なことになるということから、再度、市長に陳情に来たんですよ。そしたら、よっしゃ、よっしゃやないですけど、頑張りましょうということで、今、稲富県議と、名前を出すぎ、また平野議員が怒られるかわからんばってん、稲富県議と、それから自民党の大物のところに行って、私はこれのできるなら、どこさんでん行く。左はこっちから右はこっちまでですね、どこでも行くです。それだけ地元が悩んでおるところなんですよ。ここに点線がありますね。これを先ほど部長に、北方バイパス、34号バイパス、これは皆さん、25年前、買収してあるんですよ。それができていない。我々が力がないためでしょうけど、できていないものなんですよ。それを前、ある大物代議士に言っていたですけど、その後、選挙に出られんで、また今度ほかの者に頼みよるですけども、この道路まで何とか延ばすことができないかということで、これは稲富県議はこの前、県会で取り上げておったですね。そういうことしながら、みんなでぜひともこの機運を高めてもらいたいと思います。これをつくらなきゃ、幾ら山内から早う来ようと思っても佐賀には早う行かれんけんね、みんなのものですね。

だから、これは市長にお願いですけども——お願いじゃないですね。機運をですね、先ほど言われましたから、もう一遍、決意でいいですけども、この問題、それから35号線問題、これを全部一丸となって、我々市議会議員も30人一丸となっていけるように、そして機運を高めて、中央突破しながら、ぜひとも今度つくりたい。それは私は市長に期待しているのは、あなたが官僚出身だからですよ。私たちはこの壁を崩し切らんかったです。だから、

ぜひともそっちのほうから崩していただきたいと、そう思っておりますので、決意をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

黒岩議員おっしゃっていただいたように、私は役人出身、官僚出身であります。したがって、これは地域の機運を高めると同時に、これを最終的に決めるのは、やはり国交省であります。県の管理の部分もありますけれども、やはり国交省の意向が第一だと思いますので、国交省にそういう機運が広がるように、私自身頑張ってまいりたいというふうに思っております。

そして、これは今、稲富県会議員の名前も出ましたけれども、石丸議長さんを初め、ほかの県会議員さん、そして、これについては、大物代議士とおっしゃいましたけれども、はっきり言葉で言うと、古賀誠代議士であります。この方が物すごく尽力をいただいているんですね。そういった意味から、あらゆる手段を使って、この問題については一日も早く解決をしていくというのが私の使命であり、仕事の目標であります。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

古賀誠さんの名前が出ましたので言いますけれども、前、古賀誠さんの名前を私が出したとき、市長はある議員さんたちからブーイングの出たんですね、何で地元で頼まんとかというて。私も言いますけど、できんけん頼まんとですよ。すみません、支持者の方がおられたですね。ごめんなさい。支持者の方がおられましたけど、すみませんでした。

だから、市長、合併後に一体となって取り組むということが大事なんですね。疲弊感を持たせないためには、やはり地域の特色、特徴、これはしっかり把握しておかにかいかんと思うんですね。だから、ぜひとも先ほど言った、できれば分庁方式、あるいはまた支所の許認可権と予算、ある程度余裕を持たせてやるという態度が必要だと思います。

この前、先週、確定申告に行ったんですよ、市長。そしたら、何気なく座って目の前を見たら、9日から武雄市文化会館へ移りますと書いてあったんですね。冗談じゃなかと思ったですよ。何でという気なんですね。移るんだと。聞いてみたら、山内も、いや、うちも困っておるたい、そがんことばいという話。山内は北方と違って、さらに公民館ですか、出向いていって何カ所かされておったんでしょう。やっぱり市税を納めてもらう。そのため、税務署の加勢ばしよるわけでしょうが。お年寄り、車に乗れない人、あるいは書類をとりに帰らなければならぬ人、非常にやっぱりいろんな面で困る人が出てくるんですよ、こういうことをすれば。逆行やないかと思うんですね。

税務課長ておんさらんとかな。そいぎ、総務部長よかですか。これが、それは合理化の一環かもしれません。しかし、住民の皆さんのサービスの低下になるということは、係なら確実にわかることですよ。むしろ今までは合併する前は——一緒ですけどね。広さは一緒ですよ。例えば、昔は文化会館でしていた。しかし、合併してスケールメリットが出ることによって、北方でもされるようになったですよ、山内でもされるようになったですよと、こうなっていくべきなんですよ。今まで山内、北方でできたのが、なぜできなくなるかですよ。何でもこういうことが起こるかですよ。だから、私は朝日保育園も言いますけれども、こういうのに対しては、ひな壇に座っている皆さん方、みんなプロですよ。だから、こういうことが起こりますよと、市長と相対峙してでも住民のためにしてくださいよ。それとも住民のためになるというんですかね。後で聞きます。

それから、一昨日やったですかね、その前ですかね、大河内議員の話聞いていて、私は本当に顔から火の出たというんですかね、恥ずかしい思いをしたですよ。朝日保育園問題なんですよ。つまり朝日保育園の定数が150名から120名に減ったのを知らなかった。ただ単純に合併するんだらうな程度だったですよ。そして、120名に対して164名応募があったと。それは幾らか新しいところに来る人がいるかもしれませんけれども、やっぱり調べれば、私は想定範囲内だったと思うですよ、余る、入らないというのが。今言うように150名から120名に下げたんですから、30名があれば、当然、動向調査、事前調査はできたはずでしょう。できて把握して、あるいは皆さん聞いて、一人でも保育に欠ける子が漏れないように——あなたは何て言うたかな、何じゃい言いよったね。（「スペシャリスト」と呼ぶ者あり）

あなたはプロですから、スペシャリストですからね。いや、本当ですよ。これは笑い事じゃない。

市長、私たち議員の仕事は何かと。私は一口で言えば、我々の先輩のお年寄りがありがとうと言うてくれること、そして未来を担う子どもたちの瞳が曇らないようにすること、この2つなんですよ。そのために若者の定住策をいろいろしますよね。私は今まで人生の大先輩がありがとうと言ってくれるようなことをせないかん。そしてまた、こっちでは未来を背負う子どもたちが目を曇らせない。部長、もしですね、すぐ朝日保育園の前で、ああ、今度4月から行かれるねと言いよった2歳か3歳の孫がおったと。あなたは孫いらっしゃいますか。——おられますか。そしたら、例えばの話ですけど、また関連のと言われると恐縮ですけど、雪の日に孫が外におって、あなたは家の中におることができますか。だから、今まで150人入る部屋があった。それを120人の部屋に変えるというときには、たとえ官から民に移るときでも、やっぱり手厚く温かい気持ちでしてやるべきでしょうもん。調査をする。そして、救い切らなかつたら、園にお願いしてでも何らかの方策、認可外保育でもいいですからですよ。そして、2年なら2年、3年なら3年かかってやっていこうということをやっぱり進言すべきじゃないですか。総務部長も先ほど言うたことは市長に進言すべきじゃないで

すか。来年どうなるんですか。それぞれ聞きます。

**○議長（杉原豊喜君）**

大庭総務部長

**○大庭総務部長〔登壇〕**

確定申告の件でございます。まさに事務的な話になって申しわけございませんけれども、20年度から課税事務を本庁に一本化したところでございます。それにあわせて課税職員を減少したというようなことも含めまして、今まで北方、山内、19年度はそれぞれ1カ月間、旧武雄市につきましては、6町ごとに2日間ずつ行って、あと最終的には文化会館で行ってありました。今回、そういった事情のもとに1週間分、北方、山内、文化会館に来ていただくようになりました。これにつきましても、非常にそういった意味では遠くなったということで迷惑をかけております。今後、内容体制を充実させるというようなことも含めまして、今回の体制等を検証しながら、サービスの低下にならないよう来年も努めていきたいというふうに思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

藤崎こども部長

**○藤崎こども部長〔登壇〕**

朝日保育園の定員が今のところ120名ですので、この定員増につきましては、朝日保育園のほうに定員増ができないか、市としてお願いにまいりたいと思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

29番黒岩議員

**○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕**

他人事じゃないですか。私が言っているのは、時間がないから言いませんけどね、官から民へ移る、減らしたと。それは園は園の事情がありますよ。しかし、子どもたちは一緒じゃないですか。だから、そういう状態であれば、それは若木問題いろいろありますよ。若木は定員割れ、いろいろありましょ。しかし、目の前の朝日の子が行けない、そういうのを何とかしてやろうと。永久にとっ言っていませんよ。150名から120名に落ちるから、当然想定された範囲であって、ことし、それを打ち出さにかいかなでしよ。先ほど言っただように、あなたはぬくいところでストーブをあおりながら孫を外に出しておるようなものじゃないですか。何で検討できないんですか、これくらいのことを。

いいです。ぜひ市長、これも合併の一つですけどね、やっぱり心ですよ。もっともっと子どもたちの目の輝きを曇らせないように、我々の仕事でしよ。園児たちはできないですよ。ぜひしていただきたいと思いますね。

市長は確かにひらめきは早い。判断力、決断力も早い。一生懸命サポートしてもらうんですね。しかし、相手に心が伝わらなければ、ひらめきは単なる思いつきになるんですね。

言い方は悪いですけどね。決断の早さが説明不足につながっていくんですよ。だから、もっとゆっくりでいいじゃないですか。取りかかるのは早く、ゆっくり。そして、しなければならぬのは逆に抱え込まないことなんですね。早く民間を信用して立ち上げて、動き出したら民間活力ですか、手渡してやる、それが必要だと思います。一生懸命やられるのはわかります。しかし、先ほど宮本議員もおっしゃっていましたが、説明不足、これはやっぱり思ってください。もっとスピードを緩めて、そして説明をしていく、こういう姿勢が大事だと思います。

そして、例えば、がばいとかレモン、がばいばあちゃんとかは非常に夢のあったですね。私のようなばかな頭は余り考え切らんやった。例えば、がばい武雄のいなかレモンとか、がばい武雄のみよちゃんまんじゅう——これはいところでしょね。とか、がばい武雄の何とかと言いながらをやる。そしてもう1つ、市長、私はぜひこれだけ見たいのが1つあるとですよ。バスの窓に「呼子朝市とがばい武雄の灯籠まつり」とか、そしたら泊まりは武雄ということでしょう。今後発展していきたいと思えますけれども、ぜひともそういうことが必要だと思いますね。

北方の話ばかりですけども、北方で松本町長が昭和49年に町長になられて、毎月10日午後8時から、8期32年間、1カ月も欠かさずされたのが夜の町長室なんです。いつでもいらっしょいと。それはすべて解決するというじゃないんですね。人の悩みを聞いてやる。一緒に悩む、一緒に考える。それで、できれば早く解決してやる。そういう温かい政策を。市長は切れ者なるがゆえに冷たさが見えるとですよ。これは切れ者の宿命ですよ、あなたのですね。

だから、市長、金がないときは特にそのように心の行政が求められておりますけれども、答弁を求めます。

#### ○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

背中に汗を流しながら聞いておりました。確かにどんなに説明していても、市民の皆さんの心に届かないと、その施策、あるいは政策というのがなかなか機能しないなというのは、この3年間、特に市民病院をめぐるあり方について、ほとんど思いましたので、先ほどのスピード論の話も出ましたし、いろいろ話が出ましたけれども、来年度は多聞第一、多くの人から多くのことを聞いて、それを市政運営に生かしていく。そして、よく言われるのは、私は非常に早口であると。大体自信がないときは早口になりますけれども、ゆっくり話していこうと。そして、長くなりますけれども、「正」という漢字は、あるお坊さんから聞いたのは、一たんとまると、それが正しいということを受けましたので、一たんとまって踊り場で考える、そういうことを私はしていく必要があるのではないかというふうに思っております。

す。

市長を3年させていただいて、途中ちょっと空白はありましたけれども、させていただいて、だんだん武雄市のこともわかってきましたし、自分の内面のこともそれに合わせてわかるようになってまいりました。それを市勢発展のためにつなげていきたいと、このように決意をいたしております。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

あと1つだけ、どうしても合併で聞いておきたいのが、大町町との市町村合併を現段階でどう考えるかという問題なんですね、基本的にですね。いろいろあるかわかりません。基本的にどう考えるか。

といいますのも、病院問題も一段落と言ったら怒られるかもしれませんが、一定の方向を見た。そういうことで、また我々の任期があと1年しかない。大町はあと2年ありますけれども、我々の決意によって向こうも動くと思いますので、簡潔で結構ですので、市長の考えの基本をぜひとも教えていただきたいと思いますけど、よろしくをお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私個人、これは議会でも申し述べておりますけれども、やはりこれは隣人の自治体に対しては温かい気持ちを持つべきだろうというふうに思っております。そして、私は何よりも感謝するのは、やはり黒岩議員であります。こういった議会で合併の話を持ち出すと言ったら失礼になりますけれども、もっと議会で、一般質問の場であるとか、あるいは総務常任委員会になるかもしれません。さまざまな場でぜひ御議論を深めていただいて、その上で機運を高めていく。これは議会の持たれる役割は極めて大事だと思います。最終的にはこれは議会の議決になりますので、そういった意味で、一たん立ちどまって、議会の皆様方、市民の皆様方の御意見をしっかり聞いていきたいと、このように思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

実は私、請願書を出そうかな、どうしようかなと迷ったんですね。しかし、請願書を出す勇気もなかったんですからね、一応市長と話をしながら、あるいは問題点、問題点で解決できるかできないか考えながらいったらなということで質問したわけでございます。わかりました。

次、病院問題に移りたいと思います。

資料はやっていると思いますけれども、いいでしょうか。社会医療法人ですね。市長、私が1年半かけて市民病院問題を全く知らないときからずっといろいろ勉強させられて、考えてきた結論が、これだというのが出てきたんですよ。つまり市民病院の役割、これは自治体病院というのは、市民病院というのは、公的な医療ですね。これはしょっちゅうもめよるところですね。それと赤字問題、財政問題。だから、赤字をとって民営化したら公的医療ができないじゃないとか、公的医療をするために赤字でもいいとか、しょっちゅう1年半、ここで論議してきたと思うんですね。この前、ふと見たところが、今問題なのは赤字解消と公的医療ができれば一番いいわけでしょう。一番いいんですよ。そのことができるかどうかで1年半ここで論議しましたけれども、一つの結論ですけれども、今、池友会が、この前ですけれども、社会医療法人の申請をしているんですよ。社会医療法人、御存じですか。——はい、御存じですね。この社会医療法人、私も初めて聞きました。

それで、これは公益性の高い病院ですよ。（パネルを示す）これは資料ですけれども、社会医療法人とは、現在、医療法人というのは地域の医療の主役を担っている。最近では、どこでも一緒ですけれども、公益性の高い自治体病院、つまり公立病院が地方財政の逼迫化、財政危機なんですよ。財政危機で赤字体質の慢性化、どこでも一緒だと。非効率的な状況ですよ。あるいはまた医療機関自体の閉鎖、銚子市ですね、あちこちありますね。これに陥ってきている。そこで、その受け皿として地域の医療の主役を本格的に担いつつ、医療法人の民間としての運営上の知恵を生かし、効率的に取り組むため、平成19年度より公益性の高い社会医療法人ができた。つまり自治体の受け皿としてできたんですね。これによって特別医療法人が24年になくなりますね。逆にいえば、特別医療法人をなくすからこれができたのと一緒なんです。

今現在、全国で昨年末で12法人が社会医療法人になっております。その特徴というのは、救急医療、へき地医療など公益性の高い医療を担わなければならない。自治体病院民営化の公募の際に一般の医療法人よりも有利になる。これは公益性の高い社会医療法人ですよということだから有利になるんですね。さらには社会医療法人債を発行する場合、財務諸表監査が義務づけられるんですね。それと社会医療法人債の発行が可能。それから、自治体病院の遊休病床が優先的に割り当てられる、これが社会医療法人なんです。これを池友会が目指しているんですよ。そしたら、我々が地域のためにやるのかと、銭もうけするとやなかとかと、ヘリコプターばかりつくって——それは違ったですね。いろいろ言われますけど、これできないんです。公益性の高い病院を目指さないとだめなんですよ。だから、いかにも、間違えてでしょうけれども、いろんな分を使ってペイしなければならないので、医療費にかけるように言いますが、できないですよ。いきなり飛んできましたね。国保に絶対はね返らん。はね返ったら大変ですからね。手が回りますからね。だから、そういう公益性の高い医

療法人を目指しているというんですね。

このことについて、市長、まずどう思われるかお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

池友会が社会医療法人の申請をされているということについては、承知をしております。これは非常に高いハードルがありまして、これを申請することそのものが非常に医療界で高い評価を受けているということ、そして、これがそういうふうにもし認可になると、それだけ高い公益性があるということが認められること。私は池友会がそういった医療面の促進という意味から、社会医療法人に申請をされているということ自体はすばらしいことだというふうに認識をしております。

もとより社会医療法人の説明は黒岩議員がお話ししていたとおりでありますので、私のほうからは省略させていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

それで公的医療の解決ができたんですね。赤字の解決もできたと思ったら、1つ問題が出てきたんですね。これはそういうところだから、税制の免除があるんですよ。私は7月16日の討論の中で、ぼろくそ言われましたけれども、やっぱり誘致企業の側面があるんだと言ったんですね。それは固定資産税なんですよ、欲しいのは。それが免除になるんですよ、社会医療法人でいけば。私は企業を誘致して、例えば、北方はよくやってきましたけど、5年なら5年、取れるけど、市が免除するのと丸々免除とは違うんですね。このことで非常に悩んでいますけれども、何とかこの社会医療法人もしてもらうて、銭も取られるごと、固定資産税もいただけるように、それはやっぱりいろんな方策を考え——というのは、市長、この病院だけじゃないですよ、今からずっと広げるといいますからね。中間市なんかすごいですよ、医療のまちね。広げていくから、やっぱり固定資産税は絶対ばかにしたらいかんですよ。ぜひともこのところをお願いしたいと思います。

それから、これは市長、私の部落なんですよけれども、ぽっかぽか・虹の丘館、ぽっかぽか・武雄館というのが北方に2つある。2棟で60戸ですかね。これはシニアマンションなんですよ。24時間体制の療養型の個人のシニアマンションですね。鶴崎理事長は病診連携、病病連携を打ち出されておるんですね。本当にやってくれると思いますけれども、このシニアマンションは施設や診療所とちゃんと手を結んでいるんですね。診療所と手を結んで、往診にも来てもらうし、何かあったときはそこに飛んでいくという契約を結んでいる。そこまでしておられます。しかし、鶴崎理事長は病診連携はすると言っておられますので、ぜひとも病



診、診療所はこのぽっかぽかから何かあったときには送ってやれば、市民病院と診療所、施設とトライアングルつくっていただければ、すべてがよくなると思います。それはなぜか。それはぽっかぽかマンションの古藤社長ですよ。これは新聞に載ったんですけどね。新聞ですから、平均的なあれですね。「高齢化が進み、介護施設へのニーズが多様化するなか、県内で高齢者専用賃貸マンションの建設が活発化している。24時間の介護体制が整い、65歳以上なら誰でも入居できる」「各30部屋のマンションに介護施設を併設し、介護士らが24時間体制で常駐しているのも売り。「死ぬまで安心して暮らせる場所」を求めるお年寄りと家族のニーズに合致した」と。ここはちょっと普通と違うのは、「要介護度が低くなると施設を出なければならぬケアハウスなどもあり、施設を転々とするお年寄りは多い」。そこで、入居時にいつも聞くのが、ずっと入っていられるのかという質問の多さだと。そこで、「入居基準を設けないことと同時に、何十年と続けてきた習慣をできるだけ継続してもらおう」、つまり先ほど言いました死ぬまで安心して暮らせる介護付きのシニアマンションですよということですね。そういうことを目的でやっておられるですね。だから、ここがしていることが、在宅では生活が困難で、病院や施設を転々とされている方、先ほどもだれか出ましたね。それから、急性期が過ぎて退院を迫られている方、これも出ましたね。あるいはまた、病院から出ても家族がどうしても受け取れなくて、普通の介護施設にも行けない人、何とか難民で出たですね。そういうところはぜひという形で、今、北方にできたんですね。

それはそれですけれども、今、施設と診療所とは契約を結んでいますので、今度、病院と結んで、よりお年寄り、あるいは診療所もよくなると思いますからね、そこら辺について、ぜひ市長が音頭を取って、そういうことを契約ができないかと思いますので、答弁を求めます。

#### ○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

まず、ぽっかぽかは、私は馬神のほうに何度か施設見学に行って、これはすごいところだなと思いました。本当に施設の雰囲気もいいですし、恐らく今後伸びていくのは、こういった形態が伸びていくんだろうというふうに思ったんですね。これは私に限らず、例えば、日経新聞の健康雑誌であるとか、いろんな新聞に、今、古藤さんが取り上げられていますけれども、古藤さんもおっしゃっているように、病院と診療所と、ぽっかぽかはぽっかぽかというふうに施設と三角関係というか、そういう関係をぜひ結んでいきたいというふうにもおっしゃっていますので、恐らくこれがきちんとできることになると、全国に向けた新たな福祉モデル、医療モデル、介護モデルの構築に当たるんじゃないかと思っておりますので、そういう面から、私たちといたしましては、市民病院等に働きかけてまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

ありがとうございました。事務長、2月26日、ドクターヘリがやってきたんですよね。初ですよね。10時56分、ちょうど4階で見ていたんですけれども、市民病院に入院中の女性、75歳の方ですね。脳腫瘍の手術のために和臼のほうに行かれたんです。御存じですよね。これは非常に危ない箇所だということで、ここでは施設が怖いと。向こうがスタッフも多いということらしいですけれども、ドクターヘリが初めて飛んだんです。注目もありますので、そういうときの経費その他どういうものだったのか、もう少し詳しいことがわかれば答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

古賀市民病院事務長

○古賀市民病院事務長〔登壇〕

2月26日にドクターヘリが参りまして、市民病院の入院患者を和臼病院のほうに運び、その後、手術を和臼病院でされるということで、御指摘のとおりございました。

経費面につきましてですけれども、ドクターヘリを運行することによる患者様の負担はないということでございます。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

武雄市にドクターヘリをつくるから、その分は患者から取られるとか、あるいはまた建物とか、そういう手術をすればどうだとか、患者を向こうに持っていくとか、くらし部長、そんなことはできないですよね。したら手が回りますよね。

そこで最後に、質問に行きたいと思いますが、最後にまとめますけれども、私は市長は確かに仕事はできる人だと思っております。それは実際です。しかし、先ほど言いましたように、たとえどんな立派な仕事ができても、市民の皆さんの心に響かなければ何もしなかったと同じだということを常に謙虚に忘れないでほしいと思います。

私自身、議員活動にはまだまだ3年たったって非常に不安を持っております。武雄市の議員さんたちについていけるだろうかとか、本当に不安を持っております。精いっぱい背伸びして頑張っておりますけれども、北方町や山内町の職員もやっぱり心のどこかにはまだまだ不安を持っていると思うんですね。まして北方や山内の一般の市民の方々は大変な戸惑い、先ほど出る出しましたけど、大変な不安を持っていると思うんですよ。市長はさきの洗礼を受けられて、やっぱり変わったという声が多いです。褒め言葉が多いですね。私自身もやっ

ぱり変わられたなと思います。しかし、さらに市民の皆さんに対して、温かい思いやりのある心、子どもやお年寄り、そして社会的に弱者と言われる方々のつえとなって、盾となって頑張ってくださいように、そしてまた市民、特に北方町や山内町の皆さん方に武雄市と合併してよかったと言われるような温かい心ある血の通った行政をしていただきますよう苦言を呈しまして、一般質問を終わります。どうもお疲れでした。ありがとうございました。

**○議長（杉原豊喜君）**

以上で29番黒岩議員の質問を終了させていただきます。

それでは、以上で本日の日程は終了いたしました。

なお、明日3月13日は武雄市内の中学校で卒業式が実施されることになっております。よって、明日の議会は午後1時に開会し、一般質問を行いますので、よろしく願いいたします。

それでは、本日はこれにて散会いたします。大変お疲れさまでした。

散 会 16時44分